

第二 名宛人ヲ以テ其所有者ト定ムル國々ハ加那太、埃及、西班牙、西班牙殖民地、北米合衆國、ベネズエラ合衆國、佛蘭西、アルゼリヤ、佛蘭西殖民地、希臘、日本、サンサルベードル、及ヒ土耳其ナリ

第三 伊太利及ヒ伯耳士亞ハ書留信書ハ之ヲ差出人ノ所有物トシ、伊太利ハ保險信書トモ、並信書ハ之ヲ名宛人ノ所有物トス

第四 大英國及ヒ英國殖民地、ビルヂン諸島ヲ除クハ郵送中ノ物品ノ所有權ヲ女皇陛下若シクハ郵便局長若シクハ名宛人ニ皈セリ

第一類ニ位スル諸國ノ驛遞局ハ差立國驛遞局若シクハ其差出人自ラ至當ノキニ之ヲ請求スルキハ其領内ニ遞送スル信書ヲ差留ムルコトヲ

許ス而シテ亞然の音共和國、澳地利、洪島、利抹丁、ダコシアンタルス、ハイチ、ホンドラス共和國、英領印度、モンテネグロ、パラゲー、荷蘭、荷蘭殖民地、

ペルー、羅馬尼亞、魯西亞、瑞西諸國ノ驛遞局ハ上ニ示スカ如キ事情ナキ

モ毫モ手續等ヲ用ヒスシテ其返還ヲ許スモノナリ

第二類ニ位スル諸國及ヒ殖民地ノ驛遞局中ニハ取戻ヲ請求スル差立國驛遞局ニ於テ至當ノ苦情起ルニ當リ總テ其實ニ任スル以上ハ規則

外ニシテ信書ヲ差出人ニ返還スルコトヲ許スモノアリ、埃及、北米合衆國、佛蘭西及ヒ佛蘭西殖民地是ナリ

加那太、西班牙、西班牙殖民地、ベネズエラ合衆國、希臘、日本、サンサルベードル、及ヒ土耳其ノ驛遞局ハ之ト相反シ、遞送中ノ信書ヲ差出人へ返還スルヲ許サス

其他昆倫比亞合衆國、及ヒリベリヤ共和國ノ驛遞局モ亦信書ノ返還ヲ許サハルヲ以テ須ラク第二項中ニ加フヘシ

伊太利及ヒ伯耳士亞驛遞局ノ中、前者ハ書留信書、保險信書ノ返還後者ハ書留信書ノ返還ノミヲ許ス

英國ニ於テハ獨リ諸卿ヨリ令狀ヲ發スルキノミ之ヲ遷延或ハ差留ムルヲ得香港ニ在リテハ遞送中ノ物品ヲ取戻スニハ殖民地ノ知事若シクハ領事ノ特令ヲ要スルモノトシトリニダドノ郵便局ハ差立國ノ驛遞局ヨリ差出人ノ名ヲ以テ請求セハ何等ノ郵便物コテモ之ヲ差出人へ返還スルヲ許シ而シテビルヂン諸島ノ郵便局ハ唯書留郵便物ノミ返還スルヲ許ス其他前項ニ登載シタル英國殖民地ノ驛遞局ハ悉ク其取扱中ニ係ル萬國郵便ノ信書ヲ差出人へ返還スルヲ拒メリ

○千八百八十二年ゴイテマラ共和國郵便事務

小栗栖香平譯

ゴイテマラ共和國驛遞總官ノ發布セル千八百八十二年ノ郵便事務報告ヲ案スルニ同國ノ郵便事務ハ彌盛大ノ域ニ達シ大ニ貨物並ニ智識ノ交換ヲ進歩セシムルニ至レリ

此報告ハ數年間ニ交換セシ郵便物數ノ簡單ナル説明ヲ以テ其端緒ヲ開ケリ其報告ニ依レハ千八百七十二年ヨリ千八百八十二年マテ即チ十年間ニ於テ郵便書狀ノ總數ハ十四万二千二百五十七箇ヨリ百四万四千三十三箇ニ増加セリ

郵便物數此ノ如ク増加スルキハ郵便物ヲ郵送スル脚夫ニ拂渡ス所ノ經費モ亦從フテ増加セサルヲ得ス該驛遞局ハ成ルヘク此經費ヲ減省セシカ爲メニアマチットラン、エキスキイントラ、チマルテナンゴ、ソロラト、ニカバム及ヒシ、エザルテナンゴノ驛遞諸局ト條約ヲ結ビ右諸局ト交換スル郵便ハ總テ驢馬ヲ以テ之ヲ遞送スルヲトナレリ
 ゴイテマラトサン、ジヨセ港トノ間ハ貿易頗ル繁盛ナルヲ以テ日々往復ノ郵便ヲ設置セリ蓋シ此往復ハ從來此線路ニ起リタル數多ノ不規則ヲ排除スルノ良方ナリ

首府ノ配達事務ハ集配人二名ヲ以テ之ニ充ツ其方法迅速ニシテ且ツ甚タ安全ナリ

ゴイテマラト前記西方諸州間ニ於ケル郵便交換ノ結果ハ實ニ充分ナリト云フヘシ千八百八十一年四月ヨリ十二月マテ右諸局ニ到着セシ郵便物ノ總量ハ一万五千六百「ポンド」ニシテ其遞送ノ爲メ脚夫ニ拂渡シタル經費ハ四千六百八十「ペソ」ナリシカ前記ノ條約ニ依リ千八百八十二年ニ至リテハ僅カニ千八百「ペソ」ニ減シ其省減ノ額ハ實ニ二千八十「ペソ」ノ多キニ達セリ加之ナラス其遞送ノ方法ハ従前ノ法ニ比スレハ甚タ順正ニシテ且ツ頗ル迅速トナレリ

〔附註〕一「ポンド」ハ四百六十「グラム」

二「ペソ」ハ百「セント」ボ即チ五「フラン」

第三ニハ脚夫ノ報酬金ヲ減シテ大ニ經費ヲ節約セリ是マテ脚夫ノ遞

送スル郵便物最高量ハ二十「ポント」ニシテ其外ハ五「ポント」ヲ増ス毎ニ報酬金二「ペソ」ヲ拂渡シ來レリ左レハ郵便物ノ増加ニ由リ遞送費ノ額ハ每一ヶ月三百「ペソ」ノ多キニ達セリ

今日ハ最高量ヲ増加シテ三十「ポント」トシ其餘ハ五「ポント」ヲ増ス毎ニ一「ペソ」ヲ拂渡スコト、ナセリ此改正ハ其經費額ヲ減少スルノミナラス大ニ郵務ニ従事スル故ヲ以テ兵役ヲ逃ル、モノ、數ヲ減少セリ該驛遞局カ千八百八十二年ノ郵便物遞送ノ爲メニ準備セシ豫算額ハ二万四千「ペソ」ナリ本年度ハ前年度ヨリ郵便物ノ數大ニ増加セシモ其豫算額ハ前年度ト全ク同額ナリキ然ルニ前記ノ改良ニ由リ其實費ハ却リテ一万八千五百六十三「ペソ」三九「セント」ボニ止マリタレハ豫算額ヨリ少ナキコト五千四百三十六「ペソ」六一「セント」ボノ多キニ至レリ從來書留郵便物ノ名宛人ハ自ラ中央局ニ至リテ之ヲ受領スルノ成規

ナリシカ此不便ナル方法ヲ廢シ書留郵便物ハ郵税ヲ增加スルコトナリシテ名宛人ノ住所ニ配達スルコト、ナセリ

其他内地郵便物ノ書留手数料(七十五)セントポ(シ)テ萬國郵便ノ書留手数料ト同一ナラシメタリ又々書留郵便物ノ封皮ヲ二種ニ區別シ第一ハ尋常書留郵便物ニ使用スヘキモノトシ其手数料ハ十五(セント)ポニ減シ第二ハ價額公記郵便物ニ使用スヘキモノトシ其書留手数料ハ其公記ノ二厘五毛(千分ノ二半)トナセリ

千八百八十二年ニ於テゴータマラ郵便ヲ以テ遞送シタル書留郵便物ノ數ハ六千五百六十九箇ニシテ此内紛失シタルモノハ唯ク一箇ノミナリキ而シキ此紛失ハ郵便局長ノ不注意ヨリ書留郵便物ニ關スル規則ヲ遵守セサルガ爲メ起リシモノナリ又々書留郵便物交換規則ノ改良アリテヨリ尋常書狀中ニ貨幣、銀行手形若シクハ持參人拂渡証券等

ヲ封入スルコトヲ禁止セリ此禁止ニヨリ從來驛遞局カ搜索スル能ハサル高價物品ノ紛失ニ對スル苦情消滅セリト云フ

此一周年間ニ於テ大ニパナマニ開設セルゴータマラ郵便出張局ノ事務ヲモ改良シ郵便局ノ記録ヲ保存スヘキ命ヲ蒙ルレリ又ゴータマラニ新設セシ郵便局ノ數十七ヶ所ナリト云フ

前ニ記セシカ如ク千八百八十二年中ニ遞送セル各種ノ郵便物總數ハ百四十萬四千三百箇ニシテ其中六十九萬三千八百四十七箇ハ差立郵便物七十萬六千九十六箇ハ受取郵便物ナリ

書狀郵便ヲ以テ交換セシ物品ハ左ノ如シ

官用書狀

一二、五二五九、

私用書狀

五七、六三五七、

印刷物

六二、八六四七、

書留及ヒ價額公記書狀

一、七〇六九、

商用新聞

五三四、

離形及ヒ商品見本

一三七〇、

都府ニ投函セル府内郵便物

五、〇八〇七、

總計

一四〇、〇〇四三、

此總計中萬國郵便物數二十六萬二千五百四十六箇ヲ含蓄セリ其内十
一萬五千四百九箇ハ受取郵便物ナリ

右二十六萬二千五百四十六箇ノ郵便物ヲ交換セル各國ヲ列序スルト

キハ左ノ如シ

北米合衆國	五、二六〇六、(イテマラ發)	一、四〇九八、	同所受領	三、八五〇八、
コロンビア	二、九一八八、(同)	七二八三、	同	二、一九〇六、
佛國及同殖民地	二、七四〇四、(同)	七二二一、	同	二、〇二八三、

英國及英領諸殖民地	二、〇五二八、(同)	六八八九、	同	一、三六三九、
日耳曼	一、七七一〇、(同)	六一四九、	同	一、二五六一、
西班牙及同殖民地	一、六三〇七、(同)	五七一、	同	一、〇五九六、
ホンドラス共和國	一、五〇三六、(同)	一、一六二五、	同	三四一一、
ニカラガ	一、四三三七、(同)	九九九八、	同	四三二九、
サンサルヴァドル	一、二八五五、(同)	一、〇七八三、	同	二〇七三、
メキシコ	一、二八三八、(同)	六八三四、	同	五九九二、

千八百八十二年驛遞局ノ收入ハ二萬五千八百七十二、ペソ三十三、セソ
 タボニシテ其經費ハ二萬八千六百二十三、ペソ五十七、セソタボナリ
 若シ官用書狀ニ課スル税額ヲ一萬二千三百十八、ペソ六十八、セソタボ
 ナリト算シ之ヲ前記ノ收入ニ加フルトキハ其總計ハ三萬八千二百三
 十一、ペソ五、セソタボナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ曩キニ建議アリシ如

ク若シ官用書狀ノ無税遞送ヲ廢止スルニ至ラハ驛遞局ハ管ニ其責任ヲ盡クスノ途ヲ得ルノミナラス亦以テ此特權ノ濫用ヲモ撲滅スルヲ得ヘシ

◎雜記

○英國驛遞院 英國驛遞院ハ價額公記ノ小包郵便物ヲ内國郵便ニモ差出スコトヲ許シ且ツ此等ノ郵便物ニシテ若シ紛失又ハ損傷アルキハ其辨償ノ責ニ任スルコトト定ムルヤニ聞ク尤モ其保險料ハ十「ポンド」ステルリング(二百五十「フランク」)毎「ペンニー」ノ由ナリ

○英國小包郵便 同郵便ハ客年八月一日ヲ以テ始メテ實施セシ所ナルカ今新聞紙ノ報スル所ニ依レハ實施以後九ヶ月間ノ收入豫算額ハ二十四萬「ポンド」ナリシニ其實收入額ハ僅カニ十五萬五千「ポンド」ニ過キス然レハ本年度中ノ收入金ハ二十四萬「ポンド」ニハ越ヘサルヘシト

思ハル

○訃音 獨逸帝國驛遞省樞密院長兼電信局長エル、エフアル、エー、ミズネル氏ハ去ル四月三日ヲ以テ伯林府ニ病死セリ

氏ハ千八百二十三年五月四日ニ生レ千八百四十五年十一月七日始メテ普國郵便官吏トナリ千八百六十五年普國郵便委員ニ選マレ千八百六十七年遂ニ普國郵便總長ニ任セラル千八百七十四年驛遞省ノ徵ニ應シテ郵便電信上等管理局ノ吏員トナリ死ニ至ルマテ第二局長ノ職ヲ奉セリ氏ハ千八百八十年也理聯合條約ニ於テ日耳曼第二議員トナリ頗ル議會ノ爲メニ盡力シタレハ其名益々世間ニ聞知セラレタリ

「ドイナ」ライヘサント「エイガル」新聞紙ハ氏ノ訃音ヲ報シテ曰ク「ミスチル」氏ハ甚々組織ノ才ニ富メリ其驛遞省ニ奉職ノ間ハ唯孜々トシテ驛遞事務ヲ進歩セシムルコトニ盡力シ遂ニハ上等郵便管理局中有力者

ノ地位ヲ占ムルニ至レリ且ツ氏ハ其性質淳良品行端正ニシテ頗ル友人ノ親愛ヲ得タル人ナレハ氏ノ名ハ永ク其交友中ニ朽チサルヘシト

(以上數件萬國郵便雜誌抄譯)

○取消 交通公報第二號ニ於テ埃及郵便事務ノ變動ト題シタル一報ヲ萬國郵便雜誌中ヨリ抄譯セシガ近日着ノ萬國郵便雜誌ニ依レハ右ハ埃及國新聞紙ノ報道ニヨリテ掲載セシモノナレトモ全ク無根ノ由ナレハ取消ス

○野村萬國郵便會議委員 全委員ノ一行ハ去ル十三日佛船「ヴェルガ」號ニテ横濱ヲ拔錨サレシガ廿日午前一時無事香港ニ着シタル旨電報アリタリ

校正 福見尙賢

張局郵便物差立配達一覽表

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
山形局	全	九一四三	八〇九四	一七〇八〇	三三六八四	一〇四七五	二二	四〇〇〇	〇	一〇四九七
秋田局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
金澤局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
富山局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
福井局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
松山局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
岡山局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
廣島局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
赤間關局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
和歌山局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
德島局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
松山局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
多度津局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
高知局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
博多局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
大分局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
熊本局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
鹿兒島局	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇
總計	全	二二二七	二〇三〇	一六一七	三三八一	四七九	〇〇	二〇〇〇	〇	二〇三〇

明治十七年五月本局及各出

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
本局	全	五五八八	四八三九	一八四一	七三三〇	三三三九	二六	八〇六八	一五	一〇一七
京都局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
大阪局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
神戶局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
長崎局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
函館局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
新潟局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
高田局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
高崎局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
四日市局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
名古屋局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
大津局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
岐阜局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
長野局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
福島局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
仙臺局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
青森局	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七
合計	全	九〇九〇	五八八七	一六〇三	一三〇八	一四七九	二六	二〇〇〇	〇	一〇一七

明治十七年七月十七日出版屆

驛 遞 局 藏 版

東京々橋區竹川町二十番地

賣 捌 所

報 行 社

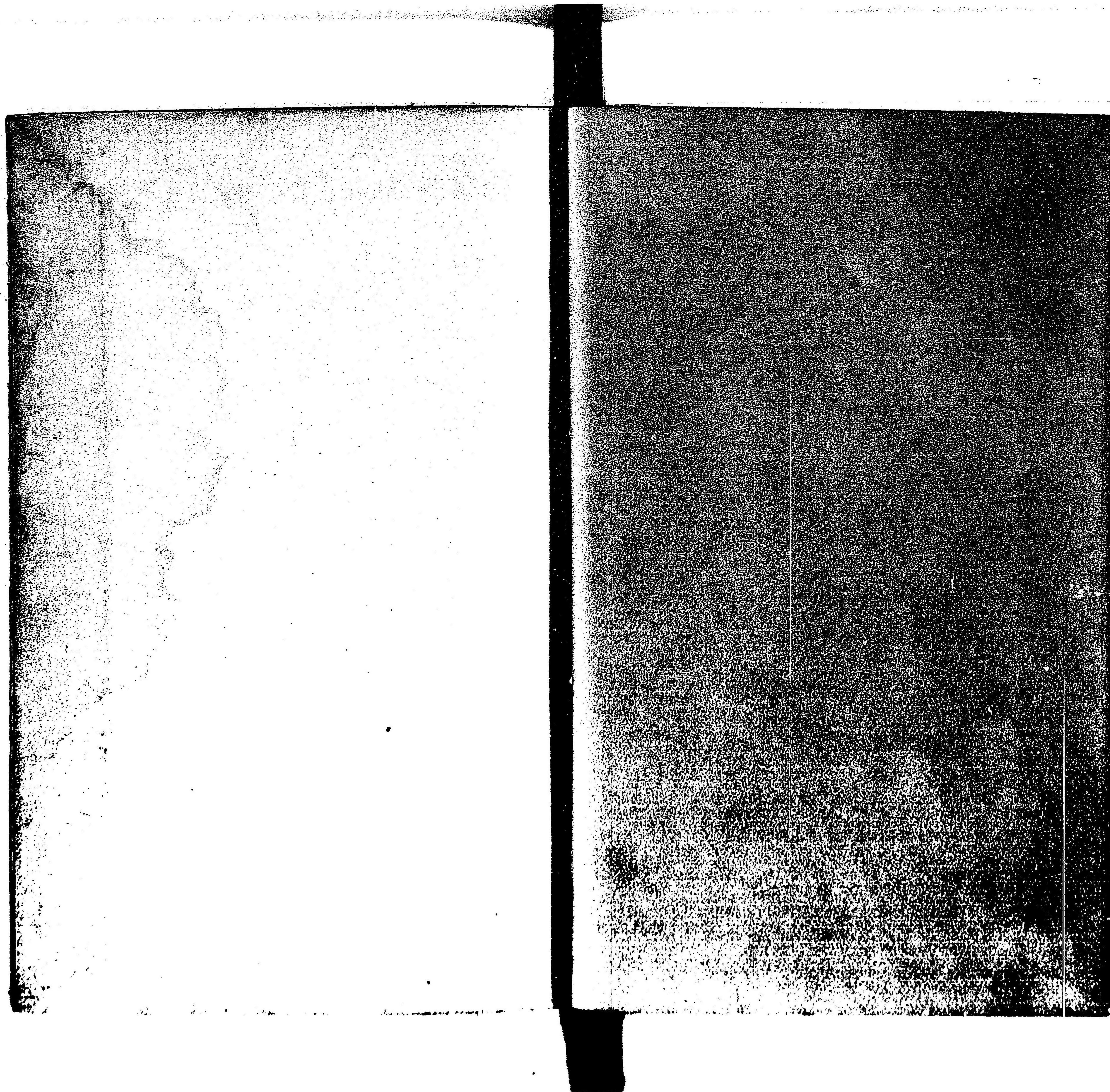
定價金拾錢

交 通 公 報

定價一部金拾錢 六部前金九錢 十二部前金八錢
第一號第二號第三號發兌但郵稅壹部金壹錢

七月廿一日

逡局交付



通公報

第四卷

圖書圖			
冊	號	架	號

特 51

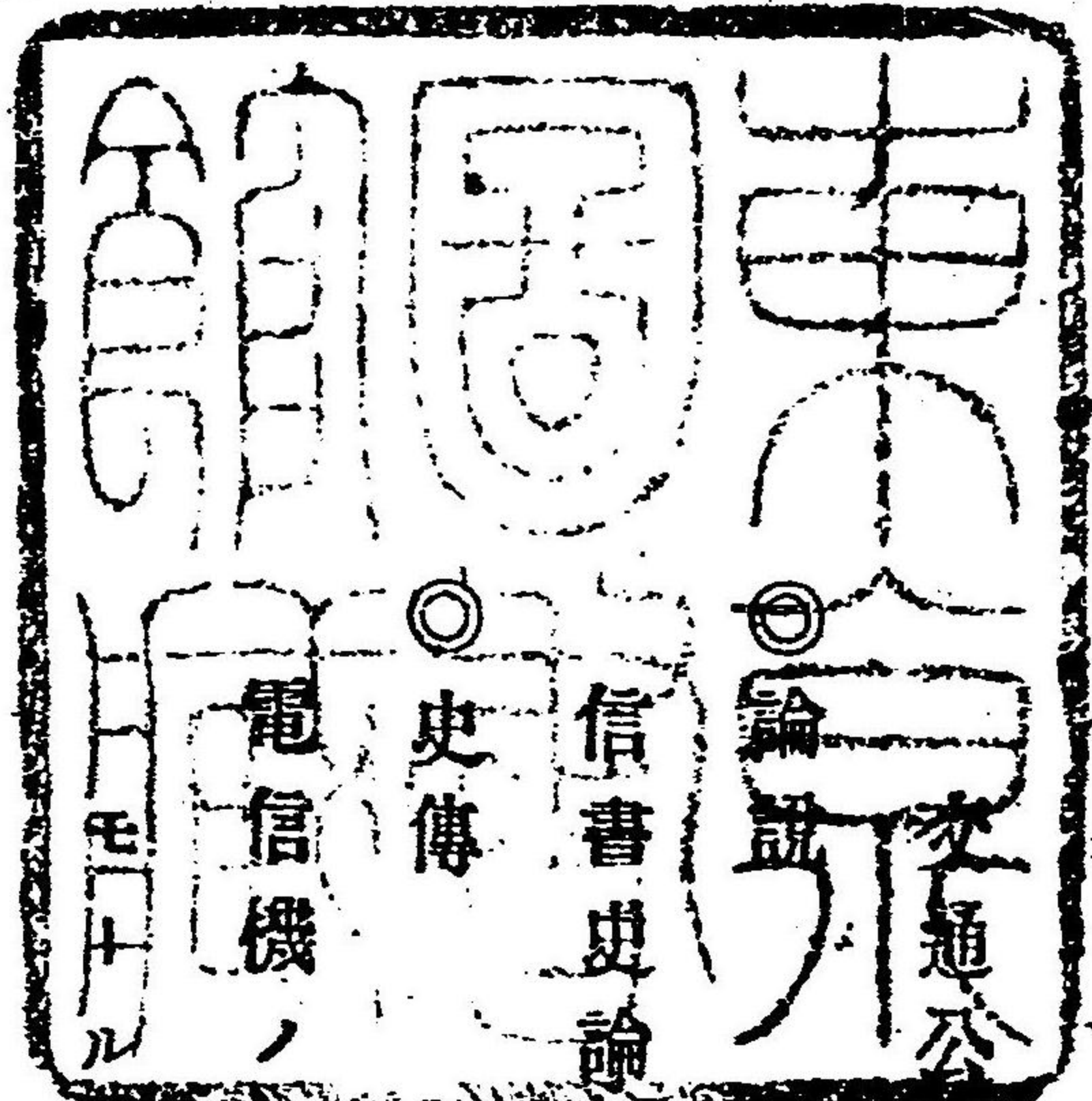
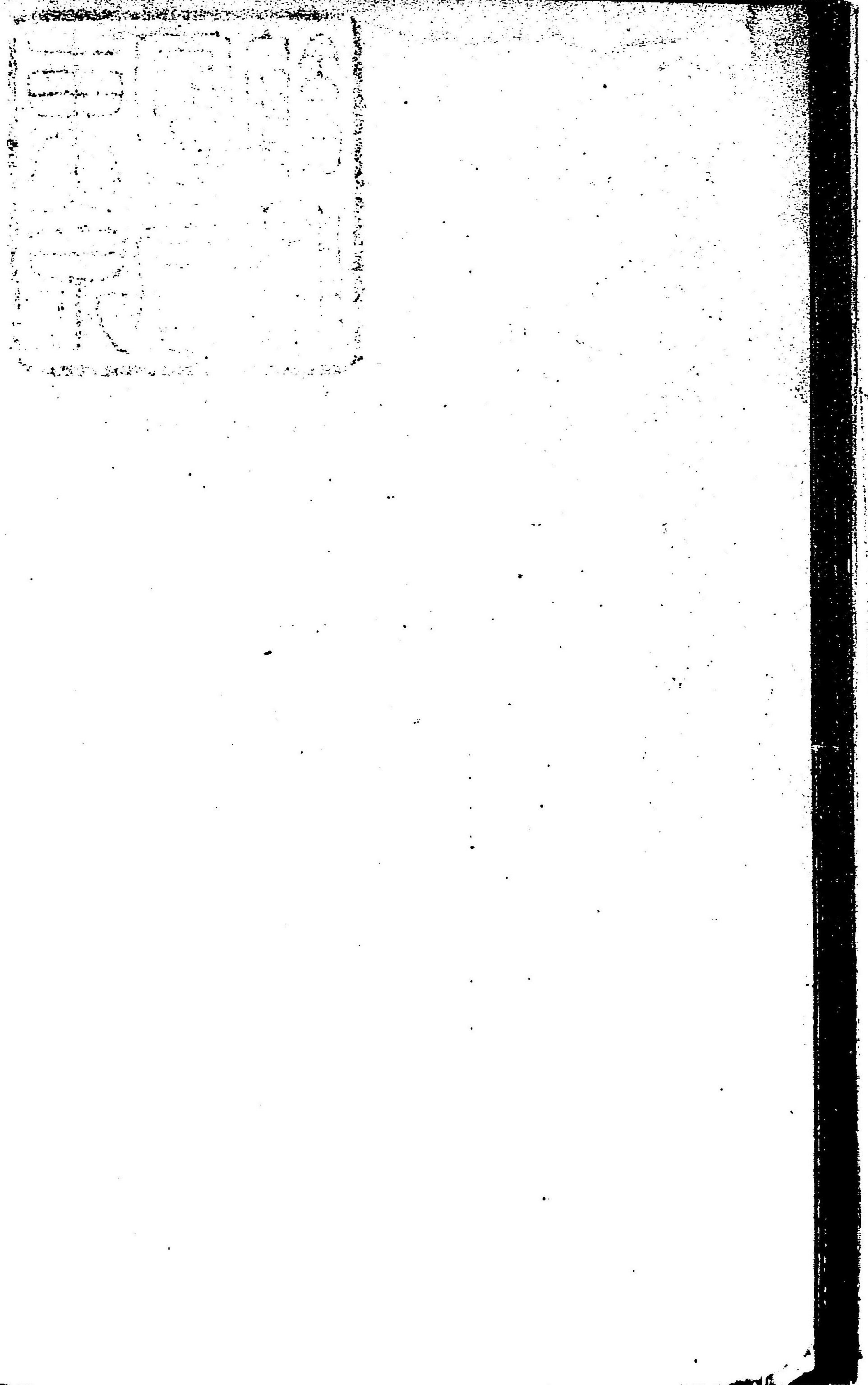
459

驛遞局總官官房取調科編纂

交通公報

第四號

明治十七年八月刊行



報第四號目錄

◎ 論說
信書史論 (承前)

小栗栖香平譯

◎ 史傳

電信機ノ發明者サミュエル、フレンレト、ブリース、
モートルス略傳

小栗栖香平譯

◎ 制度

瑞典驛遞貯金局

小栗栖香平譯

佛國驛遞電信省ノ組織 (承前)

森 則義譯

獨逸國新聞像約購求法 (承前)

渡邊醇之助譯

◎ 雜記

◎ 統計

本局及各出張局郵便物差立配達一覽表
郵便聯合諸國內地郵便統計第二表

交通公報第四號

◎論說

○信書史論(承前)

マルキルチ郵便總長ローベル寄送
小栗栖香平譯

ローベル氏ノ說ニヨレハ此時代ヨリロツタルダムノエラスマス時代
ニ至ル迄一モ此等ノ規則ニ適合スル所ノ書翰ヲ認メタルモノナシエ
ラスマスハシセロニ次キ羅典語ヲ以テ「デー、エビストリス、コンスクリ
ペンデス」ナル書ヲ著ハシ書狀文例ヲ殘セシ人ナリ
種々ノ書式ヲ附記セル往古ノ尺牘楷梯ト稱スル書ハローベル氏ノ著
書中ニ見ヘサレハ書翰認メ方ニ付テ一種ノ指南車トモ稱スベキモノ
ナリ往古ハ今時ノ如ク書翰ト他ノ公文トノ區域甚タ明瞭ナラス日用
生ズル事件ノ如キハ人々ノ意匠ニヨリテ之ヲ認ムルコトヲ得ス必スシ

モ口牌又ハ慣習ニテ定マリタル法式ヲ用ザルベカラス左レハ其事件
 全シキ時ハ其祖其孫皆同一轍ノ書式ヲ用井タルヲ明カナリ此等ノ尺
 牘楷梯中ニハ第五世紀頃ノ書狀アリ現時此等ノ書ハロジエール氏之
 ナ佛國ニ印行シロッキンゲル氏之ヲ獨逸國ニ出版セリ散文若シハ
 詩頌ヲ以テ正シク書翰及ヒ公文ヲ認ムルヲハ概シテ之ヲ「ヂクテール」
 ト稱シ書翰認メ方ノ技術ヲ「アルスヂクタンヂ」ト稱セリ第十一世紀ノ
 終リニ於テ「モント、カッシ」ノ院ニ於テ編纂セシ書狀及ヒ公文類ニ係ル
 理論ハ其名特ニ著明ナルモノナリ該理論ノ主唱者デ「コン、アルベリ
 ヲ」チハ「ヂクタンメン」即チ書狀ヲ別チテ五部トナセリ第一「サル、ユダナチ」
 即チ起筆賀辭ノ部、第二「カプタチオ、ベネボレン」チエ「即チ讀者ノ注意
 チ喚起スル部、第三ナルラチチ」即チ書翰ヲ認ムル目的ノ部、第四「ベナチ
 オ」即チ（筆者若シ或ル事件ヲ通報スルノ目的ナルト否トニ從フテ）要求

又ハ依頼ノ部、第五「コンクリ、ユシオ」即チ文意ヲ結束スルノ部是レナリ
 第十七世紀ニ於テハ之ヲ分チテ十二部トナセリ
 前記ノ羅匈語ノ用文章ハ伊太利佛蘭西獨逸ニ於テ之ヲ出版シ其本文
 若シクハ附録中ニ古人ノ作例ヲ附記セリ各國皆其國語ヲ以テ此用文
 章ヲ出版スルニ至リシハ出版術大ニ進歩シタル第十五世紀ノ後半紀
 ニアリ而シテ此等ノ書籍ハ古代羅匈語用文章ノ翻譯ニアラサレハ多
 少之カ法ヲ摸倣セシモノナリ第十六世紀後ニ至リ意チ書翰ノ表書ニ
 注キ遂ニ之カタメ書翰表書認メ方ニ關スル書籍ヲ出版スルコ至レリ
 而シテ用文章ハ「エピストル、ブツク」「レトリック」「セクレタリス、アルト」等
 ノ異名アリ又時ノ變遷スルニ從フテ公文ト書翰トノ區別起リ公文ハ
 別ニ集録シテ之ヲ出版スルヲトナレリ
 書翰ハ其材料ヲ以テ本トシ其体裁ハ之ニ次クモノナレハ体裁ヲ重シ

ナルノ慣習ハ漸次ニ衰へ材料ヲ貴フノ風自ラ俗ヲナセリ故ニ書翰ハ其材料ニ從フテ之ヲ公用文ト私翰トノ二種ニ大別シ再ヒ之ヲ數多ノ階級ニ細分セリ又第十七世紀以後殊ニ佛國ニテ流行シタル書翰ノ一種アリ「ビルレット」ト名ツク此「ビルレット」ハ各種ノ儀式ヲ省略シ唯簡單ニ通信事件ノミヲ記スルノミニシテ今日ノ郵便葉書ハ皆此「ビルレット」ニ類スルモノナリ顧フニ上古各種ノ煩雜ナル法式ニ依リテ書翰ヲ認メ得ルモノハ僅カニ二三ノ人物ノミナリシガ屢移リ物換リ今日ニ於テハ下等人民ニ至ルマテ容易ニ之ヲ利用シテ通信ヲナスニ至レリ

吾人が今日書翰認メ方ノ術ト稱スルモノハ昔時ノ博識者ガ筆ヲ取リ印ヲ捺スルニ巧妙ナル「ナ」云フ「オ」アラスシテ文物開進ノ結果タル會ノ産物ヲ云フナリ

第十六世紀ヨリ後書翰認メ方ノ術暖々トシテ進ミ佛國ニ於テハ「パスカル」ヴォアチユール「マダム」ド「セヴィゲラシーヌ」ヴォルテール「ルソー」ノ諸氏英國ニ於テハ「スウィフト」ポープ「テンブル」アッヤソン「ロッシュ」チエストルフ「キール」ド貴女「モンタグー」スタルンノ諸氏獨國ニ於テハ「ゲルレルト」クロープ「ストック」レッシュン「グザ」キーランド「カント」ゴース「レ」レル「ウキル」ヘルム「フォン」ボルツ及ヒ「ボエール」チノ諸氏皆書翰認メ方ヲ以テ其名一世ニ噪ガシカリキフライヘル「フォン」スタインノ著書中「モ」ユメンタ「セル」マニア「ヒストリ」カ」ト稱スル一章ニハ中世ノ書狀ノミヲ集録セリ又近世ノ書狀ヲ纂輯セルモノニシテ最モ著名ナルモノハリ「コー」ヒ氏ノ編輯ニ係ル「千七百十三年」ヨリ「千七百三十七年」ニ至ル帝「王」公ノ發セル名翰集ト稱スルモノ是レナリ其他古今諸大家ノ書翰ヲ集録セルモノ極メテ多シ然レモ只々最近ノ四世紀ニ付テ

云へハ獨逸國ニハロベルトノ著書ノ如ク書狀認メ方ノ進歩ヲ論セシ
モノハアラサルナリ
前ニ記セシロベルト氏ノ著書ハ多ク古代名士ノ書翰ヲ集録セルノミ
ナラス其中數章ハ書翰ノ材料器具筆墨鉛筆ノ適否古代書翰ノ法式及
ヒ郵便又ハ飛脚ヲ以テ之ヲ送致スルノ方法ヲモ詳論セリ(完)

◎史傳

○電信機ノ發明者ガミユール、フヒンレー、ブリース、モールス略傳
小栗栖香平譯

技術家ニシテ發明家ノ譽レアルガミユール、フヒンレー、ブリース、モ
ルス氏ハ千七百九十一年四月二十七日マツサナニセツツ州チャーレス
街ブリード岡ノ麓ニ生ル父ハ神學博士ニシテモールス地理書ノ著者
タルレヴェレンド、ゼデナア、モールスナリ氏年甫メテ十四エール中學

校ニ入りテイニルリマンノ二博士ニ就キ電氣學ヲ學フ是レ後年其名
モールスヲシテ電氣ト異名同義タラシメシ發端ナリ氏ハ幼時ニハ學
理ヨリモ寧ロ深ク技術ヲ好ミシカ遂ニ千八百十一年當時米國技術師
ノ泰斗タルワシントン、アーネソン氏ノ門ニ入り師ニ伴ハレテ英國ニ
遊フ四年其技大ニ進歩セリ然レトモ千八百十五年米國ニ歸リ史書ノ
免許狀ヲ得ント謀リシモ遂ニ其志ヲ達スルコトヲ得サリキ其後チヤ
ーレストンニ於テ肖像ヲ畫クコトヲ研究シ二年ノ星霜ヲ送り又華盛
頓府ニ移リ再タヒアルスニニ轉シ終ニ紐育府ニ占居セリ千八百二
十五年、デザイン國立習學院ノ創立ニ就テハ氏實ニ與リテカアリ困リ
テ其校長ニ撰マレ千八百四十五年迄其職ニ居レリ
千八百二十七年ヨリ再タヒ電氣ノ研究ニ着手ス此年コロンビア中學
校教授ゼー、エフ、ダナ氏ニ就テ磁電學ノ淺近ナル事實ヲ學習セリ然レ

トモ尙ホ技術ヲ愛スルノ情厚キヲ以テ千八百二十九年再クヒ歐洲ニ遊ヒ舊師ニ就テ画法ヲ鍊磨セリ

千八百三十二年氏米國ニ飯ル此年ヨリ全ク技術ヲ捨テ、學理ヲ研究セリ同年十月一日郵船「ソルグー」號ニ搭シ「ハーブル」港ヲ拔錨スルヤ偶一船中乗合客ト共ニ磁電ノ性質ヲ論セリ氏遂ニ曰ク若シ電氣循環中其發顯ヲシテ何レノ點ニ於テカ目視スルヲ得セシメハ何スレゾ電氣ヲ以テ通信スルヲ得サルノ理アランヤト此言ヤ決シテ新説ト云フヘカラス然レトモ氏ハ此説ヲ案出セシタメ心中已ニ數多ノ重大ナル想像ヲ得ルニ至レリ氏ハ嘗テ電氣ナルモノハ速カニ扯線ヲ傳フテ遠隔ノ地ニ達スルモノニシテ若シ其流通ヲ妨クルトキハ忽チ細火花ヲ生スヘキヲ知レリ又以爲ラク假リニ此細火花ハ語ノ第一部即チ一文字若シクハ一數字ヲ表シ其細火花ノ消滅ハ第二部ヲ示シ又細火花ノ消滅

スル時間又ハ其發顯スル時間ハ第三部ヲ表ハストセハ容易ニ字母ヲ組成シテ言語ヲ寫スコトヲ得ヘシト乃チ沈思數日遂ニ一ノ粗糲ナル機械ヲ造リ之ヲ其乗合客ニ示セリ之ヨリ後十二年間ハ孜々トシテ此機械ヲ完全ナラシメ之ヲ世ニ公ケニスルヲ勉メ毫モ他事ヲ顧ルコトナカリキ願フニ政府ガ「カピトル」ノ圓室ニ史書ヲ圖セシムルノ任ヲ氏ニ與ヘサリシハ氏ガ技術ヲ捨テ、心ヲ學理ニ傾ケシ一因ナリ此際氏ハ頗ル究困ニ陥井リ患難ニ遭遇セシモ毫モ屈撓スルコトナク唯兀々トシテ電信機ノ模型雛形等ヲ作ルコトヲ事トセリ千八百三十五年氏ハ發信地ヲ距ルコト遠クシテ電氣ノ効力稍衰フル所ニ繼立所ヲ設立シ更ニ通信ヲ繼更フルノ方ヲ發明シ翌千八百三十六年ニ至リ始メテ其當初ノ宿志ヲ達スルニ足ルノ機械ヲ發明セリ千八百三十七年九月二日長サ千七百「フート」ノ銅線ヲ紐育大學校中ニ架設シ友人數名ヲ

招キ其機械ヲ示セリ時コニニセルシーノ銅鉄工ヅエーイルナルモ
 ノアリ此電線ヲ見テ大ニ其構造ニ感シ是ヨリ永ク氏ノ事業ヲ幫助セ
 リト云フ其後千八百三十七年九月二十八日氏其機械ノ專賣權ヲ得ン
 コトヲ政府ニ請願シ又若干ノ距離ニ電線ヲ架設シ之ヲ實驗スルノ費
 用ヲ下附セラレンコトヲ國會ニ請願セリ政府ハ直チニ其願書ヲ商法
 會議所ニ下附シ之ヲ審議セシメ會議所ハ異議ナク之ヲ可決セシモ國
 會ハ故ナクシテ空シク其指令ヲ遷延セリ此際氏ハ歐洲ニ於テモ其事
 賣權ヲ得ンカ爲メ速ニ歐洲ニ向フテ解纜セリ然レトモ英國ハ已ニ他
 ニ發明者アリトノ口實ヲ設ケテ其願ヲ容レス佛國ハ一時專賣權ヲ附
 與セシモ直チニ之ヲ奪ヒ毫モ氏ニ報酬スルコトナク且ツ魯政府トノ
 商議モ亦均シク無効ニ屬シタレハ氏ハ徒ラニ三年ヲ經過シ愁然トシ
 テ紐育ニ還レリ

紐育公會ハ久シク猶豫セシ後漸ク千八百四十三年二月二十三日氏ノ
 願書ヲ認可シ直ニバルチモールヨリ華盛頓ニ電信線ヲ架設シ千八百
 四十四年五月二十四日始メテ之カ通信ヲ試ミタリ是ニ於テ其專賣權
 チ氏ト其組合ニ附與セシカハ國中忽チ數多ノ會社起リ合衆國中偏シ
 電信線ヲ架設スルニ至レリ其後千八百四十七年氏ハ法廷ニ於テ磁電
 通信ノ發明者タルコトヲ辨論シ容易ニ其申立ノ論ヲササルコトヲ証
 明スルヲ得タリ是ヨリ後其事業日チ逐フテ盛大ニ趣キ公衆モ亦益氏
 チ尊崇シ加之ナラス外國政府ヨリモ陸續尊稱チ氏ニ贈リ千八百五十
 八年ニ於テハ壞地利白耳義佛蘭西荷蘭ビードモント魯西亞法王領地
 瑞典トスカニー及ヒ伊太利ノ代議院等ヨリ其電氣機ヲ用ウルノ認可
 チ得ンカ爲メ四十万フランクヲ送與セリ氏ハ又第一回大西洋電線ノ
 沈設ニ盡カシ千八百五十七年ノ事業ニ於テハ身自ラ之ニ從事セシモ

不幸ニシテ其功ヲ奏スルヲ得サリキ千八百七十二年四月二日氏細育ニ卒ス市民相謀リテ其青銅像ヲ中央公園地ニ創立セリ嗚呼氏ノ機械ト電信用字母トハ今ニ至ルマテ各國過般之ヲ使用セリ豈亦蓋世ノ偉功ト云ハサルヲ得ンヤ

◎制度

○瑞典驛遞貯金局

小栗栖香平譯

瑞典政府ハ千八百八十三年ノ萬國郵便聯合雜誌第五號ニ記セシ如ク千八百八十一年十二月十六日ノ敕諭ヨリ驛遞貯金法ヲ設クルノ可否ヲ審議スルタメ驛遞局長ルース氏ヲ議長トシ臨時取調委員ヲ撰任セシカ千八百八十二年十二月二十三日右取調委員ヨリ驛遞貯金法ヲ設クルノ必要ナルコト並ニ該事務ノ章程ヲ申議セリ是ニ於テ政府ハ其重要ナル數條ヲ採用シ千八百八十三年六月二十二日ノ布告ニヨリ

「スイヂシライチヌダグ」ナル驛遞貯金法ヲ設立シ其開局時日ハ千八百八十四年一月一日ト定メ且ツ千八百八十三年九月二十一日ノ布告ト同十月二十四日ノ驛遞貯金總理局ノ布達トニヨリ貯金事務取扱細則ヲ規定セリ

其條款ニ依レハ瑞典驛遞貯金總理局ノ目的ハ公衆ノ貯金ヲ預リ之ヲ有益ナル資本ニ充テ以テ利子ヲ生セシメ貯金人ノ望ニ依リ何時コトモ之ヲ拂戻スノ準備ヲナスコアリ(皆國庫ノ保証ヲ有ス)而シテ何人ヨラス其一身ノタメ若シクハ他人ノタメニ貯金ヲ預ケ込ムヲ得其預ケ金ハ現金若シクハ貯金切手ヲ貼附シタル貯金簿又ハ貯金局ノ資金ヲ運轉スルヲ許可サレタル証書ノ切取利札ヲ以テ預ケ込ムヲ得ベシ而シテ貯金受拂ハ通常開局時間ニ於テ貯金事務取扱ヲ命セラレタル各郵便局之ヲ取扱フモノトセリ

貯金ノ最少額ハ「クラウント」定ム縦令ヒ預込金額此最少額以上ナル
 モ「クラウン」未滿ノ端數ハ之ヲ預ケ込ムヲ許サス「クラウン」未滿ノ
 貯金ヲ獎勵スルタメニハ郵便局及ヒ驛遞貯金總理局ノ指定セル私立
 賣捌所ニ於テ價額「十」オールノ貯金切手並ニ貯金簿ヲ賣下グルナリ此
 貯金切手ノ大小ハ瑞典郵便切手ニ均シク中央ニ重圈ヲ画キ其内ニ瑞
 典國ノ徽號ヲ圖シ其重圈ノ間ニ「スヴリゼス、ボスト、スバルヤンク」瑞典
 驛遞貯金局ノ語ヲ記シ其上面ニハ一座ノ玉冠ト一流ノ毛布トヲ寫セ
 リ切手ノ價額ハ四隅ニ之ヲ記シ其上部ノ兩隅ニハ文字ヲ以テ下部
 ノ兩隅ニハ數字ヲ以テセリ而シテ下面ニハ一頭ノ獅子ト「スバルマル
 ケ」一語ヲ記セリ而シテ百五十「クラウン」以内ノ貯金切手ハ何等ノ保
 証ヲモ差出サシムルコトナク之ヲ私立貯金取扱所ニ下附スルコト得又
 貯金簿ハ切手一枚宛ヲ貼附スヘキ區畫十區ヲ有スル式紙ニシテ一度

ニ貯金切手ヲ貼附スルモノニハ無代價ニテ之ヲ下渡シ十區共悉皆貼
 附シ了リタルモノハ現金全樣驛遞貯金總理局ニ預ケ込ムヲ得ベシ始
 メテ貯金ヲ預ケ込マント欲スルモノハ其貯金ヲ受領スベキ人ノ姓名
 出生年月及ヒ其職業等ヲ明記シ若シ其人未丁年ナレハ其兩親ノ名ヲ
 モ列記シタル書面ヲ差出シ而シテ後其姓名ヲ記シタル通帳及ヒ拂戻
 ノ節用ウヘキ拂戻願書式紙ヲ無代價ニテ受領スルコト得此通帳ハ一
 人ニ付一冊ヨリ下附スヘカヲサルモノトス但シ未丁年者ニ限り若シ
 他人已ニ其者ノタメニ貯金ヲ預ケ込ミ居ルモ自ツカラ貯金ヲナサン
 ト欲スルトキハ別ニ一冊ノ通帳ヲ申受クルコトヲ得ヘシ
 瑞典驛遞貯金局ハ貯金ノ領收ヲ証スルタメ白耳義ニ於テ初メテ規定
 シタル領收切符法ヲ採用セリ其領收切符ニ數種アリ「クラウン」淺褐
 色「クラウン」紺色「五」クラウン「赤色」十「クラウン」藍色「二十」クラウン「淺

綠色、五十、シラウン(黃色)、百、クラウン(淺紅色)是ナリ其大小ハ長サ五十二
 「ミリメートル」廣サ十六、ミリメートルニシテ貯金切手ト均シク其中央
 ニ重圈ヲ畫キ其重圈ノ間ニハ、スヅリゲス、ポストスパルパンク」ノ一語
 ナ記セリ其切符ノ價額ハ數字ヲ以テ之ヲ中央ノ圓座中ニ記シ其下部
 ニハ刺透線ヲ設ケ受取役ノ記名ニ備フ受取役貯金ヲ受取ルトキハ其
 金額ニ相當ノ切符ヲ通帳ニ貼付シ各印面ニハ悉ク其姓名ヲ自署シ且
 ツ日付印ヲ押捺シ以テ其受取証トナスナリ此切符ハ成ルヘク少數ヲ
 用ウル様注意シ其内最高額ノ切符ヲ最初ニ貼付スヘシ
 若シ切取利札ヲ以テ預込ヲナスモノアルトキハ其受附掛ニ於テ之ヲ
 受取リ假受取證ヲ預ケ人ニ交附シ其利札ハ直チニ驛遞貯金總理局ニ
 送附シテ其眞偽ノ鑑定ヲ乞ヒ果シテ正當ノモノナルトキハ先ニ交附
 シタル假受取証ヲ返納セシメ「クラウン」位迄ヲ貯金額トシテ登簿シ端

數アルトキハ通貨ヲ以テ貯金人ニ拂渡スヘシ
 目下利子ハ三朱六厘ト定ム若シ變更ヲ要スルトキハ少クモ四ケ月前
 ニ豫メ之ヲ布告セサルヘカラス然レモ曆年ノ中途ヨリ之ヲ變更スル
 一ヲ得ス貯金ハ預ケ込ミタル翌月一日ヨリ拂戻ヲ爲シタル前月三十
 日迄利子ヲ附シ毎曆年ノ末ニ於テ利子ハ悉ク其元金ニ繰込ミ翌年一
 月ヨリハ「クラウン」未滿ノ端數ヲ除キテ其貯金額ニ相當ノ利子ヲ附ス
 然レモ千「クラウン」ニ超過スル貯金額ニハ利子ヲ附スルコトナシ
 預ケ人若シ貯金ノ全部若シクハ一部ノ拂戻ヲ乞フモハ其願書ヲ貯金
 通帳ト共ニ最寄郵便局ニ差出シ其拂戻ヲ受クヘキ郵便局ノ名ヲモ其
 願書面ニ明記スヘシ然ルトキハ地方郵便局ハ拂戻願書ノ領収書ヲ預
 ケ人ニ交附シ驛遞貯金總理局ノ認可ヲ經テ始メテ預ケ人ヨリ願立テ
 タル金額ヲ拂戻ス一ヲ得拂戻願書ハ拂戻額五十「クラウン」以内ナレハ

少クモ十日前ニ、五十クラウン以上五百クラウン以内ナレハ少クモ三十日前ニ、五百クラウン以上ナレハ少クモ六十日前ニ差出スヘシ特別ノ場合ニ於テ若シ事務ニ差支ヲ生セサル時ハ驛遞貯金總理局ノ認可ヲ經テ其期ヲ短縮スルヲ得ヘシ若シ遠隔ノ地ニシテ五十クラウン以内ノ金額ヲモ到底十日内ニ拂戻スルヲ得サルトキハ郵便局ヨリ豫メ其旨ヲ預ケ人ニ報シ置クヘシ

貯金全額ノ拂戻ヲ願フトキノ外ハ其拂戻額ハ「クラウン」位ヲ最下限トス若シ拂戻願書ヲ差出シタル後拂戻期日後十日ヲ經ルモ尙ホ拂戻ヲ請求セサルトキハ其願書ハ無効トシ新クニ預ケ込ミタルモノト見做シテ利子ヲ附スヘシ

預ケ人拂戻金額ヲ受取ルキハ其姓名職業及ヒ出生年月日等ヲ演ヘ其本人ニ相違ナキ旨ヲ証明スヘシ若シ此等ノ諸件通帳下附ノ節差出レ

タル書面ト符合スルキハ直チニ其金額ヲ拂渡スヘシ若シ相違ノ虞アルキハ其旨ヲ驛遞貯金總理局ニ報シ總理局ノ見込ヲ以テ或ハ其拂戻ヲ命ジ或ハ之ヲ裁判所ニ告訴スヘシ拂戻金額ハ受取人ヲシテ其受取証ヲ差出サシメ且ツ其金額ヲ掛リ吏員ニ於テ帳簿ニ記入シ其入金額ヨリ引去ルヘシ

有夫ノ婦ハ其夫ノ同意ヲ經サルモ貯金拂戻ヲ請求シ且ツ之ヲ受取ルコトヲ得滿十五年以上ノ幼童モ亦自ラ預ケ込ミタル金額ニ限り同上之ヲ請求シ且ツ之ヲ受取ルコトヲ得ヘシ

貯金ノ預ケ込ミ及ヒ拂戻シハ貯金事務ヲ取扱ヘル各郵便局ニ於テ之ヲ取扱フコトヲ得ヘシ預ケ人ハ最初預込ミタル期月ノ末迄ニ毎年一度其通帳ヲ最寄郵便局ニ差出シ其受取証ヲ郵便局ヨリ取り置クヘシ郵便局ハ之ヲ貯金總理局ニ送附シ總理局ハ其利子ヲ附記シテ前ノ通帳

受取証引替ニ其預ケ人ニ返附スヘシ若シ十年間一回モ預ケ込キ又ハ拂戻ヲナサハルトキハ以前ニ預込ミタル金額ハ驛遞貯金局ノ所有トナルベシ然レモ場合ニヨリ貯金總理局ヨリ其拂戻ヲ許可スルコトアルヘシ

家督相續遺物分配資産限リ若シクハ貧困ノ爲メ貯金通帳若シ別人ノ所有ニ歸スルトキハ其事實ヲ貯金總理局ニ報知シテ其帳簿ノ書換ヲ請求スヘシ若シ又預ケ人通帳ヲ紛失スルトキハ新聞紙ヲ以テ三回其旨ヲ廣告シ第三回廣告ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經テ其所在不明ナルトキハ新タニ通帳ヲ下附スヘシ此手数料ハ時宜ニ應シテ之ヲ定ムルモノトス預ケ人ノ望ニ依リテハ其預ケ金ヲ以テ株券ヲ購求スルコトヲ得尤モ右ハ貯金拂戻期日內ニ於テスベシ而シテ右株券ハ預ケ人ノ利益ヲ計リ成ルヘク廉價ヲ以テ之ヲ賣下ケ之カ爲メ何等ノ手数料ヲモ課スル

コトナシ但シ株券ヲ郵送スルトキニハ其郵便税ト保險料トヲ預ケ人ヨリ償却セシムヘシ

預カリ金額ノ中其曆年ノ費用ニ供セサルモノハ利子倍殖ノ爲メニコレイナスハンクニ預込ムヘシ又貯金拂戻ニ不用ナル資金ハ瑞典政府ノ株券若シクハ瑞典典物銀行本局ヨリ發布セン株券ヲ購求スヘシ驛遞貯金局事務取扱ノ諸經費ハ貯金局ノ受取リシ利子ト貯金局ヨリ拂渡ス利子トノ差ヨリ生スル純益金ヲ以テ之ニ充ツヘシ若シ此等ノ利益金ニテ不足アルトキハ驛遞局ヨリ必要丈ノ資金ヲ前渡スベシ若シ次ノ年度ニ於テ此前渡資金ヲ返辨シ尙ホ剩餘アルトキハ其金額ハ驛遞貯金局ノ費用ニ充ツヘシ

每曆年ノ末計算仕切ノ後驛遞貯金總理局ヨリ驛遞貯金局ノ位地及ヒ事務ノ詳細ヲ皇帝陛下ニ上奏スヘシ而シテ其奏狀中ニハ驛遞貯金局

ノ其收入ヨリ下等貧民ノ節儉心ヲ獎勵スルカ爲メ使用スル所ノ金額ヲモ記載スヘキモノトス且ツ又預ケ込ミ總金額ト拂戻總金額トハ毎月之ヲ報告スヘシ

瑞典驛遞貯金總理局ハ驛遞總長之カ長トナリ他ノ四名ノ次官ト共ニ其事務ヲ處辨シ驛遞局之ヲ統理ス四名ノ次官トハ貯金局ノ事務報告ヲ司トル所ノ驛遞局ノ上等書記一名、皇帝ヨリ特ニ命セラレタル火圖一名、レイナスパンクノ書記一名、レイナスシユルヂン、コムトイル(公債局)ノ書記一名是レナリ若シ驛遞總長欠員ノトキハ皇帝ヨリ特命シタル驛遞局ノ上等書記其事務ヲ代理ス

レイナスパンクハ若干ノ資金(未定)ヲ以テ驛遞貯金局ノ資金ヲ預リ且ツ公債証券ヲ買賣スルヲ擔任ス

瑞典郵便局員ハ驛遞貯金事務ヲ補助スルヲメ特別ノ手當ヲ受クルモ

ノトス其手當ハ預ケ込ミ一度ニ付ニテ、ナル宛預ケ人ニ受取証ヲ下附セシモノニ給與スベシ其外其局ニテ預リ總理局ノ登簿ヲ經タル總貯金額十分一ノ手當金ヲ附給ス但シ十クラウン以下ノ金額ハ之ヲ算入スルコトナシ

○佛國驛遞電信省ノ組織(承前)

森 則 義抄譯

第三章 郵便事務

郵便事務ハ驛遞電信省中別ニ一局ヲ設ケテ之ヲ執行スルモノトス(一千八百七十九年二月五日ノ布告)

前章已ニ述フルカ如ク驛遞局ハ左ノ物品運搬ノ專有權ヲ有ス

第一 公用信書

第二 私用信書(共和九年九月二十七日ノ布達)及ヒ筆記類

專有權内ニ屬セサルモノ左ノ如シ

- (一) 収税委員ヨリ其管区内ノ納税者ニ宛テタル信書
 - (二) 海關稅員其長官ノ命令ニヨリ通報スル帶封公用信書
 - (三) 記録局官吏ノ納税者ニ通スル開封無賃ノ通知書但シ其名宛人ヨリ發スルモノハ此限ニアラス
 - (四) 特ニ使テ馳セテ遞送スル私用信書
 - (五) 裁判所ニ關スル證據書類記録讓渡質入等ノ法式ヲ遂クルタメ公証人ト記録局官吏等ノ間ニ往復スル書類ハ證據書類ト見做サルモノトス
 - (六) 商品ノ勘定書
 - (七) 開封ニテ遞送スル重量一キログラム以上ノ法律上及ヒ商用上書類
- 送狀及ヒ運搬受負人ノ營業用通知並ニ記録

(九) 鐵道又ハ通運ヲ以テ遞送スル商品ニ屬スル書付額但シ番號其他物品引渡等ニ必要ナル文言等ヲ掲グルモノモ亦此中ナリ

右ノ外商品見本新聞印刷物其他價額公記若シハ爲替券其他貴重品ノ運搬ニ從事スルコトヲ得但シ此等ノ事業ハ全ク専有ト云フニハアラス(一千八百二十七年十月二十六日ノ規則五十九年六月四日ノ法令第一條及ヒ七十八年一月二十五日ノ法令第八條)

[附註] 爲替コハ爲替証書ト爲替端書ノ別アリ爲替端書トハ封皮ナク遞送スル所ノ一種ノ色紙ニシテ爲替振出人コハ無代價ニテ之ヲ下附スルナリ又振出人ノ記載スヘキ條件ハ支拂フヘキ金額差出人及ヒ名宛人ノ住所姓名ニ止マル而シテ此端書ハ各縣重要ノ郵便局若シハ佛國郵便船出張吏員ニ限リ之ヲ發シ其支拂方ハ各局之ヲ取扱フコトヲ得其遞送方ハ差出局ヨリ直チニ名宛人ニ宛

テ通常信書同様配達スルナリ
 又金員支拂方、税額有効期限辨償期滿無効等モ亦爲替証書ト同様
 コシテ爲替料ハ券面金額百分ノ一ト定メ(一千八百七十二年十二
 月二十日ノ法令)爲替金額ノ内ニテ支拂フモ又別ニ納ムルモ隨意
 ナリ但シ五十「サンチム」雖モ税額一「サンチム」ヲ拂フヘシ若
 シ券面金額端數アルトキハ四捨五入ノ法ニヨル植民地宛ノ爲替
 コハ定税百分一ノ割合ニテ一証券毎ニ税額二十五「サンチム」以
 下ニ下ルヲ得ス(縱令ヒ券面ノ金額二十五「サンチム」ノ税額ニ相
 當セサルモ)又五十「サンチム」以下ノ爲替金ヲ振出スコトヲ得ス
 郵便ヲ差出シタル金員ニテ五千「フランク」以下ニ限リ電信ヲ以
 テ名宛局ニ通知スルコトヲ得之カタメ電信爲替ト稱スル特別ノ
 爲替証書ヲ設ク此爲替ハ到着後五日ヲ經テ郵便局若シクハ郵便

電信聯合局ニ於テ支拂フモノナリ

其他局ノ取扱フヘキモノ左ノ如シ

法令雜誌、大審院判決錄、定時新板物、豫約購求ノ代價ヲ受取ルコト並

ニ賒金取立方ヲナスコト

驛遞電信ノ事務ハ左ノ二部ニ分ツ

第一 行政事務

第二 營業事務

地方行政事務ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ取扱ハシム

事務長

監督及ヒ副監督

書記

員外

此職員ハ電信營業事務ノ指
 揮監督ヲ兼任スルモノトス

配達夫伍長

營業事務ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ執行ス

上等主務

單局主務

複局主務

掛長、副長

上等書記

書記及ヒ員外

停車場繼立人

取扱人

局内監守

積込人

營業事務中ニハ行動郵便局ノ事務ヲ含蓄ス其役員左ノ如シ

線長

監督及ヒ副監督

伍長

書記

輸送手

局内監守

積込人

各縣ハ一驛遞區ヲナシ事務長之ヲ統轄ス

各縣事務長ハ卿ノ直轄ヲ受ケ職員、材料、事務ノ計畫、計算及ヒ營業ノ方

法等ヲ掌トリ兼テ電信事務ノ行政部タル營業事務ヲ指揮ス

監督ハ事務長ノ命ヲ奉シ又ハ隨意ニ郵便局ヲ巡覽シ其營業ノ景況、計

算役員ノ動靜等ヲ監査ス

營業事務ヲ取扱フニ數多ノ局アリ其最下級ヨリ數フレハ一縣遞區内
ノ諸局左ノ如ク

第一 郵便取扱所

第二 單局

第三 複局

第四 本局

郵便取扱所ハ郵便局ノ代理ヲナスモノコシテ其取扱人ハ受領ト配達
ヲ兼テ他局ヨリ達シタル郵便物ヲ配達シ並ニ郵便函ニ集マリタル信
書ヲ脚夫ニ渡スコトヲ掌トル郵便取扱所ハ一般ニ人口稀少ナル場所
ニ設ク

郵便取扱所ノ次ニ配達局アリ(但アルゼリーノ地ニ限ル)其掌トル所ハ

郵便物ヲ配達シ五十フランク以下ノ爲替ヲ支拂フ此局ニ於テハ配達
夫一二名ヲ役ス

單局ハ上ニ記ス局ノ上ニ位ス主務者ノ外他ニ官吏ヲ置クコトナキヲ
以テ名ケテ單局ト云フ然レモ主務者ハ自カラ身元保証人トナリテ助
手一人ヲ使役スルヲ得ヘシ若シ政府ニ於テ助手ヲ置クヲ必要ト認ム
ルトキハ補助金ヲ給與ス此局ニ於テハ只通信ニ關スルコトノミヲ取
扱フ即チ信書新聞等ノ仕別方他局ヨリ達シタル郵便物ト目錄ノ引合
方及ヒ爲替ニ關スル業務是レナリ又此局ヨリ以上ハ主務者ヲシテ其
俸給ノ多寡ニ應シ身元保証金ヲ納メシム(一千八百七十九年九月十三
日ノ布告)

複局ハ其名ノ指定スル如ク主務ニハ書記ト稱スル助手若干名ヲ附屬
ス其業務ハ單局ニ於テ取扱フモノ、外局中一般ノ計算ヲナシ且ツ業

務上ニ關スル報告書ヲ事務長ニ進達ス但シ此報告書ハ監督並ニ統計
表編纂ノ材料トナルモノナリ
又各縣ノ首府ニ郵便本局アリ上等主務之ヲ監理ス其職務ハ大概該局
主務ト同様ニシテ其異ナル所ハ縣内諸局ノ出納ヲ調査シ各局ニ代リ
テ會計檢査院ノ檢査ヲ受クルニ在リ故ニ區内ノ諸郵便局員ニ於テ調
製セシ計算表ハ凡テ之ヲ本局ニ送附スルヲ要ス
又實際収入ヲナメ郵便局ニ於テハ其収入金額ヲ間接稅收入委員又ハ
郡區大藏省稅委員或ハ縣ノ首府ニ住スル支局委員ニ向ケ直ニ拂込
ムモノトス

其他鐵道ノ新設及ヒ其漸次ノ進歩ヨリ特別ニ郵便局ヲ設ケタリ即
チ本局ノ附屬タル行動局是レナリ此ノ行動局ハ特別ノ法則ニヨリテ
之ヲ組織シ其事務ヲ總轄スル所ノ線長ハ其位置縣ノ事務長ニ均シク
只電信營業事務ヲ扱ハサルノ差アルノミ又行動局書記ハ其本職ノ外
取扱役ヲ兼テ監督ハ其職權縣ノ監督ニ均シク其俸給ハ駐在委員ト同
一ナリ蓋シ行動局ノ事務ハ非常ニ困難ナルヲ以テ其報酬トシテ別途
旅費ヲ支給ス

鐵道會社ハ工部卿並ニ驛遞電信卿ト協議ノ上停車場發着時限等ヲ定
メ且ツ郵便物遞送ノタメ郵便日々列車ト稱スル特別ノ列車ヲ發スル
ヲ義務トス但シ地方鐵道ニ於テハ並列車ヲ以テ之ニ充テ別ニ此義務
ヲ負ハシムルコトナシ

鐵道線路上ノ事務ハ二三、四若シクハ五ノ隊伍ニ區分シタル職員交替
ニ之ヲ取扱フ抑此隊伍ハ各箇獨立スルモノニシテ其中事務ノ順序ヲ
指揮シ書留及ヒ金子入書狀ヲ取扱フ所ノ伍長一名郵便物ノ仕別方、報
知書荷造方等ヲ扱フ所ノ書記一名若シクハ數名(線路ニ從ツテ異ナリ

郵便物ノ順序ヲ取調ヘ消印ヲ捺押シ封緘ヲナス等ノ事業ヲ取扱フ所ノ監守一名若シハ二名アリ

此等ノ行動局ハ平均一旅行中三百以内ノ郵便物ヲ受領シ其差立ツル所ノ數モ亦殆ント之ト同一ナリ精密ナル統計表ヨレハ各隊伍ノ取扱フ郵便物ノ數ハ一萬二千以上一萬六千以下ナリト云フ

又郵便物ヲ交換スルコトハ小停車場ニ於テハ脚夫グライエーヲシテ郵便列車中ニ付テ直接ニ之ヲ取扱ハシメ大停車場ニ於テハ繼立人ト稱スル特別吏員ノ媒介ニヨル又巴理ニ於テハ各地宛ノ郵便物停車場ニ達スルヤ直ニ驛遞局ノ馬車ヲ以テ之ヲ本局ニ遞送ス其積込方ハ積込人ニ任シ護送人ニ附添フテ郵便局ニ到リ直ニ名宛局ニ引渡スナリ

大藏省統計雜誌第一卷二百六十九頁ニ記載スル所ノ巴里郵便局ノ組織ヲ現今ノ組織ニ引キ直スコト左ノ如シ

巴里ノ首府ハ其周圍凡ソ三十四キロメートル(我八里余ニ當ル)其表面凡ソ七千五百エクタール(百メートル平方ヲ云フ)ニシテ之ヲ二大郵便區ニ分ツ即チ其一舊巴里ハ十二郡人口百二十八萬八千人其二附屬郡區ハ八郡ニシテ其人口七十五萬八千人ナリ

舊巴里中郵便局即チ現今ノ本局ハ「カールセル」(調馬場)ト稱シ支局四十七ヶ所アリ此支局ハ電信爲替ヲ發スルコト並ニ本局諸員ノ負擔スヘキ配達ノ準備ヲ除キ其他通常ノ事業ヲ取扱フモノナリ

附屬郡區ニ於テハ同一ノ職權ヲ有スル郵便局二十五ヶ所アリテ各配達夫ヲ發ス

凡テ此等ノ局ハ平日ハ午前第八時ヨリ午後第八時迄日曜日其他祭日ハ午後五時迄其事務ヲ掌トル

電信事務ヲ兼テタル局ハ夏期ハ午前七時冬期ハ午前八時ヨリ午後

五時迄下定

事務執行ノ人員ハ左ノ如シ(一千八百八十年十月一日ノ調)

本局ニ於テハ上等主務一名給料一萬フランク

掛長二名給料五千フランクヨリ八千フランクニ至ル

副掛長二十名給料三千五百フランクヨリ四千五百フランクニ至

ル上等書記及ヒ書記合シテ三百九十六名

配達人千百五十四名

員外六十六名

局内監守及ヒ荷造人二百十名

舊巴理ノ總支局ノ役員左ノ如シ

主務四十七名

書記三百六十八名

員外二十七名

監守十六名

開函配達人百七十九名

附屬郡區ノ役員左ノ如シ

主務二十五名

書記七十六名

員外五名

監守二名

配達人三百四十六名

配達人ハ之ヲ三等ニ區別ス

第一 開函人(開函人トハ郵便函ヨリ郵便物ヲ取集メ最近ノ郵便

局ニ之ヲ差出スモノヲ云フ)

第二 印刷物配達人

第三 信書配達人

郵便函ハ全數七百三十四箇ニシテ一般ニ煙草賣下人ノ店頭ニ掛ク
間、公立官舎ノ牆壁ニ掛ケ或ハ鑄鉄製柱函ヲ路傍ニ植立スルモノアリ

開函ハ一日七回ニシテ巴里ヲ往復スル貨錢(二輪車荷物車)オンコビ
ユースハ本局ヨリ路程ニ應ジテ之ヲ支拂フ但シ受負人ハ馬車並ニ
馭者ヲ供スルヲ要ス

配達方

行動局ハ巴里ヘノ歸路ニ於テ巴里宛ノ信書ヲ取集メ三十一束トナ
ス其中一束ハ留置郵便物十貳束ハ中央部ノ支局ニ分配スヘキ信書
ニシテ本局ニ達スルヤ直ニ之ヲ配達人ノ仕別場ニ引渡シ他ノ十八

束ハ初メニ本局ニ送り本局ヨリ直ニ附屬郡區ニ宛テ遞送ス

配達人ハ四伍ニ分レ交番ヲ以テ巴里府内ノ配達八便ヲ取扱フ(左
ノ如シ)

第一伍 第一及ヒ第三便

第二伍 第一第三及ヒ第六便

第三伍 第一第五及ヒ第七便

第四伍 第二第四及ヒ第八便

初メノ三伍ハ五ニ最モ大切ナル第一便ヲ補助ス第一便ハ諸縣及ヒ
郡區ヨリ夜便ニテ達スル信書ニシテ其數甚ク夥多ナリ

特別馬車ハ本局出口ニ於テ配達人ヲ乗セ其持場迄之ヲ運搬ス配達
人ノ郵便物ヲ配達スルニハ名宛人ノ室内ニ入り或ハ階上ニ登ルコ
トナシ

通常郵便物ハ只二階ノ下ノ門番ニ引渡シ之ヲシテ其分配ヲナサレ
 配達ヲ終ルヤ(配達ハ各所殆ント同時ニ了ルモノナリ)配達人ハ最モ
 近接ノ郵便局ニ到リ配達シ難キ物品並ニ未納税ノ信書ニ付キ取立
 テタル金員等ヲ引渡シ若シ次ノ配達ヲ補助スルノ順序ニ當ルトキ
 ハ鉄道馬車ニ乘リ本局ニ皈ル
 附屬郡區ノ配達ハ市府内ト別ニ異ナルコトナシ

遞送方

前段陳フル如ク着便ハ鉄道停車場ヨリ巴里ノ中央迄運搬レ之ヨリ
 諸方ニ分配ス之ト相反シ發便ハ巴里ノ中央ニ集メ之ヲ停車場ニ送
 ル
 各支局ハ郵便函ヨリ取集メタル郵便物受附窓ニ受次キタルモノ及

ヒ配達人ヨリ受取リタルモノヲ五束トナシ一々其表面ニ巴里(附
 屬郡區)ハンリユー(巴里)ヲ經テ州縣(等)ノ記號ヲ付ス

右ノ仕別ハ甚タ迅速ニナシ得ヘキカ故發便前一二分時迄局ノ郵便
 函ノ信書ヲ取集ムル事ナシ

右五束ノ郵便物ハ馬車ヲ以テ本局ニ運搬シ本局ニテ仕別ヲナシ(巴
 里)ヲ經テノ記號アルモノハ經過局ト稱スル役所ニ貯ヘ置キ各行動
 局ニ宛テタル物品十二行李ツ、取纏メ之ヲ行動局ニ遞送ス

本局及ヒ行動局ニ於テ右ノ如ク仕別ヲナスタメ開函ヨリ遞送迄ノ
 時間ハ凡ソ一時間余ナリ

此時間中特別開函ヲ設ケ十五分時毎ニ二十「サンチ」ヲ増シ最高
 額ヲ六十「サンチ」ト定メ行囊ニ切ノ時間迄至急ノ信書ヲ其便中
 ニ加ヘシムルコトヲ得但シ此税ハ郵便切手ヲ以テ前拂スヘシ

凡テ信書ハ一旦本局ニ集メ之ヨリ名宛地ヘ向ケ遞送スルカ故ニ名宛地ノ通路ニ當ル局ハ稍開函時ヲ遲延シ得ルコト論テ俟タス且ツ郵便列車ノ出發前鉄道停車場其近傍ニ在ル局及ヒ停車場内又ハ列車場ニ在ル郵便函ニ投入シタルモノハ凡テ其便中ニ加フルコトヲ得

經過局ハ開囊便ニアラサレハ行動局ト關係ヲ有スルコトナシ但理内パンリユー宛ノ郵便物ハ本局ニ於テ其仕別ヲナス此パンリユーニハ三百有余ノ局アリ凡テ數多ノ郵便物ヲ受領ス就中ヴェルサハユノ如キハ巴里ト一日十五回ノ往復ヲナセリ

又信書及ヒ電報ノ秘密ハ之ヲ發クコトヲ得ス若シ之ヲ犯スモノハ刑法第百八十七條ヲ以テ處分ス故ニ吏員タルモノハ奉職ノ初メニ其誓言ヲナサハルヘカラス(一千七百九十年八月廿六日ノ法令)未完

○獨逸國新聞豫約購求法 (承前)

渡邊醇之助譯

内國ノ定期新聞ハ凡テ刊行者ニ於テ自費ヲ以テ之ヲ包裝シ郵便局ハ毫モ其包裝又ハ入費等ノ支辨ニ與カラサルモノトス尤モ注文ヲ取扱ヒタル郵便局ニ來着セル外國刊行ノ定期新聞ヲ配達郵便局ヘ遞送スルトキハ該郵便局ニ於テ成規ニ從ヒ更ニ包裝ヲ爲シ其入費ハ勿論該新聞購讀者ヲシテ之ヲ負担セシムヘシ又郵便局ニ於テ禮物等ヲ請取リ且ツ之ヲ遞送スルガ爲メ生スル入費ハ先方代金取立ノ方法ニヨリ之ヲ徵收スヘシ又出版地ヨリ郵便局ニ至ル禮物ノ遞送料並ニ外國ヨリ遞送スル禮物ノ關稅ニ就テモ都テ先方代金取立ノ方法其効力ヲ有スルモノトス但シ斯ル種類ノ入費ハ各購求者ヲシテ禮物ノ割合ニ應ジ之ヲ分担セシムヘシ若シ包裝料遞送料及ヒ關稅等前拂ノ表得アルトキハ只小包郵便稅ノミ徵收スルモノトス又名宛地ノ郵便局ヨリ先

方代金取立郵便爲替ノ到着スル迄ハ其代金取立高ハ未定金額差引計
算簿中ニ明記シ置クヘシ

大侯國ルキセン堡トノ交通ニ於テハ只定期新報ノ禮物信書郵便物ト
共ニ遞送セラレ、トキニ限り右ノ規定ヲ應用スルコトヲ得

廢刊セシ新聞ニ代リ發行シタル新聞ノ契約

第七條 購讀時期中廢刊シタル新聞ノ代リニ新ニ他ノ新聞ヲ發行ス
ルトキハ從來ノ刊行者ニ於テ別紙ヲ以テ是迄ノ新聞ノ代リニ發行ス
ル旨ヲ分明ニ証明シ且ツ別ニ其價額ヲ變更セサルトキノミ從來ノ契
約ヲ繼續スルヲ得ヘシ

新聞ニ對スル發行價額ノ合計

第八條 豫約新聞購求總價額左ノ如シ

(一) 新聞價額

(二) 新聞手数料郵便取扱ノ手数料

(三) 海外新聞稅

(四) 外國郵便稅又ハ海外新聞ニ係ル証印稅並ニ包裝

新聞價額表ニハ右總價額中新聞手数料ヲ引去リタルモノヲ記載スベ
シ

出版地郵便局ヨリ差立テタル新聞ニ付キ計算スヘキ新聞手数料ハ價
額表ニ記載シタル獨逸帝國郵便範圍内ニ於ケル新聞購讀者ヘノ豫約
購求總價額ヨリ他ノ欄内ニ於ケル新聞價額及ヒ其他海外新聞ニ付テ
ハ外國郵便稅及ヒ証印稅ノ欄内ニ記載シアル總數ヲ差引セハ其數ヲ
得ヘシ

發行價額ヲ計算スルニハ一ペソニヒ以下四捨五入ノ法ニヨルヘシ

新聞價額

第九條 新聞價額ヲ計算シ及ヒ總價額ヲ計算スルニ當リ外國新聞刊行人ノ承認ヲ經テ新聞購讀者ノタメ代價ノ内百分一ノ割引ヲナス事ニ注意スヘシ

外國發兌ノ新聞ニシテ新聞價額表ニ記載シタル新聞價額ハ專ハラ伯林府ニ於ケル貨幣相場ニ應シテ之ヲ計算スヘシ又郵便局ノ位置ヨリ他ノ地方ノ相場ヲ以テ高價ニ買入レタルトキハ其不足ノ分ヲ新聞購讀者ニ賦課スヘシ

凡テ外國通用貨幣ヲ以テ外國郵便局へ支拂フヘキ新聞ノ代價ヲ比較計算スルニハ左ノ割合ニヨルヘシ

奧國匈牙利ノ貨幣

一「クルデン」ハ我百ノイクロイゼル即チ「マルク」ニ當ル

白耳義佛蘭西伊太利亞ルーマニエン及ヒ瑞西ノ貨幣

一「フランク(リウ)」ハ我八十二「ペンコヒ」ニ當ル

大英國愛爾蘭ノ貨幣

一磅「ステルリング」ハ我二十「マルク」六十「ペンコヒ」ニ當ル

魯國ノ貨幣

一「ルーブル」銀ハ我三「マルク」二十「ペンコヒ」ニ當ル

亞米利加ノ貨幣

一「ドルラル」ハ我四「マルク」二十五「ペンコヒ」ニ當ル

和蘭ノ貨幣

百「グルデン」ハ我百七十「マルク」ニ當ル

健國那威及ヒ瑞典ノ貨幣百「クローチン」ハ我百十二「マルク」七十五「ペ

ンコヒ」ニ當ル

內國郵便諸局間ノ新聞交通ニ係ル手数料

第十條 郵便局ニ於テ徵收スヘキ新聞手数料ハ買入代價百ニ付キ二十
十五ヲ割合トス尤モ毎月四圓以下發行ノ新聞ニ於テハ之ヲ低減シテ
百ニ付キ十二半トナスモトシ得價ノ如何ナル新聞ト雖モ每年少シト
モ四七ニシテモ之ノ稅額ヲ上納セザルヘカラス

外國郵便局トノ新聞交通ニ係ル手数料

第十一條 外國郵便局トノ新聞交通ニ付テ徵收スヘキ手数料ハ双方
ノ總額ニヨリテ之ヲ定ム

ハインランド國郵便局ノ新聞及ヒウイタル等トノ交通ニ於ケル手
料徵收法及ヒ計算方ニ付テハ爲替交通ニ關スル提要書ノ條規(第十二
條及ヒ第十八條)ヲ參照スヘシ

新聞手数料ノ分數繰上ル方

第十二條 全年率三季又ハ一季間購讀ノ新聞手数料ヲ徵收シ及ヒ之

ト計算スルニ當リモソノ以下ノ分數ヲ生ラダルトキハ之ヲ全數ニ
繰上ルヘキモノトス

一ヶ月間購讀ハ二ヶ月間ノ購讀ニ付テハ三ヶ月間ノ發行價額ノ三分
一弱シテハ三分二ヲ徵收ス尤モソノ以下ノ分數ハ前同様之ヲ全
クソノニ繰上ルヘシ又新聞社ニモ三ヶ月分ノ三分一若シクハ三分
二ヲ支拂ヒソノ以下ノ分數ハ是等ノニヒテ繰上ルヘキモノト
ス

總價額及ヒ買入價額トノ間ニ生スル差額ハ計算シテ之ヲ郵便金庫ニ
納付スヘシ

外國郵便局印紙及ヒ印料

第十三條 新聞運送ノ爲メ外國ノ土地ニ生スル手数料ハ新聞價額
費ニ於テハ外國郵便費及ヒ印紙ト表書ナル欄内ニ總括スヘシ

外國ニ遞送スル新聞ニシテ之ヲ包裝シ之ヲ被覆シ若シクハ之ヲ結束
スルモノ別ニ包装材料ヲ徵收スルノ規定アルトキハ其規定ニ從フモノ
トス

配達郵便局ノ事務

第十四條 配達郵便局ノ負擔スヘキ事務左ノ如シ

- (一) 新聞注文ノ引請及ヒ新聞料ノ取立
- (二) 出版地郵便局ノ媒介ヨリ新聞ヲ取寄セラル
- (三) 到着シタル新聞ヲ新聞購讀者ニ遞送スル
- (四) 徵收シタル新聞料ヲ發行人ニ拂渡ス
- (五) 新聞賣捌ニ必要ナル帳簿ノ登記方

新聞ノ日數

第十五條 新聞ノ注文ヲ引請クル日數ハ新聞價額表ニ表記シタル日

數ニ準據スルキモノトス若シ新聞價額表ニ記シタル日數ヨリモ長短
アルトキハ新聞注文ヲ引請サルモノトス又一季及ヒ二季ノ購買日數
ハ即チ年歴ノ一季又ハ二季ト相當セサルヘカラス

新聞注文ノ日數ハ通例一季ヲ以テ最短期トス然レトモ獨逸帝國郵便
範圍内ニ於テ一週二回以上發行スル政論新聞又ハ官報等ハ假令ヒ其
購買時期チ一季ト確定スルモ刊行者ニ於テ承諾スル以上ハ一季中ノ
第二ヶ月及ヒ第三ヶ月目ヨリノ注文又ハ新聞ニヨリ單ニ第三ヶ月目
ヨリノ注文ヲモ引請クルモノトス故ニ購買者ハ購買日數一季ト定メ
タル新聞ニシテ一季ノ初メヨリ至一季間ノ注文ヲナシ得ヘキノミナ
ラス一季中二ヶ月目ヨリ三ヶ月分ノ新聞ヲ注文シ三ヶ月目ヨリ一ヶ
月分ノ新聞ヲモ注文スルコトヲ得ヘシ其他一季中注文シテ一季ノ終
リニ至ルモノハ二ヶ月分又ハ一ヶ月分ノ注文ト同様之ヲ許可スヘシ

又一ヶ月分又ハ二ヶ月分ノ退注文ヲ許サレ新聞ノ退注文ハ其日數
 尙多トテ一季以上ヲラサレ可カラス上文ノ原則及ヒ新聞價額表ニヨ
 リ不許可スルヨリモ尙ホ短少ノ日數ヲ以テ新聞豫約ヲ望ムモノハ最
 短ノ購買日數ノ多クニ定メタル金額ヲ支拂フヘシ
 此關係ニ於テオハイエルン境國匈牙利及ヒ瓦塾堡トノ交通上ニ關係ア
 レ法規ハ爲替交通提要書第十二條ヲ參考スヘシ(未完)

◎雜記

○日耳曼帝國柏林府郵便博物館出品目錄抄譯(第十九世紀前ノ出
 品ニ付テハ万国郵
 便雜誌第十號) 小栗栖香平譯

第十九世紀ノ郵便事務ニ關スル出品ハ其數甚ク夥多ナルヲ以テ先ッ
 國毎キ之ヲ彙類シ順チ看テ之ヲ記載スルニ出品中其數最モ多キモ
 ハ日耳曼帝國ニシテ其出品ハ之ヲ分テテ七區トナセリ即チ甲區郵

便ニ關スル建築ニハ五十三箇ノ郵便及ヒ電信ニ屬スル建物ノ模型粘
 土ヲ以テ精密ニ模型セシ五十分一ノ雛形ナリ)ヲ陳列セリ此區チ一覽
 スルトキハ能ク日耳曼帝國驛遞省カ前十年間ニ實施セシ事業ノ活潑
 ナルヲ想像スルニ足ルヘシ又此等ノ精密ナル模型及ヒ其平面圖區畫
 等ヲ細視スルモノハ此等ノ建物ヲ建築スルニハ先ッ公衆ニ便利ナル
 地位ヲ撰ミ局員ノ事務ヲ執ルニ便ニシテ且ツ其健康ヲ害セサル様
 取ヲ定メ兼チテ建築ノ美ヲ損セサルノ困難アルヲ察スルニ足ルヘ
 シ乙區(眞ニ郵便事務ニ用ヰタル物品)ニハ日耳曼帝國ノ郵便局ニテ使
 用セシ壓字板官印權衡私書函郵便局受附窓ノ模型アリ丙區(役服)ニハ
 日耳曼郵便官吏等ノ着用スル各種ノ制服アリ而シテ丁區(尋常ノ道路
 ニ用ウル郵便馬車及ヒ馬具)ニハ日耳曼帝國及ヒ前ノ普魯西驛遞院ニ
 テ用ヰタル郵便馬車ノ摸形アリ此等ノ摸形ハ特ニ巧緻ヲ極メ些末ノ

スル所百二十六、其深さハ十、メーナル九五又其噸數ハ獨縛總噸數四千五百九、正味二千八百九噸ニシテ七、メーナル二〇ノ所ニテ其水ヲ排除スル量ハ七千五百七十五噸ナリ又其機關ハ公稱六千五百五十馬力ニシテ其速度ハ十六節ナリ此美麗高價ナル離形ハノルズ、セルマノロイド社ヨリ出品セシモノナリ

其他此區ニ陳列セル圖書及ヒ離形等ノ中ニステッチンク、ロンスタッド間郵便事務ニ使用シタル前ノ普魯西王郵便船プロスシスチャル、アドレール號ノ船体及ヒ諸機關ノ原圖アリ

日耳曼部ニ最後ノ區即チ庚辰ニハ日耳曼軍用郵便ノ器械一式ヲ陳列セル其内ニ一部(即チ馬具、庖附屬ノ器械、割堀具、馬車附屬品、貯蓄兵糧、局用品及ヒ常用品等)ハ等身ノ離形ニシテ他ノ一部(即チ車輛等)ハ六分一ノ離形ナリ往時軍用郵便事務ニ使用セル器械ニシテ歷史上重大ノ關係

アルモノハ悉ク此部中ニ陳列セリ其他些少ノ物品即チ官印、封筒ノ如キハ皆千八百十三年及ヒ十四年頃ノ日附ヲ記セリ

吾人ハ第十九世紀ノ外國郵便陳列室ニ移リ最モ珍奇ナル物品ヲ讀者ニ報セントス

瑞西國ノ郵便事務ハ夫ノセント、ゴットアルド鐵道開設以來終ニ其無上權ヲ失ヒタルセント、ゴットアルト郵便ノ畫圖ニ葉ニ就テ之ヲ見ルヘシ夫ノ著名ナルアルプス山路ノ郵便事務ヲ實見セシ人ニシテ若シ此圖ヲ見ルトキハ誰カ舊時郵便ニヨリテ旅行セシ愉快ノ今日再タヒスヘカヲサルコトヲ惜マサルモノアラシクニシル

瑞西ガリソ州ノ首府ニテ、ゲル氏ノ出品ニシテ當館中ニテ最モ遅ク陳列セル千八百二十二年ノクール及ヒスプルーゲン山道ヲ經ルリントーミラン間郵便遞送ノ寫眞ハ吾人ヲシテ瑞西國アルプス郵便事務ノ最モ繁盛ナル時代ヲ

追想セシムルニ足ルナリアルプス郵便ハ毎月一回ツ、往復シミラン行ハ十二日、リンドン^イ行ハ十日ヲ要セリ而シテ此郵便ハ旅客ヲ搭載シ若シクハ郵便行囊又ハ荷物ヲ運搬スル爲メ數頭ノ馬疋ヲ連牽セリ此馬疋ハ出發地ニ於テハ僅カニ八頭位ニ過キサルモク^イール及ヒズニスニ於テハ其數二十頭ニ増加セリト云フ

法朝西部ニハ當世紀ノ初メ頃同國ニ行ハレタル郵便遞送ノ方法ヲ示ス所ノ精工ナル石版圖アリ(其中彩色ヲ加ヘシモノ尠ナラス)此等ノ圖中ニ千八百三十年別仕立飛脚郵便用ニ輛馬車、別仕立便、御用脚夫、五頭立郵便馬車、乗合馬車并ニ千八百二十八年ノラフ^イト、カイルランド間佛國公用乗合馬車ノ圖アリホウテスビレニ^イ州、パレシス道中ノルズ郵便ヲ示ス所ノ彩色石版圖アリ此圖ハ甚タ狭小ナルモ極メテ精明ニシテ且ツ圖中ノ景色優美ナル故ヲ以テ美術上最モ貴重スヘキモノナ

リ又中古ノ景況ハ千八百七十年及ヒ七十一年ノ佛國輕氣球郵便及ヒ傳書鳩ノ圖書并ニ傳書鳩書狀、輕氣球郵便書狀、同郵便葉書ノ見本等ヲ視テ之ヲ知ルヘシ又佛國郵便電信卿コリエ^イ氏ノ出品セシ水色ノ繪アリ即チラ^イ州書狀配達人ノ狀ヲ摸スルモノニシテ同地ハ地形ノ一種特別ナルヨリ配達人ハ皆竹馬ニ乘リテ步行シ書狀ヲ各戸ニ配達ス是レ他國ニハ決シテ其例ナキ所ナレハ吾人ヲシテ特ニ眼目ヲ注カシメタリ

英國馬車郵便事業ノ最高點ニ達シタル時代即チ鐵道敷設ノ數年前ヲ明示スルモノハ彩色圖及ヒ石版畫三十枚ニシテ千八百二十年以後書狀及ヒ物品遞送ノタメニ使用セシ各種ノ英國郵便馬車ヲ描寫セシモノナリ又鐵道開設前英國ニテ一般ニ使用シタル郵便馬車ノ摸形アリ此摸形ハ龍動驛遞院長フ^イセツト氏ノ出品ニ係リリ^イハブ^イ龍動間島

室郵便ノ題字アリ此摸形ヲ見ルトキハ英國郵便車輛ノ改良及ヒ其速
 度遙カニ大陸諸驛遞院ニ冠絶セシ時代讀者ノ熟知スル所ナリノ英國
 遞送法如何ヲ知ルニ足ルナリ而シテ英國旅客運搬事務ノ最高點ニ達
 セシ時代ヲ明示スルモノハシー、シー、ヘレドルソンノ描キタル圖畫形
 刻ニ超ユルモノナシ而シテ(其圖畫ハ皆千八百四十年頃ノモノナリ)其
 圖中ニハ英國古代ノ四頭立馬車アリ又「スタク、ファスト」ト題スル圖ハ此
 馬車ノ雪中ニ埋モレタル馬丁等後方ヨリ別ニ數頭ノ馬ヲ牽キ來リ
 之ヲ挽キ出サントスルノ狀ヲ描ケルモノナリ「マヤンセンホルセス」ト題スル圖ハ新
 手ノ馬ニ荷物ヲ附代ユル容体ヲ顯ハスノ圖ナリ「フルアット」ト題スル圖ハ美
 麗ナル四頭ノ馬重大ノ荷物ヲ載セタル乗合馬車ヲ牽キナカラモ長
 懼ノ色ナク逆流ヲ横キルノ圖ナリ「ローアエラスレル」ト題スル圖ハ「ハ」
 工一種ノ驚クヘキ景致ヲ描キ危險ナル鐵道ニ一身ヲ任スヨリハ寧ロ無難ナル大

道ヲ取ルノ勝レルニ若カサルコトヲ示スモノナリ即チ圖中古代ノ四
 頭馬車草花爛熳タル牧場中ヲ迂廻スル大道ヲ疾驅シ其乘客ハ安穩ニ
 車中ニ坐シ鐵路ヲ架設セル堤上ヨリ列車ノ墜落セシ有様ヲ見テ膽ヲ
 冷スノ狀ヲ寫セリ

ヘリゴランドニ於ケル英國管理ノ郵便事務ニ關スル出品ハ郵便風帆
 船ノ摸形ナリ此摸形ハ前ノヘリゴランド島ノ知事即チ今ノ「ニュー、ファ
 ンドランド」ノ知事タル「リユーテナント、コロチル」「フビツ、マキス」氏ノ出品ニ
 係リ郵便漁船ノ往復セサル以前ニ久シクヘリゴランドト歐洲大陸ト
 ノ間ニ郵便物ヲ運搬セシ風帆船ヲ摸形シタルモノナリ
 エー、ワグナルノ繪ヨリ傳寫セシ「トレド」近傍ノ西班牙郵便ト題セル寫
 眞ハ十頭ノ驢馬乘客ノ充滿シタル古形高馬車二輛ヲ牽テ峻坂ヲ走セ
 下リ其前頭ニハ美服ヲ着シタル御者アリテ道路ノ峻險ヲモ意トセス

汗馬ニ鞭ヲ刺輪ヲ弄シテ之ヲ馳驅シ其西側ニハ一人ノ騎兵ト一人ノ馬丁アリ騎兵ハ御者ト同シク馬ニ鞭ヲ馬丁ハ尖リタル鉄杖ヲ携ヘ大聲疾歩シテ其前路ヲ啓開スルノ圖ナリ其他日光ノ閃々タル砂煙ノ糝糊タル敝衣僅カニ半身ヲ庇フタル乞食等ノ施物ヲ乞フノ狀宛然トシテ眞ニ逼ル此畫ヲ視ルトキハ啻ニアイベリアン半島ノ郵便事務ノナラス亦タ西班牙人民ノ生計貿易ノ狀ヲモ悉知スルヲ得ヘシ

西班牙ノ出品中最モ着眼スヘキモノハ千八百二十五年頃ノ西班牙郵便脚夫ノ狀ヲ描ケル伯林博士ボルガルノ水繪並ニ西班牙市外脚夫ノ特用具タル毛皮底紐付ノ長靴ト色綿布ノ頭飾ト緊要ナル旅行狀トナリ此等ハ前記ノメジナシドニアナルフヒギヨロアノマリアノ、バルト氏之ヲ出品セリ(未完)

○ゴータマラ郵便事務景況 近頃發布セシ千八百八十三年ゴータマ

ラ驛遞局ノ報告ニヨレハ同年中ニ遞送シタル郵便物數(書狀印刷物及ヒ書留郵便物共)ハ二百一十一萬三千三百六十六個即チ千八百八十二年ノ郵便物數百四十萬四千三百三十三個ヨリ多キコト七十一萬三千二百二十三個ナリ此中過半數(即チ百十三萬九千六百十三個)千八百八十二年ハ僅カニ七十六萬九千六百四十六個)ハゴータマラ府ニ到達セシ内外郵便物ニ係ル該首府ノ貿易漸次盛大ニ赴キシヨリ現今ニテハ唯郵便物ヲ配達スルヲメテ十八ノ脚夫ヲ使役シ七月以後ハ別ニ開函人ヲ置テ郵便函ヲ開集セシメタリ

千八百八十二年十二月書留郵便物取扱新規則ヲ頒布セシニヨリ千八百八十二年(昨年度)ニハ書留郵便物ノ數六千五百六十九個ナリシモ千八百八十三年(本年度)ニハ其數一萬七千三百三十二個ノ多キニ達セリ其中央郵便局ニ來着セシモノハ四千三百三十三個ニシテ發送セシモノ

ハ九千八百七十個ナリ。而シテ此種是郵價物ノ内六千三百八十八個ハ内閣郵價物ニ係リ三千四百八十二個ハ高橋郵價物ニ係ル。而シテ其中一個ノ紛失ナリ。ハ吾人ノ注意スヘキ一事ナリ。

千八百八十三年ハ普通ニシテ公債額公債借款ノ中銀行券及ハ持券人總額等ニシテ九萬七千八百九十、ハツ寶玉及ハ高價物品、ハ見積代價四千九百六十八、ハツナリ。此等ノ物品ノ運送料ハ銀行總額、ハ公債額、ハ四分寶玉額、ハ同シテ一分トナシ。其總額六百、ハツ三十九、ハツボナリ。シテ、然レモ本年ハ債額公債郵價物實施ノ初年ナレハ此成果ハ尚ホ未ク充分ナリト云フヘカラス。

又郵價物ノ運送料ハ故其セシキ有ハ昔ハ事務ハ蓋支ナリノ、ナラス之カ、ハ能率ヨリハ頗ル總額費ヲ減省セリ。即チ其費用ハ一萬八千七百十八、ハツ三七、ハツボナリ。而シテ、總額額ヨリ少ナリト雖シテ六千、ハツ

千八百八十二年ノ實費ヨリ減少セリ。ナリ。而シテ、四百八十九、ハツ三、ハツボナリ。

ナリ。

又一千八百八十三年ハ郵價物ヲ新設セリ。額三十七、ハツナリ。故テ現今ナリ。ナリ。郵價物ノ總額ハ百十四、ハツナリ。而シテ、其郵價物ハ、其額ハ、文官ヲ兼務シ、セリ。ナリ。此種郵價物ハ、是ハ、郵價ノ支出トシテ、ナリ。

○陸奥郵政會局 同前ハ本年一月一日ヲ以テ其事務ヲ開始シ、其規模ノ如クハ、本領制度國內陸奥郵政會局ノ管轄ト見テ知、ナリ。

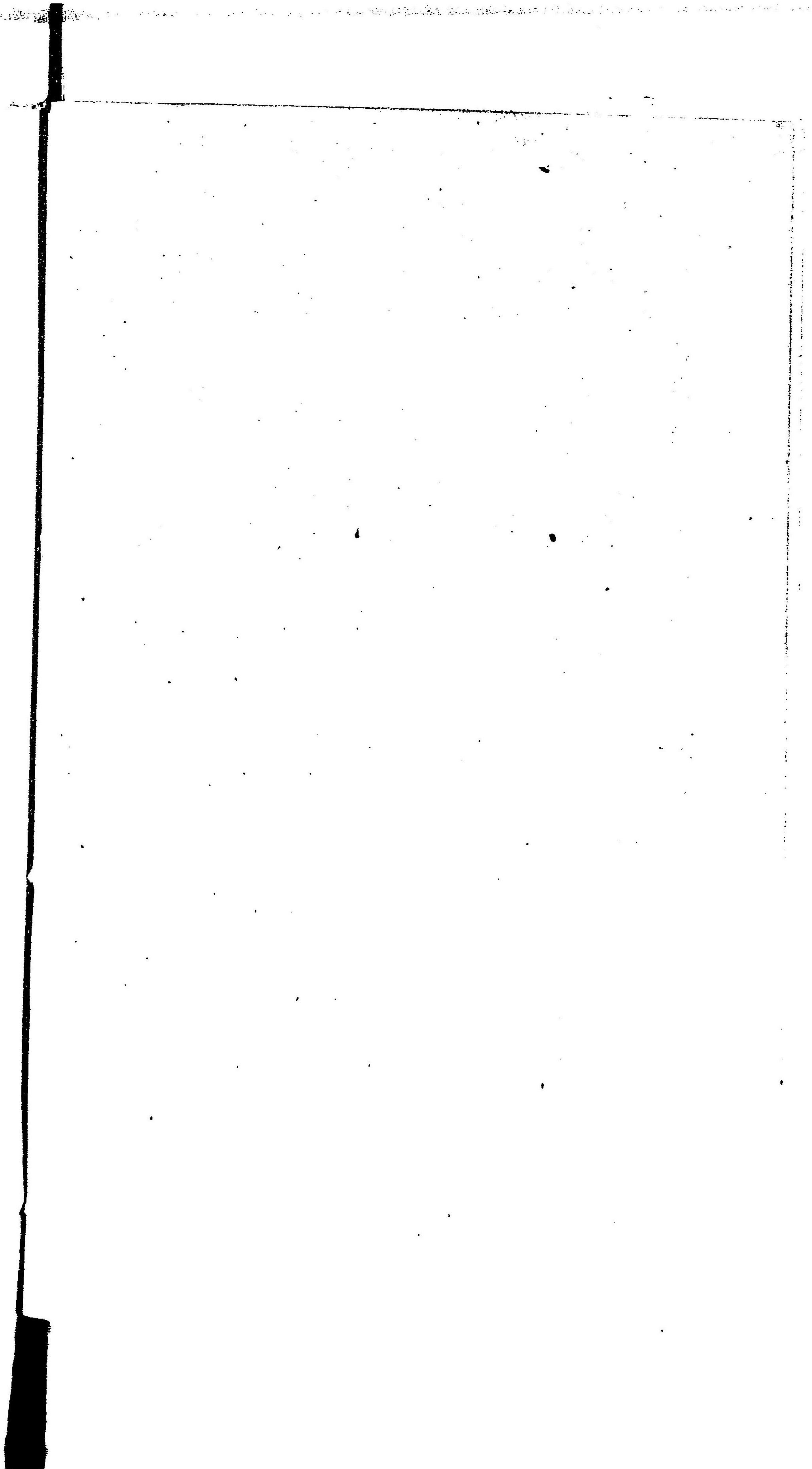
張局郵便物差立配達一覽表

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
金澤局	全	二、七〇四	一、五〇七	三、二〇一	五、七〇九	四、七〇九	二、八〇〇	一、九〇〇	〇	五、八〇〇
富山局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
福井局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
松江局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
岡山局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
廣島局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
赤間關局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
和歌山局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
德島局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
松山局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
多度津局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
高知局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
博多局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
大分局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
熊本局	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇
總計	全	一、〇七六	一、〇〇五	一、四三〇	三、六〇七	一、五三三	一、二〇〇	一、九〇〇	〇	三、六〇〇

各出張局中京都函館新潟鹿兒島ハ報告未着ニ付掲載セズ

明治十七年六月各局及出

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
本局	全	五、四〇六	三、〇二五	一、四八五	六、八八〇	三、二四七	二、一〇〇	八、四〇〇	一、四九〇	二、三〇〇
大坂局	全	一、八〇五	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
横濱局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
神戸局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
長崎局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
高田局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
高崎局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
四日市局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
名古屋局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
大津局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
岐阜局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
長野局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
福島局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
仙臺局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
青森局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
山形局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
秋田局	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇
合計	全	一、〇八四	一、〇七五	一、五八五	二、六四九	一、三〇五	一、〇七五	三、〇〇〇	〇	二、一〇〇



驛遞局藏版

明治十七年五月十七日出版屆

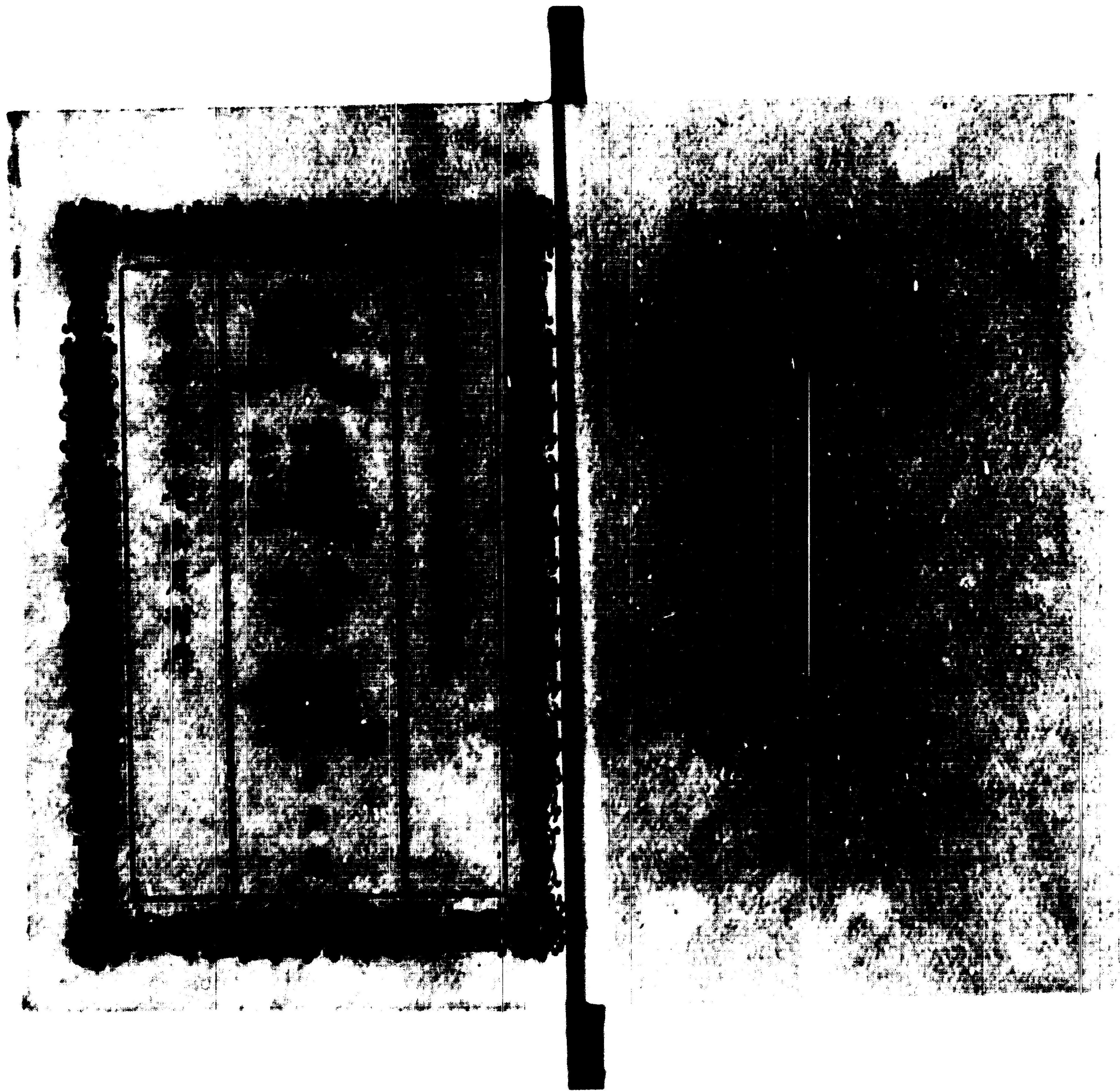
東京々橋區竹川町二十番地

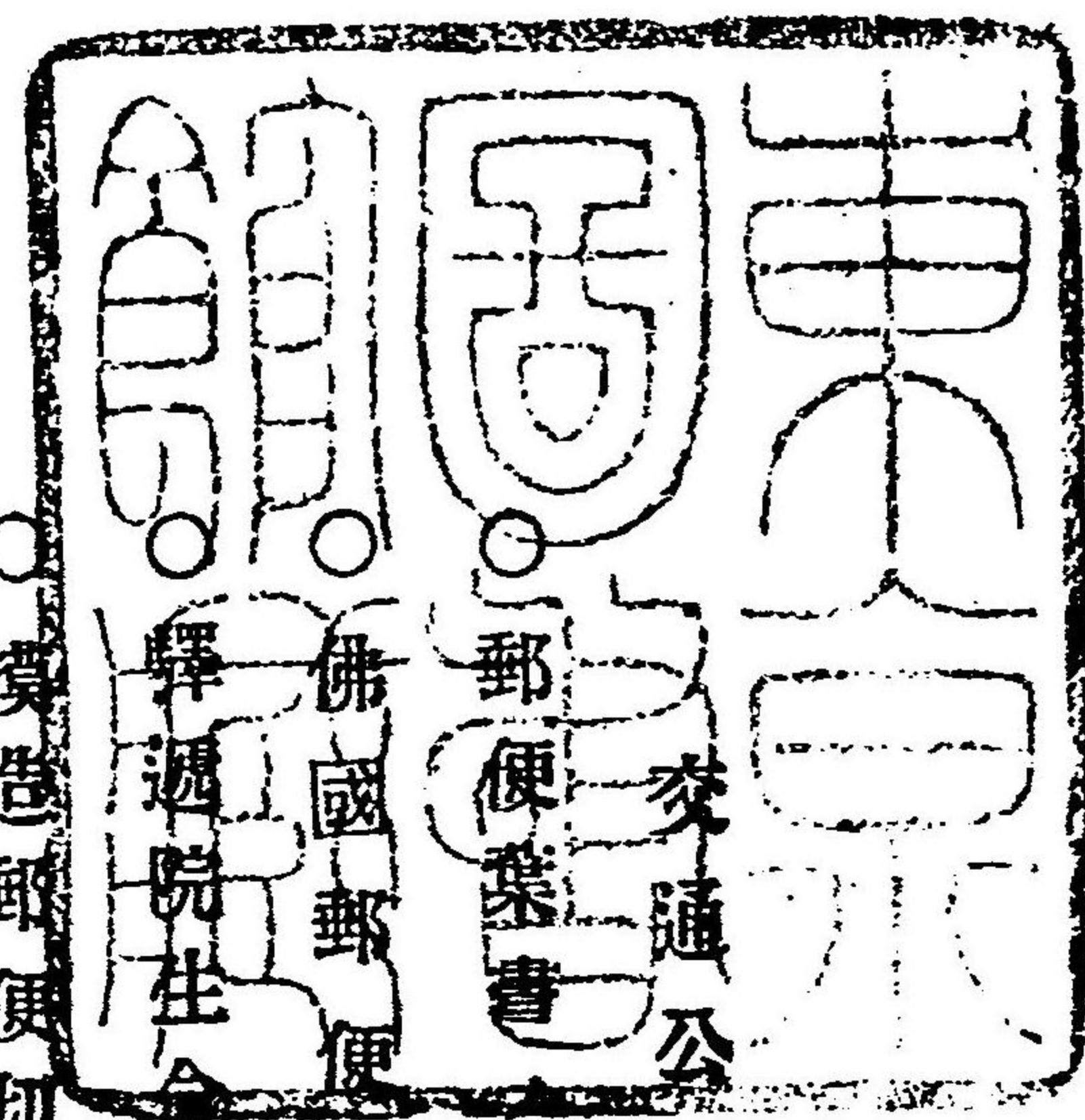
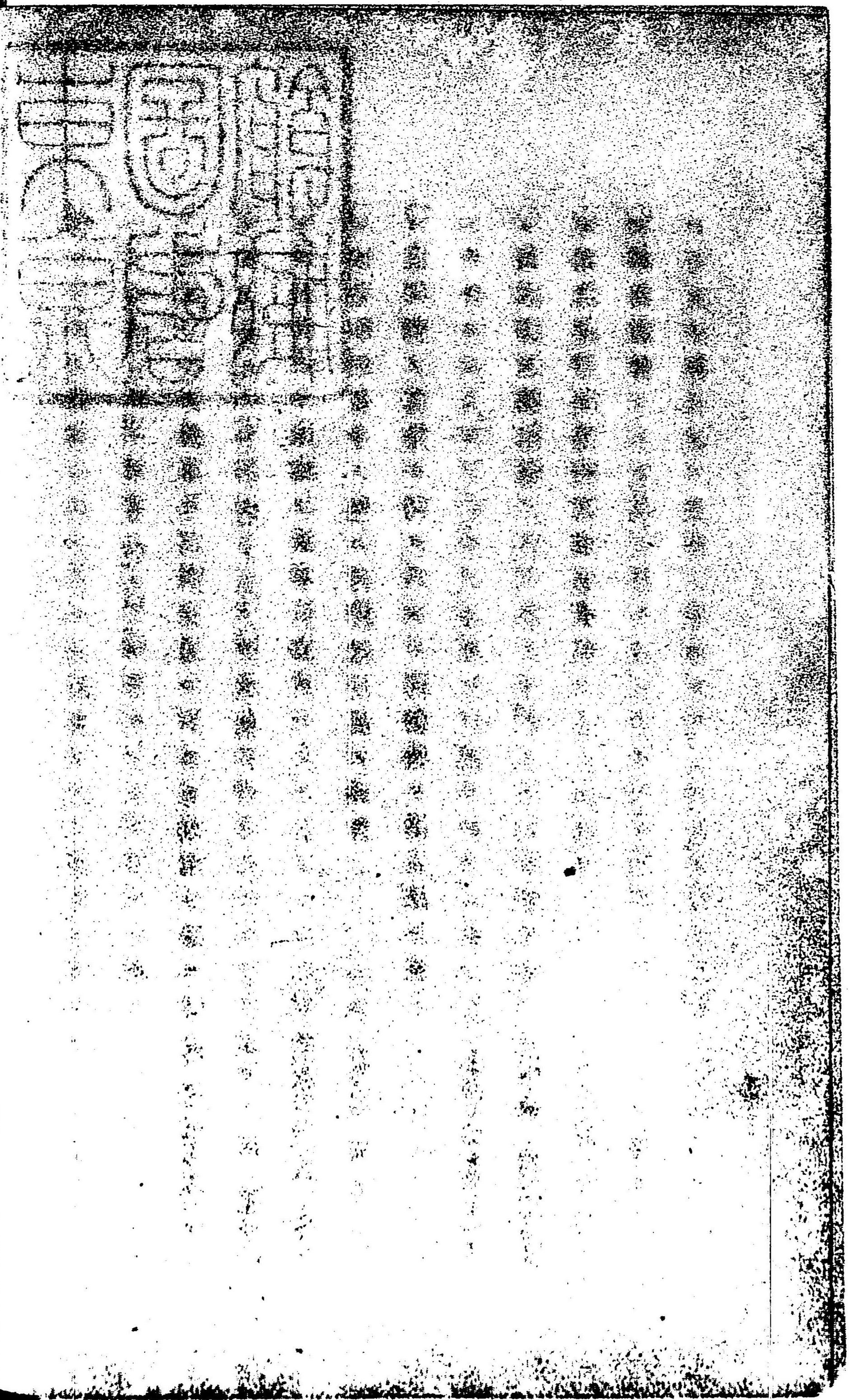
賣捌所

報行社

定價金拾錢

九月五日 駆逸局 文付





交通公報第五號目錄

沿革及萬國交通ニ對スル効用ヲ論ス

渡邊醇之助譯

佛國郵便電信省ノ組織(承前)

森 則 義譯

佛國郵便生命保險及養老積立金

小栗栖香平譯

撰造郵便切手ノ件ニ付總理局長ノ照會

新居 練三譯

虎列刺ノ傳染ヲ防ク爲メニ郵便物ニ消毒法ヲ施

小栗栖香平譯

ス

英國驛遞院組織

田村 利用譯

獨逸國新聞豫約購求法(承前)

渡邊醇之助譯

雜記數件

交通公報第五號

○郵便葉書ノ沿革及萬國交通ニ對スル効用ヲ論ス

渡邊醇之助譯

信書ノ形狀ハ歲月ヲ經過スルニ從ヒ許多ノ變遷ヲ受ケタリ往昔ノ信書ハ環ヲ以テ蠟板ヲ綴合シタルモノニシテ左ナカラ書籍ト同一ノ形狀ナリシカ星移リ物換リ變シテ卷紙ノ狀トナリ中世ニ及ヒ更ニ一變シテ之ヲ折疊ニ簡便ナル封皮中ニ容ル、トトナレリ蓋シ此等ノ變遷ハ大概材料變更ノ影響ヲ受ケシモノニシテ材料ハ初メ板ヲ用井シカ一變シテ羊皮紙トナリ再變シテ紙トナリ近世ニ至テハ鉄板ヲ以テ紙ニ代ヘント試ムルニ至レリ

信書形狀ノ變化ハ實ニ材料ノミナラス亦時ノ風習事務ノ都合並ニ遞送法等ノ變革ヨルモノ多シ而シテ隨テ變スレハ隨テ簡便ヲ加ヘシ

「恰モ信書認方ノ變遷ニ於ケルカ如シ蓋シ信書認方ノ變遷ハ往昔ニ於ケル書狀ノ認方並ニ其表書ニ記スヘキ文字ノ増減ヲ見テ知ルヘシ」
 通常信書ノ体裁ハ通信ヲナスニ十分簡約ナル能ハサルナリ之ヲ詳旨セハ紙質ヲ撰ミ之ヲ折り疊ミ表包ヲ用井封緘ヲナシ印章ヲ捺スル等ノ手數アルヲ以テ簡ナル能ハス又丁寧ナル信書ヲ認ムルニ當テハ自カラ定言套語アリテ明ラサマニ筆者ノ意ヲ寫出ス能ハス是約ナル能ハサル所以ナリ

獨逸帝國現驛遞卿スターフン氏ハ能ク是等ノ事情ヲ觀察シ一千八百六十五年カル、スルーヘニ開設セシ郵便會議ニ召集セル聯邦各國驛遞局ノ議員ニ參考書ヲ附與シ書中新奇ノ無封信書ヲ採用シ其表面ニ受取人ノ名宛ヲ記シ裏面ニ通信文ヲ掲ケ距離ノ遠近ニ拘ラス凡ソ一ルリソクノ低稅ヲ以テ之ヲ遞送セシテ保薦セリ而シテ此考案ハ所

多ノ贊成ヲ得タリシモ遂ニ之ヲ實施スル能ハサリキ蓋シ其然ル所以ハ第一聯邦郵便制度ハ國毎ニ其趣ヲ異ニスルト第二此方法ヲ採用スルルハ收獲上非常ノ減少アラシカチ懼ル、ニヨルナリ
 一千八百六十九年ニ至リ始メテ奧國維納府ニ於テ博士クマニスエル、ハルマル右ノ考案ヲ實施センコトヲ建言セリ是ヨリ先氏ハ幾多ノ實驗ヲ積ミ大ニ悟ル所アリ以爲ラシ從來遞送セシ信書ノ數ハ億萬箇ナラス然レモ其中ニ記ス所ノ緊要ナル條件ハ減ニ僅少ニシテ餘ハ徒ニ文辭ヲ裝飾シ只行文ノ体裁ニ齷齪タルノミ且夫レ封皮ハ無用ノ贅物ナリ強テ封皮ヲ用ササルモ亦之ヲ遞送スルヲ得ヘシト又氏ノ算測ヨレハ信書百通ノ費用ハ三十一「フラン」ク五十五「サンチム」ニシテ一通ノ費用ハ三十一「サンチム」二分一ナリ其中簡單ニ通信文ノヨク記スモノハ三分一ニシテ是等ハ低稅ヲ以テ遞送スルコトヲ得ヘキモノナリ又

以爲ラツ此ノ如キ種類ノ信書ヲ封皮ナク低稅ニテ遞送スルハ賦ニ容
易ノ業ナリト

氏ハ其意見ヲ維納府自由雜誌ニ投書シ之ヲ實施セシメテ奧國驛遞局
ニ勸奨セシカ全驛遞局ハ此事ノ郵務改良ニ關係ヲ及ボスコト大ナルヲ
知リ幸ニ氏ノ意見ヲ採用シ千八百六十九年十月一日ヲ以テ之ヲ實施
スルニ至レリ即チ全驛遞局ハ發明者タルステーフェン氏ノ意見ニヨリ
テ葉書ヲ製造シ其表面ニハ宛名ノ記載方ヲ示シ裏面ニ通信文ヲ記載
スルモノトシ郵稅ハ僅カニ「タイクロイツェール」ト規定セリ

此新通信法ヲ實施スルヤ大ニ世人ノ贊贊ヲ得一千八百六十九年ノ末
頃迄ニ二百九十二萬六千零二葉ヲ刷出セリ忽チ自余開明諸國ノ目
ヲ注ク所トナレリ而シテ北獨逸聯邦ノ驛遞局ハ率先シテ此方法ヲ採
用シ一千八百七十年七月一日迄其準備ニ着手シ全日北獨逸ノ各郵便

局ニテ郵便葉書ヲ發行セシメ稅額ハ單ニナル信書郵便稅ト同様ニ一
「グロツ」ト確定セリ蓋シ全驛遞局カ此般葉書ヲ採用セシメ目的ハ稅額
ヲ低減スルカ爲ニアラス主トシテ信書ノ交通ヲ簡便ナラシムルニ在
ルナリ葉書發行ノ數日前北獨逸郵便區ニ於テ再度迄モ信書ノ郵便稅
ヲ低減シタルカ故ナリ而シテ北獨逸人民カ此舉ヲ贊美セシメハ發行
ノ初日ニ柏林府ニ於テ其數四萬五千四百六十八枚ヲ賣下ケタル事實
ヲ見テ知ルヘシ

南獨逸諸國モ亦殆ント北獨逸ト同時ニ葉書ヲ發行セリ又歷山堡ニ於
テモ一千八百七十年九月一日ヲ以テ葉書ノ制ヲ設ケ各驛遞局ト合同
一致シテ葉書ノ使用ヲ各國ノ交通上ニ推廣シタルヲ以テ北獨逸聯邦
ノ如ク其進歩非常ニ迅速ナリキ澳國匈牙利モ亦一千八百七十年八月
ヨリ此盟約ニ加入シ逸國及歷山堡ノ交通ノタメ五ノイクロイツェール

ノ郵便葉書ヲ製造セリ
 其後幾モナクシテ郵便葉書ノ問題ハ大ニ自余諸國ノ注目スル所トナ
 レリ
 英國ニ於テモ一千八百七十年五月ノ末遂ニ驛遞院長ヲ國會ニ召喚ス
 ルノ機會ヲ得タリ其時院長國會ニ對テ曰ク我英政府ハ己ニ新聞紙及
 印刷物ノ郵便稅ヲ減額シテ同時ニ半ペンニーノ郵便葉書ヲ現定採用
 スル事ニ決シタリ此郵便葉書ハ其一面ニ名宛ヲ記載シ他ノ一面ハ手
 書又ハ印刷シタル通信文ヲ載スルモノナリ云々其後一千八百七十年
 十月一日ニ至リ英國中偏チ郵便葉書ヲ發行スルニ至レリ (未完)

○佛國郵便電信省ノ組織(承前)

森 (則義譯)

第四章 電信事務

電氣ハ近來迄其原因確定セス故ニ「ウオルター」以前ニ電氣ノ動作ヲ証

明セシモノアレヒ之ヲ實用ニ供セント企テシモノナシ其後アンペ
 ル「アラゴ」「ファラデー」等カ電池雷脈及ヒ磁力ヲ發明セシヨリ電氣ノ
 利用漸ク進歩スルニ至レリ而シテ從來電氣ハ學問上ノ發明アルヤ否ヤ
 直チニ之ヲ電信ニ應用セシヲ以テ電信ノ沿革ハ概テ電氣學ノ進歩ト
 密着シテ離サルモノナリ
 電脈ノ動作及ヒ電池ノ發明ヨリシテ電信ヲ創設シ又電信ノ進歩ニヨ
 リテ電氣ノ現象盡ク明瞭トナレリ就中海底電信ノ發明ニヨリ電氣流
 通ノ方則ヲ發明シ且精密ニ之ヲ研究スルコトヲ得タリ抑電氣ハ一個ノ
 自然力ナリ故ニ之ヲ研究スルコト倍密ナレバ物理學化學重學活機學ノ
 現象中此力ノ原因トナリ或ハ結果トナルモノ愈多キヲ見ルナリ而シ
 テ現今ニ於テハ數多ノ方便ヲ以テ其力ヲ發生シ且ツ之ヲ各種ノ用ニ
 適用セリ蓋シ之ヲ金屬ノ導體ニ流通セシムルハ蒸氣機械ヲ用ユル

最簡單ニシテ遠隔ノ地ニ遞傳スルノ特性アルガ故ナリ
 又電氣ハ記號ヲ遠隔ノ地ニ送ルノミナラス尙ホ音響ヲ發シ列車ノ行
 運ヲ安全トシ或ハ農業及ヒ航海ニ影響ヲ及ボス所ノ氣象ノ變化
 ヲ指示シ或ハ街衢ヲ照ス所ノ燭火トナリ其他百般ノ工藝ヲ補助ス古
 今電氣ニヨリテ得ル所ノ結果斯ノ如ク其レ大ナリ然レモ學者愈々之
 ナ研究シ倍々之ヲ利用スルノ方法ヲ討索シテ止マラサルナリ(註略ス)
 以上述フル所ニヨリ電氣ノ研究ハ電信業務ノ一部分ノミナラズ尙ホ
 一種ノ學問ナルヨリヲ知ルヘシ而シテ其發達ト進歩ハ物理學、化學、重學
 ト密接關係ヲ有スルモノナリ
 故ニ電信ハ全ク之ヲ二科ニ分割ス第一技術部第二營業部ト事務部是
 ナリ
 事務科ハ郵便ノ事務部ト混淆シ事務長ノ配下ニ屬ス

技術部ハ電線ノ架設及ヒ保存ヲ掌トル軍用電信事務モ亦タ此科ニ屬
 シ陸軍ノ軍管下均シク内地ヲ十八區ニ區分ス而シテ技術部ヲ指揮ス
 ルモノハ技師ナリ
 又高等電信學校ハ千八百七十八年巴黎ニ於テ之ヲ設立セリ此學校ハ
 技術部上等官吏即チ監督及ヒ技長ヲ養成スル處ナリ
 技術部長ハ技長ト稱シ其數十六名ニシテ次ニ技師監督及ヒ副監督ア
 リ又技師ノ下ニハ看護長、看護官、器械師及ヒ職工各若干名アリ
 各縣ニ電信郵便事務長官アリテ事務長ト稱シ其事務ヲ統轄ス而シテ
 事務長ハ「セーヌ」縣ヲ除キ總數八十五名ナリ技長及ヒ營業事務長ハ全
 ク之ト關係ナキモノニシテ其位置全ク同等ナリ
 電信事務ハ政府ノ專業ニアラス故ニ人民隨意ニ之ヲ架設スルヲ得ル
 一鐵道其他ノ工業ニ均シ然レモ電線ノ架設及ヒ其私信ノ遞傳方ハ政

府ノ認可ヲ經ヘシ又定額ノ税金ヲ納メサルベカラズ(註略ス)

電信ハ一千八百五十二年ニ於テ其路程僅カニ二千「キロメートル」ナリシカ現今ハ其路程六千九百〇三萬三百五十一「キロメートル」ニ上レリ而シテ線ノ長サハ通計二億四十二萬九百八十七「キロメートル」ナリ電線ハ之ヲ分ツテ萬國電線及ヒ内國電線ノ二トナス

一線ヲ以テ一々ニテ所ヲ連絡スルハ甚タ困難ナルヲ以テ市府ヲ中央トナシ凡テ市府ニ向ツテ通信シ之ヨリ四方ニ分派スルヲトナセリ故ニ市府ハ夥多ノ職員器械ヲ備ヘ成ルヘシ休業時間ヲ減少スルヘキヲ勉メタリ又此市府ト次ノ市府ヲ連絡シ斯ノ如クシテ若干ノ電報ヲ中央部ニ集合セシム

内地電線ハ之ヲ分ツテ左ノ如シ

第一 大道路ノ本線即チ巴理「リヨン」間「リヨン」「マルセイユ」間ノ如キニ

個ノ重要ナル市府ヲ連絡スルモノ

第二 中道路即チ巴理「アミアン」ノ間「リヨン」「グルノーブル」間「巴理」「レンヌ」間ノ如キ市府ト縣ノ分局ヲ連絡スルモノ

第三 補助線即チ分局ノ設ケナキニ縣ヲ連絡スルモノ

第四 縣下ノ線即チ同縣下ノ官立二局ヲ連絡スルモノ

第五 郡區間ノ電線即チ官立電信局ト郡區ニ於テ設立費用ノ幾分ヲ負擔スル電信局ヲ連絡スルモノ

巴理電信局ニ於テハ電報其他電信端書ヲ遞傳スルニ排氣線ト稱スル特制ノ線ヲ用ユ此排氣線ハ管狀ニシテ蒸氣機關ヲ以テ之ヲ真空トナシ電報ヲ填充スル圓筒ヲ納レ之ヲ各局ニ送達スルモノヲ云フ

郵便電信ノ緊要ナル改良ハ第一千八百七十四年「ベルス」郵便條約第二、千八百七十八年四月六日ノ法令(一通ノ稅ヲ十五「サンターム」ニ低減セ

● 第三千八百七十八年六月五日巴理府郵便聯合條約(郵便物交換ノヲ
ノ區域ニ制定セルコト)第四、七十九年龍動府ノ條約(萬國電信條約細目規
則ノ制定ニ關シテ) (註畧ス)

又七十九年四月七日ノ法令ニヨリ郵便事務ヲ擴張シ且ツ郵便物ノ種
類ヲ増殖スルノ目的ヲ以テ千フランク以下ノ賒金取立ノ法ヲ發行セ

● 第三千八百八十年萬國郵便連合國過半ノ全權委員巴理府ニ集合シ小
包郵便ト稱スル小荷物ノ交換法ヲ制定セリ而シテ佛國ハ一千八百八
十一年三月三日ノ法令ヲ以テ小包郵便物每一箇ノ稅額ヲ減シテ十三
フランクトシ此稅額ヲ海外ノ小包郵便物遞送ニ及ホサンコトヲ勉メタ
リ (註畧ス)

又郵便電信聯ハ公衆ヲシテ節儉ノ風習ニ浸染セシムルノ目的ヲ以テ

● 第三千八百八十年十月九日驛遞局貯金預所設置草案ヲ下院ニ差出セシカ
● 第三千八百八十一年四月九日法令ヲ發シテ貯金預所ヲ全國ニ
● 併設シ且英國伊國ト同一ノ好結果ヲ得ルニ至レリ蓋シ此事業ハ貯
● 蓄ト貯蓄トヲシムルノミナラス傍ラ政府ニ莫大ナル資本ヲ與フルモ
● ノナリ

● 第三千八百八十二年四月二十一日ノ法令ヲ以テ前拂郵便切手ヲ貼付ス
● 所ノ郵便及ヒ狀袋ヲ賣下ケ同法令第二條ヲ以テ切手楨ノモノヲ印
● 刷セシ郵便及ヒ封皮ヲ賣下グルノ制ヲ設ケタリ

● 第三千八百八十二年四月二十一日ノ法令ヲ以テ前拂郵便切手ヲ貼付ス
● 所ノ郵便及ヒ狀袋ヲ賣下ケ同法令第二條ヲ以テ切手楨ノモノヲ印
● 刷セシ郵便及ヒ封皮ヲ賣下グルノ制ヲ設ケタリ

第五節 驛遞電信省ノ組織

● 第三千八百八十一年三月十九日頒布ノ布告ハ驛遞電信省ノ組織ヲ改正シ

同年三月廿四日附同省布達ハ事務章程ヲ制定セシモノナリ

驛遞電信省ノ組織ニ關スル布告

共和大統領ハ

千八百六十二年一月廿日及六十五年十一月附布告

千八百七十八年二月二十七日ノ布告

千八百七十九年二月五日ノ布告ニ基キ

布告スルコト左ノ如シ

第一條 驛遞電信省ハ官房及庶務局、職員(卿直轄)統計、示教、要求、事務科
(以上ハ現今改革セリ)ノ外左ノ四局ヲ設置ス

第一 材料及營繕局

第二 駐在事務管理局

第三 郵便事務管理局

第四 會計局

第二條 右四局ノ長官ハ各其統轄スル所ノ局名ヲ官名トナスヘシ

第三條 事務章程ハ同省布達ヲ以テ制定スヘキモノトス

第四條 此布告ニ抵觸スル所ノ諸規則ハ以來廢止タルヘシ

第五條 驛遞電信卿ハ此布告ヲ實施スヘシ

大統領 シュエールグ レゾヒー自署

驛遞電信卿 コンエリー奉

驛遞電信省ノ事務章程ヲ制定スル布達

驛遞電信卿ハ

千八百八十一年三月十九日ノ布告ニ依リ

布達スルコト左ノ如シ

第一條 省中事務章程ハ別紙ノ如ク制定スヘシ

第二條 此布達ハ各自之ヲ遵奉スヘシ

千八百八十一年三月廿四日 驛遞電信卿 コシエリ

(譯者以爲ラク此布告ニヨリテ規定セシ事務章程ハ爾後屢改正増減アリシモノト見ユ因テ千八百八十三年刊行ノ書ニ付テ之ヲ補フ)(未完)

○驛遞院生命保險及養老積立金英國龍動府每週エコノミスト新聞抄譯 小栗栖香平譯

驛遞院生命保險及ヒ養老積立金ノ新法ハ來火曜日ヲ以テ實施セラル、等ナルカ彼ノ公益事業ニ熱心ナルフホーセツト氏ハ水曜日ニ於テ此新法ノ大要ト其利益トヲ公衆ニ説明スルノ機會ヲ得タリ蓋シ此新法ヲ規定セシ目的ハ一ハ生命保險ノ區域ヲ擴張シニニ大ニ老後若シクハ死後ノ準備ヲナスノ方法ヲ容易ナラシムルニ在ルナリ從來郵便

局ハ二十ポンド以下ノ金額ヲ保險シ五ポンド以下ノ養老券ヲ賣下グルヲナカリシモ此新法ニヨリ今後ハ五ポンド以下ノ金額ヲ保險シ一ポンド以下ノ養老券ヲ賣下グルコト、ナレリ若シ夫ノ勉勵ナル保險會社ノ保險金平均額ハ僅ニ八ポンドナルコトヲ配臆セハ此最下限減少ノ必要ナルハ識者ヲ俟テ後ニ知ラサルナリ驛遞院從來ノ制度ハ只上等社會ノ人ノミヲ益シ其利澤勞力社會ニ及フコトナク節儉ナル小民ハ其餘財ヲ貯金會社等ニ預込ニ一旦會社ノ破産ニ遇ヒ多年節儉ヲ積ミ其老後ノ準備ヲナシ或ハ其家族ノタメニ餘財ヲ貯ヘント欲セシ心勞モ之ガ爲メ全ク水泡ニ屬シ恰カモ未ダ曾テ蓄貯ヲ試ミシコトナキモノト一般依然貧困窮乏ノ域ヲ脱セサルモノアリ然レハ此等ノ人ニ對シテ此驛遞院ノ安全ナル保險法ト彼ノ共同積金會社ノ不安全ナル積金法トハ其徳ノ多少固ヨリ日ヲ同フシテ之ヲ論スヘカラス加之ナ

ラス此新制度ハ現存ノ保險會社ヲ獎勵スル所ノ具トナリ此等ノ會社
ヲシテ其花主ヲ求ムルノ必要ナルコトヲ覺知セシメ懇切ニ其事務ヲ
取扱ハシムルニ至ルヘシ然ハ則チ此新制度ヨリ生スル關接ノ利益亦
少小ニアラサルナリ

此新制度ノ保險人及ヒ養老掛金主等ニ及ボス所ノ新便益モ亦決シテ
前記ノモノニ讓ラサルナリ此ノ便益ニ就テハフオーセツト氏ノ説ヲ抄
出スルチヨシトス其説ニ曰ク

願フニ從來養老金ヲ掛ケ込ミ又ハ生命保險金ヲ拂込ムモノ、數大
ニ増加セサルハ職トシテ其經由スヘキ手續ノ煩雜ナルコ由ルナリ
即チ養老金ヲ掛ケ込ミ又ハ生命保險金ヲ拂込マント欲スレハ其都
度自ラ郵便局ニ出頭セサルヲ得サルカ如キハ是其一例ナリ然ルニ
今後貯金預人ニシテ養老金ヲ掛込ミ又ハ生命保險金ヲ拂込ムモノ

ハ自ラ郵便局ニ出頭スルヲ要セス唯貯金通帳ノ内若干(其金額ハ一
週間ニ付數)シルリングナルモ又ハ一週間ニ付一「ペン」ナルモ妨
グナシ)ヲ以テ養老金ノ掛ケ込ミ又ハ生命保險金ノ拂ヒ込ミニ振向
ケラルヘキ旨ノ願書ヲ出スヘシ一タヒ此願書ヲ差出セシ以上ハ別
ニ手續ヲ要スルコトナク該貯金通帳金額ノアラソ限リハ該願書面
ニ從フテ夫々之ヲ振向クヘシ當時英吉蘭、蘇格蘭、愛爾蘭ニ開設スル
驛遞院貯金局ハ七千四百餘ヶ所ニシテ其貯金主ハ總計三百十萬人
其貯金總額ハ實ニ四千四百五十萬「ポンド」ナリ年齢ニ應シテ多少ノ
手續ヲ經由セサルヘカラサル貯金主(八年以下六十五年以上ノ人ハ
其生命ヲ保險スルヲ得ス)ヲ除クノ外預ケ人ハ皆其貯金額ノ幾分又
ハ其貯金ニ生セシ利子ノ幾分ヲ以テ其老後ノ養老金ヲ準備シ若シ
クハ生命保險法ニ由リテ其死後遺族ニ資産ヲ與フルノ掛ケ金ヲ爲

ステ得ヘシ而シテ養老金積立生命保険ノ法ハ從來已ニ貯金局ノ預
 ケ人タルモノニ限リ特ニ之ヲ利用スルヲ得ルノミコアラサ會テ
 貯金局ニ預ケ金ヲナサハル人ト雖モ此養老金掛ケ込ミ若クハ生命
 保険金拂ヒ込ミノタメニ之ヲ振り向クルノ目的ヲ以テ貯金ヲ預ケ
 込ムテ得ヘキナリ而シテ予ハ此等ノ方法ヲ容易ナラシメタルヨリ
 生スル結果ノ適例ヲ左ニ示スベシ茲ニ十五年ノ童兒アリテ此年ヨ
 リ養老掛金ヲ始ムレバ一年間僅ニ十シルリングニ當ル若シ其齡六
 十年ニ至リテ之ヲ始ムレバ一年間ニ二ポンド十シルリングヲ掛込マ
 サルヘカラス左レハ幼年ノ頃ニ一週間一ペンニ一ヲ貯フルコトハ老
 年ニ於テ一週間一シルリングヲ貯フルニ均シ若シ貯金ヲ爲スルハ
 其手續誠ニ容易ナリ其方法ハ毎週ノ終リニ一ペンニ一ノ切手ヲ各
 郵便局ニテ下ケ渡ス切手張込式紙ノ區畫内ニ貼付セ之ヲ貼充シテ

其額一シルリングニ達シタルトキハ之ヲ最寄ノ驛遞院貯金局ニ持
 參若シクハ差送ルニ過キス若シ又前同年齡ノ幼童其生命保険ノタ
 メ同シク一週間ニ一ペンニ一ヲ拂ヒ込ムトキハ保險金額十二ポ
 ンドノ保險證書ヲ受得スベシト

世間恐ラクハ何物モ此方法ヨリ簡便ナルモノハアラサルヘシ而シテ
 驛遞院中同課ノ事務倍々盛大ノ域ニ進ムヘキト毫モ疑ヲ容ルヘカラ
 ス然レモ生命保險法ヲシテ廣ク貧民社會其他ノ社會中ニ流布セシメ
 ンコトハ唯手續ノ單純ナルヲ以テ足レリトスヘカラス從來ノ實驗ニヨ
 レハ保險人ノ保險社ヲ探求スル場合ハ極メテ少ク保險社ノ保險ヲ勤
 誘スル場合ハ頗ル多シ保險社ハ此目的ヲ以テ代理人若シクハ検査人
 ヲ使役シ保險人ノ家ニ就テ其健康ナルヤ否ヲ検査シ且毎週集金人ヲ
 以テ其掛ケ金ヲ集メシムルヲナセリ蓋シ私立會社カ該事業ヲ擴張

スルノ途ハ偏ヘコ此方法ニ在ルナリ驛遞院ハ私立會社ニ比スレハ該事業ノ擴張ニ付夥多ノ便益ヲ有スルハ固ヨリ論ヲ竣タサレトモ成ルヘク私立會社ノ例ニ從ヒ廣ク有志ノ人ニ門戸ヲ開クノミナラス各自ノ家ニ就テモ其保險人ヲ求ム可キナリ願フニ驛遞院ニシテ若シ其吏員ニ些少ノ報酬ヲ與フルヲ客ムナクンハ此事業ヲ實施スルヲ實コ易々タルノミ蓋シ目下代理人ノ利益ハ該事業ヲ驛遞院ニ屬セシムルコアラステ同院ヨリ該事業ヲ分離スルコアルナリ即チ鄉村ノ郵便局長ハ私立保險會社ノ代理人タルヲ得ルガ故ニ驛遞院ノ爲メニ保險人ヲ勸誘スルハ私立會社ノ爲メニ之ヲ募集スルノ利益アルニ若カス是レ甲ニ於テハ其手数料アルモ乙ニ於テハ無手数料ナルニ由ルナリ抑郵便局長ハ公務ノタメニ私利ヲ拋擲スルノ義務ナシ然レハ郵便局長ヲシテ全ク無手数料ニテ斯ノ如キ事業ヲ獎勵セシメントスルハ

ホ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルト一般到底之ヲ望ムヘカラサルナリ勿論目下必迫ノ需用ハ現今新設ノ方法ヲ以テ十分之ニ應スルヲ得ヘシ然レハ尙漸次ニ之ヲ改良シ此簡單ナル新法ヲ採用シテ將來ノ需用ニ備フルヲ吾人ノ踴躍仰念ニ堪ヘサル所ナリ

○撰造郵便切手ノ件ニ付總理局長ノ照會 新居練三譯

謹啓去ル五月十四日附第一五三ノ四八號回章ヲ以テ御照會ニ及ヒ置候撰造郵便切手ノ件ニ付追々各國驛遞局ヨリ答書到來候條左ニ取纏メ及御報道候

日耳曼驛遞省ノ答書○我邦ニ於テハ印刷營業人及工業會社中石版木版若シハ「ガ」ハニ銅版ヲ以テ郵便切手ヲ撰造發賣スルモノ不勘且右切手ハ專ラ左ノ用ニ供スルモノト被存候

一切手蒐集帳ニ貼附スル

二郵便物ノ形狀ヲ示サンカ爲メ郵便必携等ニ貼附スルヲ

三表紙類張箱類年玉等ヲ裝飾スル爲メ貼附スルヲ

其他郵便切手ヲ貼付スヘキ場所ニ消印後ノ印影又ハ切手ノ模倣アル商用上端書ヲ製造スルモノ有之又ハ右等ノ模倣切手ヲ信書ニ貼用セント試ミタルモノ不勘候

我邦ニ於テハ切手類ヲ模倣スルモノ有之節ハ法律ノ力ヲ藉ラサレハ處分ヲ施コス能ハサル成規ニ有之候然ルニ法律中郵便切手ノ模倣ニ係ル明文無之ニ付若シ模倣者アルモ敢テ其罪ヲ問フニ由ナシ爲メニ郵便會計上損失ヲ被ムル事不勘因テ刑法改正ノ日ヲ待テ右罰則ヲ設ケンカ爲メ已ニ先頃ヨリ其準備ニ着手致居候勿論斯ノ如キ罰則ハ只内國模倣者ヲ檢束スルノミナレハ外國ニ於テ公然之カ製造ヲ許スルハ假令ヒ罰則ヲ設クルモ全ク水泡ニ屬スル義ニ有之

而ハ佛國政府ノ意見ニ從ヒ同盟各國一般ニ右罰則ヲ設クル模倣致度就候

右ノ譯合ニ付先現行法律ニテ此弊害ヲ除去スル能ハサル國々ハ其罰則ヲ設ルニ差支無之哉否ヲ問合セ協議ノ上互ニ内外切手ノ模倣ヲ禁制致候様相運候ハ、無論我邦ニ於テモ内外切手模倣禁制ノ條項ヲ刑法中ニ掲載可致所存ニ有之候

内外郵便切手ノ模倣ニ付キ各國一定ノ禁制ヲ設クルモ模倣切手ノ使用ニ係ル處分ハ其國內地ノ法律ニ任シ敢テ特別ノ處分法ヲ設クルコ及ハサル義ト被存候

澳國驛遞局ノ答書○我國ニ於テハ十ノクロサチエル郵便切手ノ模倣者ヲ見受候事屢有之候得共外國郵便切手ノ模倣ハ未タ見受不申候

我國ノ法律ニテハ郵便切手ヲ蒐集スル者ノ爲メ切手ヲ摸造發賣スルコトハ未ダ禁止不致候得共此等ノ事ヨリ生スル弊害ハ佛國番見之通ニ付若シ各國政府ニ於テ其國郵便切手摸造ノ制禁ヲ立ツル場合ニ於テハ我驛遞局ニ於テモ亦我政府ニ建議可致所存ニ有之候
 埃及國驛遞局ノ答書○我邦ニ於テハ未ダ摸造切手ヲ製造發賣スルモノヲ見受不申候
 我國内地人民ニ對シ制禁ヲ設グルハ誠ニ容易ノ義ニ候得共居留外國人ノ支配ハ強迫條約ニヨリ我地方廳ノ權内ニ屬セサルヲ以テ各其本國ノ法律ニ準據可致義ニ有之候
 希臘驛遞局ノ答書○千八百八十一年頃郵便切手ヲ摸造發賣セシモノヲ發見シ其節直ニ製造器械ヲ取押ヘ發起人ヲ捕縛シ國法ニヨリ處分致候事有之候

右摸造ニ付聯合各國驛遞局ニ於テ必要ト認ムル法律規則ハ無異儀採用可致所存ニ御坐候

ハイチ驛遞局ノ答書○我邦ニ於テハ未ダ郵便切手ノ摸造ヲ見受不申候

歷山堡驛遞局ノ答書○郵便切手ノ摸造者ハ刑法中左ノ明文ニ據リ嚴罰ヲ加フ可キモノニ候得ハ我邦ニ於テハ未ダ内外郵便切手ノ摸造者ヲ發見セシメ無之候

第百八十八條 内外郵便切手類ヲ摸造スルモノ或ハ摸造切手ヲ發賣スルモノハ二ヶ月以上三ヶ年以下ノ禁錮ニ處シ第三十八條ニヨリ禁示ニ附スルコトアルヘシ

第百八十九條 摸造切手ヲ購求シ之ヲ使用シタルモノハ八日以上一ヶ月以下ノ禁錮ニ處ス

知照通局ノ警書〇義マコソツテムレムレ於テ郵便切手ノ製造ニ
從事セシモノ有之候處ニテ年前ヨリ廢棄致シ候

指前切手ハ仕テ我邦内取ニ於テ見受申候現ニツレハ一府内ニハ
テ一ニ製ノ郵便切手貯蓄所有之候

我邦ノ見込ニテハ郵便切手ノ製造ヲ禁シ其計儀使用ヲ豫防スル
最ニ適當ナル手段ニ推定ノ行ハルニ因テ之ノ間且ニ條約ヲ締結スル

事必要ト候者候然レハ遠隔ノ切手又ハ廢止切手ノ製造ハ私人上
等々及ボス事無之ニ付取テ他國意見ノ如何ニテ爲ノ特別ノ處分法

ヲ設ケルニ及ボスト存候
各國郵政局ノ警書〇我内地ニハ切手ヲ推銷賣買スルモノヲ見受不
申候

切手ノ製造ヲ禁止シ及除儀ノ所屬ヲ豫防スル候處之義ハ各國公使

ヲ經テ關係諸國ノ意見ヲ得テベキモノナリ各郵通局間ノ協議決定
スベキモノ無之候ト存候

瑞西郵通局ノ警書ニ我邦ニ於テハ切手ヲ推銷賣買シ若クハ郵便切
手貼用セシト試シテベキモノ一人ニ見受不申候勿論英清魯及海外諸

國發行ノ切手ヲ推銷セシ若色石製用ノ諸國ニ時々見受候得共候
者ハ瑞西ノ切手ヲ推銷スルモノ無之候者ニテハ實際郵便切

手貼用ノ用ヘキ與精巧トベキモノナラザル以上ニテハ爲ノ私人
推銷ニ及ボス限ノ事ニ無之候ト候存候

五月十四日附回車ノ土竹早達司法警察署ニ同令ニ候處其警書ハ左
ノ通ニ御座候

若色石製ヲ以テ郵便切手ヲ推銷スルヲ禁止スルニ其計儀ノ所
屬ヲ豫防スル爲由書ノ處分法決定可相成候ニ付請者共ニ御尋問

ノ題了承或領借本月十九日附ノ御書轉到總以來關稅刑罰法及他法
ノ中存ニ關スル法律規則等取調儀處刑法他法中ニハ大體其條項
無之只ハリルウキルハリルカンバリーニヨク千八百七十二年及三年
ノ法律レユテリグ千八百七十四年ノ法律ノ他法中ニ度ノ違儀處
有之儀

ハリーニグール及ヒハリーニカンバリーニヨク他法○據處印紙類郵便
電信切手類ヲ借用セント金ツルモノハ五年以下ノ禁罰ヲ受ク三
ヶ月以上ノ禁罰ニ處ス又印紙切手類ヲ印圖金額以上ニ借用セ
シ金ツルモノ又ハ再行セント金ツルモノハ禁罰若クハ罰金ニ處
ス

レユテリグノ他法第百二十八條○内外郵便切手類ヲ據處賣買ス
ルモノハ五ヶ月以上一ヶ年以下ノ禁罰ニ處ス

切手知リテ據處切手類ヲ購求費用スルモノハ八日以上六ヶ月以
下ノ禁罰ニ處ス

有ノ明文ニヨレバレバニテリグノ規則ハ他國ノ希望ヲ満足スベキ
モノナレモハリーニカニ於テハ據處ノ事ハ實則ヲ知ツル限ニ然之只
據處費用スルモノノ事ヲ明カスルモノト知見ヘ儀

據者共ノ應處ニテハ其正ノ切手トシテ費用ノ用ニテ切手類ヲ製
造スルモノハ嚴罰ヲ加フベキモノト被存儀

左儀附者聯合各國互ニ協議ヲ進テ各々其國內ニ制禁ヲ設ケル
必要ノ事ニ有之尤モ有制禁ハ各國適宜ニ設定可致儀ト存儀
我邦ニ於テハ切手類據處制禁ノ件ハ關州條ノ立法條內ニ載スルモ
ノニテ中央政府ノ權限外ニ候ヘバ有制禁ヲ設ケルハ關州條ニ有之
尤モ據處切手ヲ費用スル事現行犯ニ屬スル場合ニ於テハ故意ニ出

ツルト否トテ問ハズ總テ相當ノ處分ヲ施コスヘキヲ勿論ト被存候
就而ハ各州郡ナシテ其法律中ニ至當ノ明文爲相掲可申候
過般及御照會候摸造郵便切手ノ件ニ付未タ御回答無之向ハ至急何分
ノ御答相成度候此段申進候也

萬國郵便聯合總理局長

千八百八十四年七月九日

ウーゼーヌ、ボレール

大日本驛遞總監殿

小栗栖香平譯

○虎列刺ノ傳染ヲ防ク爲メニ郵便物ニ消毒法ヲ施ス
讀者諸君ハ定メテ之ヲ知ルナラン去年ノ夏季ニ當リ埃及國內虎列刺
病ノ流行劇烈ナリシニ因リ歐洲各港ニ於テハ避病期限間同國ヨリ來
航セシ船舶ヲ抑留セシメテ此時ニ當リ來客ハ其場合ニ應シ多少ノ時

限内之ヲ船中又ハ開靜ナル地ニ設ケアル檢疫院ニ移シ醫員ヲシテ之
ヲ検査セシメ其健全ナルヲ認ムルノ後之ニ健全證書ヲ與ヘ始メテ
自由ニ通行スルヲ得セシメヨリ其他行囊旅具モ亦盡ク消毒法ヲ施
セリ而シテ右等ノ船舶ニテ舶載シ來レル郵便物ノ中書狀ハ一通毎ニ
皆銳尖器ヲ以テ之ヲ鑽通シ硫黃烟ヲ以テ若干時間之ヲ薰シ其浸染シ
タル病毒ヲ消滅セシメ以テ無毒精良ノ郵便物トナセリ
然ルニ每週印度支那日本澳斯太刺利亞洲ヨリ埃及ヲ經テ來着スル書
狀等ハ其數幾拾萬ナルヤヲ知ルヘカラスサレハ此多數ナル書狀ニ彼
ノ錯雜ニシテ緩慢ナル消毒法ヲ施セハ爲メニ數多ノ日子ヲ空過スル
ハ固ヨリ論ヲ竣サルナリ故ニ伊太利政府ニ於テハ印度等ヨリ到達ス
ル前記郵便物右ハ平常亞歷山德黎亞府ヨリ英國半島東洋瀛船航海會
社ノ瀛船ニテ搭載シ來リブリンヂシニ荷揚スルモノハ同瀛船ニテ之

規則トナセヨ其然ル所以ノモトハプリンチンニ於テハ斯クノ如キ廣
 大ナル事務ヲ行フノ地ナク亦之ヲ施スノ吏員ナキヲ以テナリ是ニ於
 テ乎以太利以遠ノ地ニ宛タル郵便物ハ曾テ消毒法ニ由リテ遅延セ
 ル時間ノ外プリンチンヨリヴェロスニ海漕スル時間トプリンチン
 ログナヴニロト間鉄道ニテ運搬スル時間トノ差丈尙ホ一層ノ遅延ヲ
 増スニ至レリ
 今年ノ始メニ至リ埃及地方ノ虎列刺病ハ一時至ク其根ヲ絶テシカバ
 歐洲沿海諸國(就中佛蘭西及澳地利)ハ此消毒法モ全ク無用ノ手數ナリ
 トト忽チ之ヲ廢止シタルモ唯伊太利ノモハ尙ホ之ヲ實施シタリ然レ
 此郵便消毒法ヨリ生タル困難及ヒ失費ヲ減少シ尙ホ成ルヘク運送ノ
 遅延ヲ免ルルニ爲メ印度埃及等ヨリ伊太利ヲ經テ閉塞郵便物ヲ

受取ル各國驛遞局ニ對シ特ニ左ノ箇條ヲ准許セリ曰ク各驛遞局ノ郵
 便物ハ舊時ノ如クプリンチンニ於テ之ヲ荷揚シ消毒法ヲ施スコトナ
 クシテ鐵道ニテ其名宛地ニ運送スルコトヲ得ヘレ但シ此等ノ郵便物
 ハ多兒引ノ行囊ニ封閉シ一應プリンチンナル驛遞局ニ送致スヘシト
 願フニ此多兒引行囊ヲ用フルコトハ多分書狀等ニ染着シタル傳染病
 毒ハ其伊太利運送中多兒ノ氣孔ヨリ蒸發放散スルトキ其化學的ノ作
 用ニ依リテ純粹無害ノモノトナルヘシトノ考察ヨリ起リシモノナラ
 シ

日耳曼皇帝ノ驛遞省ハ此特許ヲ利用シ印度以外ヨリ發シ日耳曼ニ送
 スル郵便物ヲ速ニ受領セン爲メ直ニ日耳曼ニ達スル郵便物ハ凡テ多
 兒引行囊ニ封入シテプリンチンナル伊太利驛遞局ニ送致シ以テ其繼
 送ヲ請フヘキ旨ヲ命セリ又此等ノ郵便物ハヴェロナイノオナラフ線

路ニテハバザリア王國ノソフスライヰンニホツク鐵道郵便局國境ナ
 ル最近ノ日耳曼郵便局ニ到達シ同所ニ於テ之ヲ區分シ且ツ其繼立
 ナスヲ以テ日耳曼驛遞省ヨリ全國驛遞局ニ命ジ此等ノ郵便物ヲ日耳
 曼國內ニ入ルコトハ最早消毒法ヲ施スニ及バザルヤ否ヤノ議問ヲ審議
 セシメタリ因テバザリア驛遞局ハ此議題ノ審査ヲバザリア國務
 省ニ委任シ同省ハ亦之ヲ化學兼衛生學ノ大家タル樞密議官博士ベツ
 テンコフアルニ命ジテ其學問上ノ審査ヲ委託セリ
 博士ベツテンマフツノ意見書ハ大ニバザリア國務省高等衛生委
 員會ヲ贊成ヲ得タリ其意見書ハ郵便物消毒法ナルモノハ唯此場合
 ノミニ限ラズ全ク其効用ナクモソナリ唯其効用トモ稱スヘキモノハ
 臆病ナル人民ノ恐怖必ク除却スルノ一事アルノミトノ意ヲ記セリ此
 ノ名望アル大家ヲ取調ヘタル意見書ニヨリ郵便物再消毒法施行案ハ

全ク廢棄セラル、至レリ

此報告ハ當ニ郵便官吏ニ對シテ夥多ノ有益ナル事項ヲ含蓄スルノミ
 ナラズ私人ニ對シテ亦頗ル有益ノモノナレバ今之ヲ左ニ抄出シ
 以テ讀者ノ一察ニ供ス

ハザリア驛遞局ノ依頼ニ依リバザリア國務省ハ左ノ二問題

高等衛生委員會ニ下問セラレタリ

第一、ハザリアニ到達セル東印度郵便物ハミホツクニ於テ

何等ノ消毒法ヲ施行スヘキヤ

第二、右等ノ消毒法ハ虎列刺病傳染ヲ豫防スルニ必要ナルヤ否ヤ

或ハ少クモ目下之ヲ必要ナリトスルヤ否ヤ

此議題ヲ審理スルニハ先キ第二問ヲ思考スルヲ肝要ナルハ虎
 列刺病ノ傳染ハ人類ノ交通ニ依リトノ説ハ當今各流行病學者ノ互

ニ根唱和ヲ所ナシ然ラバ則チ荷クモ驛遞局ヲ以テ人類交通ノ一
 部トシ且ツ交通ノ媒介者ト見做ス以上ハ亦指シテ虎列刺病ノ傳
 播機ト云フモ敢テ不可ナキ也似カリ
 且ツ夫ハ漸次ニ増加シ次第ニ進歩スル所ナリ交通ハ虎列刺病ノ愈々
 速ニ倍々廣ク其傳播ヲ逞カスル原因トナスヲ得ルベシ然ハ則チ驛
 遞局ハ常ニ力ヲ盡クシテ其傳播ヲ豫防スル法ヲ講セサルヘオラ
 然レハ豫防方法ノ效能又ハ其適用ノ要否ニ係ル責任ハ驛遞局ニ屬
 ス衛生委員會ニ於テ公衆ノ健康ヲ保護スルヲ機關ニ就テ充分ニ審査
 爲サシムルヲ得ル所以ナリ
 ④英國驛遞院組織

田村利用譯

聯合郵便締盟ノ各國中其管理ノ法最モ完全ナルハ英國ノ郵便制度ト
 ス全國ノ郵便ハ倫敦府ノ驛遞院之ヲ管轄シ驛遞總長之ヲ統理ス而シ
 テ驛遞總長ハ兼テ内閣ノ一員ニ列シ議院ニ於テ郵便管理ノ方策ヲ關
 陳然レハ内閣ノ要選ナル毎ニ其交替ヲ免レサルヲ以テ驛遞院ニ於
 テ恒久不易ノ要地ヲ占ムルモ兼テ書記官ヲアリトス而シテ書記官ハ
 他ノ主等官ト同ク終身其職ニ任スルモノナリ書記官ノ外會計事務書
 記官ヲ以テ總テ該院ノ収稅計算ノ事務ヲ提理ス又權書記官三員アリ一
 員ハ内國郵便事務一員ハ外國及殖民地郵便事務一員ハ電信事務ヲ擔
 掌ス

書記官直轄ノ諸課ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 職務課
- 一 監査課

一 地方郵便地裁減

本國ハ郵便局長ノ手當金等ヲ量定シ郵便局ヲ興廢シ街衢ノ郵
便局ヲ管理ス

一 郵便物検査官

一 郵便局検査官

一 郵便局管理

一 手當金

會計事務官ニ附屬シテ計算ノ一課長アリ各所ヨリ送付セル一切
ノ郵便物ヲ検査シ量定シテ之ヲ検査員ニ送り其検査ニ附スルヲ任トス
有封封檢査ノ用局長ハ大廳者ト關係モサルモノシテ検査課長ハ直
ニ其報告書ヲ局長ニ提出スルヲ得

凡テ大英國中ニ屬スル郵便物ノ量定區分及其配達ハ特ニ定メタル

官出アリ之ヲ管理ス

地方郵便ノ組織ニ關テハ大英國ハ手續ヲ分テ十五區トシ每區監察官
一員ヲ置キ其區内ヲ管理セシムル監察官ハ中央局ノ代理人ニシテ其
管轄區内諸郵便局長ノ行長ヲ

リヴンズ・アールマン・ヤスタム・スミス・ゴードンノ郵便局長ハ各其區ノ監

察官ヲ兼ス

監察官ハ少クモ三ヶ年内ニ一回其ハ轉宜ニ由リ數回其區内ノ各郵便
局長ニ監察シテ其形勢ヲ報告スルモノトス且監察官ハ其區内ノ各郵
便局長ニ適當ニ管理シテ中央局ト郵便局長トノ中間ニ介シテ一切ノ
事務ヲ取扱フノ責アリ

監察官ハ其員ノ昇進及郵便局長ヨリ請願スル手當金ノ増加願其他
郵便局長地方ノ領ト一切ノ具狀ヲ管理シ又諸規則ノ結構及其區内郵

便事務ノ細目ニ係ル一切ノ按件ノ如キモ大概之ヲ斷決シ勉メテ中央局ノ瑣事ヲ審按スルノ勞ヲ省クモノナリ
監察官ノ職ニ備ハルモノハ郵便條例ト規則類ヲ學知通曉セサルヘカ
ラス故ニ驛遞院ノ官吏中最モ才幹アリ兼テ事務ニ練熟シタルモノヲ
以テ之ニ充ツ

千八百七十八年ノ末ニ當リ大英國中ニ設置シタル郵便局ノ數一萬三千八百八十一所ニシテ内九百五十八本局一萬二千九百七十六ハ支局ナリ而シテ郵便函ノ數ハ一萬千八百八十六個ナリ

郵便局ノ官吏ハ左ノ例規ニ據テ撰任ス

英吉蘭ニ於テ年俸百二十ポンドヲ給シ蘇格蘭及愛爾蘭ニ於テ百ポンドヲ給スル郵便局長ノ欠員アルニ當テハ驛遞總長同院ノ官吏中ヨリ撰拔シテ之ヲ補任ス但其前失ツ其欠員アル趣ノ廣告ヲ發シ下等吏員

及書記ヨリ志願書ヲ差出サシメ其上官ノ手ヲ經テ中央局ヘ送達セシム但該上官ハ願人ノ職務ニ適當スルト否ヲサルトコ就キ其意見ヲ願書ノ裏面ヘ付シテ上申ス而シテ各願人ノ書類ハ精細ニ之ヲ檢閲シ其當ルヘキ位置ニ最モ適スヘキ者ヲ撰任ス

○獨逸國新聞豫約購求法 (承前)

渡邊醇之助譯

新聞料取立方法及ヒ帳簿ノ登錄方及ヒ新聞金庫簿ノ管理方

第十六條 凡ソ郵便局ハ新聞紙ノ注文ヲ引受ルキ即時ニ新聞料ヲ徵収シ公衆ニ對シ聊カモ其ノ猶豫ヲ與フヘカラス

新聞料ヲ受取リタルキハ直チニ新聞計算簿(第二號附錄)ニ登錄シテ其受領証(第三號附錄)ヲ交附スベシ

郵便受取所ヨリ新聞紙ノ注文アルトキハ會計主管ノ郵便局ニ於テ其新聞料及ヒ配布料ヲ負担シテ之ヲ新聞計算簿ヘ記入シ其他ハ都テ該

郵便局へ直接ニ注文シタルモノト全一ノ取扱ヲ爲スベシ
 新聞計算簿ハ収入支拂ヲ對照スル爲メニ使用スルモノナレバ帳簿ニ
 書セル各廣線中一ハ収入ノ三ヲ掲ケ一ハ支出ノ三ヲ掲ケ以テ收支相
 錯雜セサル様注意スヘシ又其金額欄内ニ掲クル金額ハ皆合算スヘキ
 モノニシテ其計算方ハ新聞料収入及ヒ支出ノ月額ヲ其翌月ニ遷シ又
 之ヲ總括シテ更ニ其翌月ニ移シ以テ全一季ノ總高ヲ求ムヘシ而シテ
 全一季(三ヶ月目)ノ終リニ至テ収入額ト支出額トヲ迭ニ對照シ若シ差
 違アルハ其分明ニ其旨ヲ記シ置クヘシ尤トモ配布料ノ収入月額ハ之
 ナ翌月ニ移シ或ハ新聞料ノ収入額ニ加算スヘカラス但シ配布料計算
 方ニ關シテハ第八編第六十四條第九項及ヒ十一項ヲ參觀スベシ
 郵便局長ハ右規則ノ施行方ヲ注意監守シ全一季ノ終リニ至リテ新聞
 計算簿ヲ檢査シ其確實ナル旨ヲ記號ニテ証明スヘシ又出版地郵便局

ニ到來セル總爲換金額ヲ時日ヲ違ヘス且ツ確實ニ之ヲ領収シタルヤ
 否ヤニ關シ該局長ヲ擔任スヘキ檢査方法ハ第三十條ヲ見ルヘシ
 新聞注文帳簿ニ登記シ且其取扱ヲナスコト
 第十七條 新聞紙ノ注文ヲ受ケタル上ハ之ヲ新聞注文及ヒ配布簿(第
 四號附録)ニ登記スヘキ者トス而シテ其登録方ハ先ツ最初ヨイロハ順
 次退テ發刊地名ヲ記載シ各地名ノ下ニ其地發行新聞紙ノ種類ヲ掲載
 スヘシ而シテ其掲載ノ順序ハ先ツ購讀期限一年ノモノヲ初頭ニ置キ
 夫ヨリ期限ノ長短ヲ以テ差等ヲ立ツルモノトス尤トモ該帳簿ハ每一
 季ヲ以テ之ヲ結ヒ其一年又ハ半年期限ノモノモ最初ノ一季ニ掲ケテ
 其記號ヲ附シ餘期ノ分ハ次期ノ帳簿ニ續記スヘシ
 右新聞紙一ヶ月又ハ二ヶ月ノ注文ハ一季注文ノ次ニ別項ニ記載スヘシ

續記ノ分ハ前季ヨリノ續キ注文トノ記號ヲ附シ其部數ハ別ニ合算シテ自餘ノ注文ト混ス可ラス
各新聞紙ハ都テ新聞注文兼配布簿ニ據ツテ出版地郵便局等へ注文シ而シテ注文ヲ爲ストキハ第五號附録ニ掲タル式紙ヲ使用スヘシ又一季内ニ於テ同一ノ出版地郵便局等へ注文スルトキハ順次番號ヲ附スヘシ

一季内ニ差立ツル注文券ニハ新聞等ノ名稱トアル欄内へ其注文ノ月日ヲ特記スヘシ又現金或ハ先方取立代金ハ勿論問合書依頼書等ト雖決シテ注文券ト共ニ合送スヘカラス

自今概テ當局ヨリ支拂フヘキ新聞紙數ト云ヘル欄内ニハ唯郵便局ヨリ注文シタル新聞紙數ノミヲ記載スヘシ因テ注文セル郵便局へ發布ノ新聞紙數ハ此券ニテ知ルヘキモノニアラス

新聞紙注文兼配布簿へハ毎回注文ノ員數ト注文券ヲ發シタル日附並

ニ各注文ノ番號ヲ新聞紙種類分ケノ部ニ記載スヘシ

追注文ハ新聞注文兼配布簿並ニ注文券へ記載シ尙ホ自今購讀スヘキ

新聞紙ノ總數ヲモ記載スヘキモノトス

新聞紙ノ注文ヲ差向クヘキ地

第十八條 凡ソ配達郵便局ヨリノ注文ハ新聞表ニ記載セル新聞發行

地ノ配達郵便局へ宛ツルヲ例規トス

伯林府ニ於テ發刊スル新聞紙ハ伯林府ノ郵便新聞局へ注文スヘシ然

レハ該局へ直接ニ注文スルモノハ左ノ郵便局ニ限ル者トス

(一) 伯林府發刊ノ新聞紙ノ需要夥多ナルモノ

(二) 伯林府發刊ノ新聞紙ヲ需要スル數ハ甚ク僅少ナルモ速達

ヲ要スルヲ以テ他ノ最寄郵便局ヲ經ルノ猶豫ナキモノ

其他ノ郵便諸局ハ最寄便宜ノ郵便局(繼送郵便局)ノ媒介ヲ請フヘシ
 同上繼送郵便局ハ配達郵便局ヨリ注文ヲ受ケタルトキハ各地ヨリノ
 注文ト全様帳簿ヘ登記スヘク唯々其方法新聞料ヲ注文ト同時ニ受取
 セサルノ差アルノミ自餘ノ諸件中配達郵便局ニ關スルモノハ出版地
 郵便局ニ於ケルト全一ノ取扱ヲナシ出版地郵便局ニ關スルモノハ配
 達郵便局ニ於ケルト全一ノ取扱ヲナスヘシ
 獨逸帝國外ニ發行スル新聞紙ハ配達郵便局ニ於テ平生直接ニ交通ス
 ル外國郵便局ナキトキハ該新聞紙發刊地ニ最近セルガ又ハ最近セサ
 ルモ速達ニ便宜ナル獨逸帝國郵便局ヘ注文スヘシ然レハ伯林府發行
 ノ新聞紙ハ伯林府郵便新聞局ヘ直接ニ注文スルコト能ワサル郵便局
 ハ外國新聞紙ト雖モ尙ホ直接ニ伯林府ヘ注文スルヲ得ス故ニ此時
 ニ方テハ便宜ノ繼送郵便局若シハ直接ニ該外國新聞紙ヲ購入スル郵

○ 便局ヘ注文セサル可ラス(未完)

○英國驛遞院貯金事務 千八百八十三年ニ於ケル英國驛遞院貯金局
 ノ預リ金額ハ千三百五十七萬五千六百六十六ポンド三三シルリング一
 「ペンニー」ニシテ其拂戻額ハ千八百八十萬百七十「ポンド」十七「シルリン
 グ」四「ペンニー」ナレバ其差引貯金殘額ハ百七十七萬四千九百九十五「ポ
 ンド」五「シルリング」九「ペンニー」ナリ
 千八百八十三年ノ終ニ於テ預ケ人ノ所有ニ屬スル總額ハ四千七百七十
 六萬八千八百八十八「ポンド」八「シルリング」九「ペンニー」ニ達セリ
 千八百八十一年九月十六日驛遞院貯金局創立以來千八百八十二年ノ
 終リマテ事務取扱ノ諸經費ハ二百四十三萬九千三百六十「ポンド」十
 二「シルリング」七「ペンニー」四分ノ一ニシテ千八百八十三年ノ經費ハ二

十四萬八千七百七十九ポンド十二シリング四ペンニー四分の一ナレハ其總額ハ實ニ二百六十八萬七千五百四十四ポンド五シリング二ペンニー三分の一ナリ

○荷蘭電信局及驛遞院ノ合併 荷蘭電信局長、スターリング氏ハ此頃恩給ヲ受ケテ其職ヲ退キ、以テ驛遞總官ホフスタード氏代リテ電信局長官ヲ兼任セリサレバ當時荷蘭ニ於テハ郵便及ヒ電信ニ就テハ唯一箇ノ總理局アリテ商工水務省中ノ一局ヲナシ商工水務卿タルホフスタード氏之ヲ總理スルナリ

○白耳義工務省ノ改稱 去ル六月十六日白耳義政府ノ布告ニ依レハ是迄白耳義郵便電信局ノ屬シタル白耳義工務省ハ今後鐵道郵便電信省ト改稱スル由ナリ

○魯國驛遞電信省ノ新設 去ル五月二十二日附六月三日發布ノ魯西

亞帝國布告ニ依リ魯西亞驛遞局ト同電信局トヲ合併シ更ニ驛遞電信省ヲ設置シ六月十五日附二十七日發布ノ勅諭ヲ以テヒサツク將軍ヲ其長官ニ補任シタリ

○土耳其ノ加盟 土耳其國ハ本月一日ヲ以テ價額無公配小包郵便交換ニ係ル千八百八十年十一月三日ノ巴黎條約ニ加盟シ其取扱方細目規則モ之ヲ遵守スル由ナリ

○萬國郵便會議ノ延期 萬國郵便會議ハ本年九月開會ノ筈ナリシガ明年二月ニ延期シタリ

校正 福見尙賢

張局郵便物集配信覽表

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
山形局	全	九〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
秋田局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
金澤局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
富山局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
福井局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
松山局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
岡崎局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
廣島局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
赤松局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
和歌山局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
德島局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
松山局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
多度津局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
高知局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
博多局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
大分局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
熊本局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
鹿兒島局	全	一〇三二	六八三	一八六九	三二五八	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二

各出張局中高崎大分ハ報告未着ニ付掲載セズ

明治十七年七月本局及各出

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
本都局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
京都局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
大阪局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
横濱局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
神戶局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
長崎局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
函館局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
新潟局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
高田局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
高崎局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
四日市局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
名古屋局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
大津局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
岐阜局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
長野局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
福島局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
仙臺局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二
青森局	全	四九七〇	五〇三二	一四四一	七六七一	一四三六	〇	〇	〇	一〇三二

各出張局取扱郵便物集配信報告未着ノ分(明治十七年六月分)追表

局名	物種	書狀	書留	免稅	新聞	書籍	見本	葉書	貨幣封入	合計
京都局	集配信	九、二六〇一	二九、五七四	一、五、六四六	一、〇、三〇三	一、二、三九七	二、四七〇	一、六、八〇七	八	三、七、七二四
新潟局	全	二、三、三〇六	一、七、八一	五、三、四一〇	四、八、七六三	二、〇、八二八	八七	一、四、〇六〇	〇	一、〇、七、五五五
鹿兒島局	全	一、六、八六八	九、九七〇	二、四、三五六	五、二、七九四	一、三、四三七	七	二、三、六一九	〇	三、〇、一、七三九

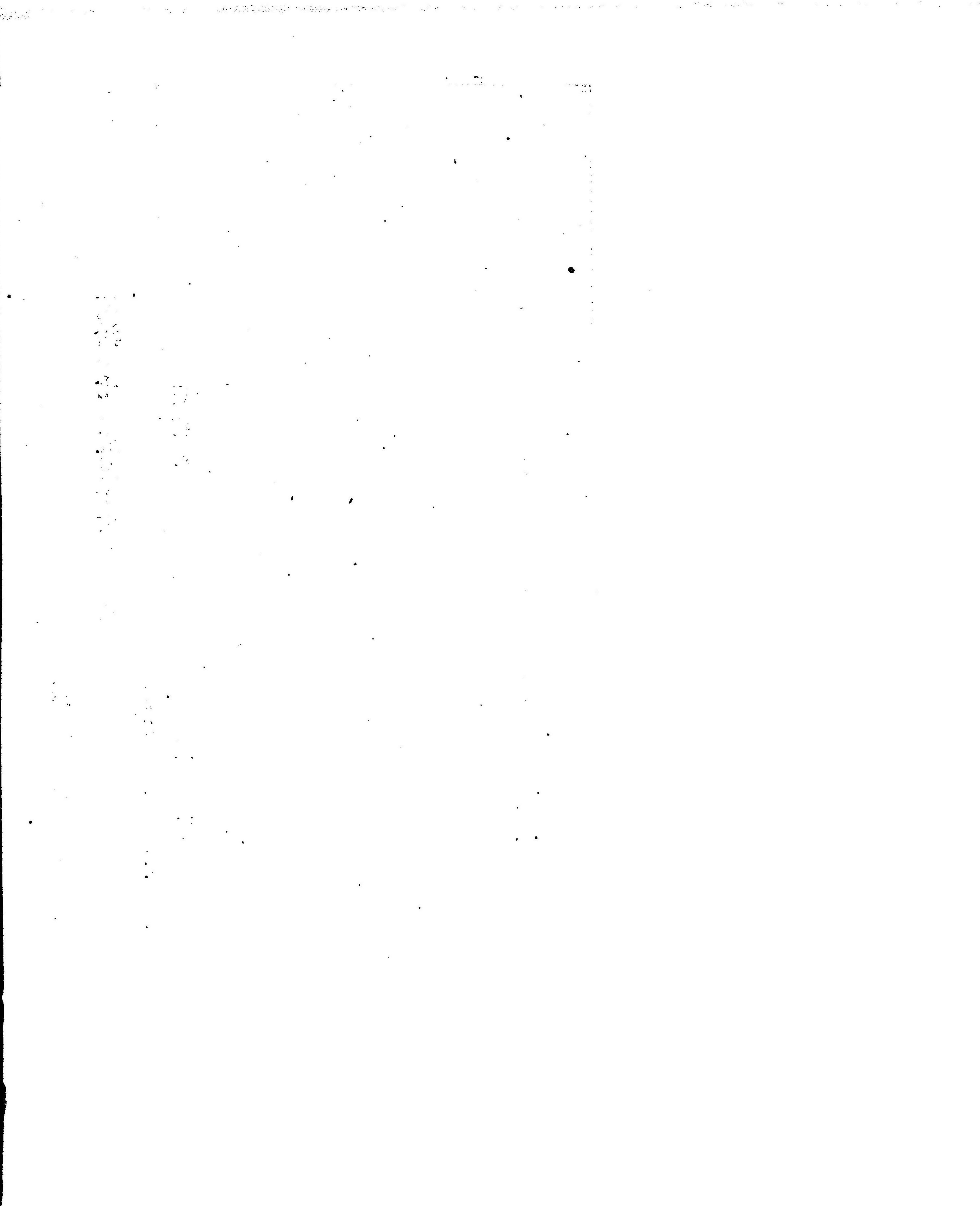
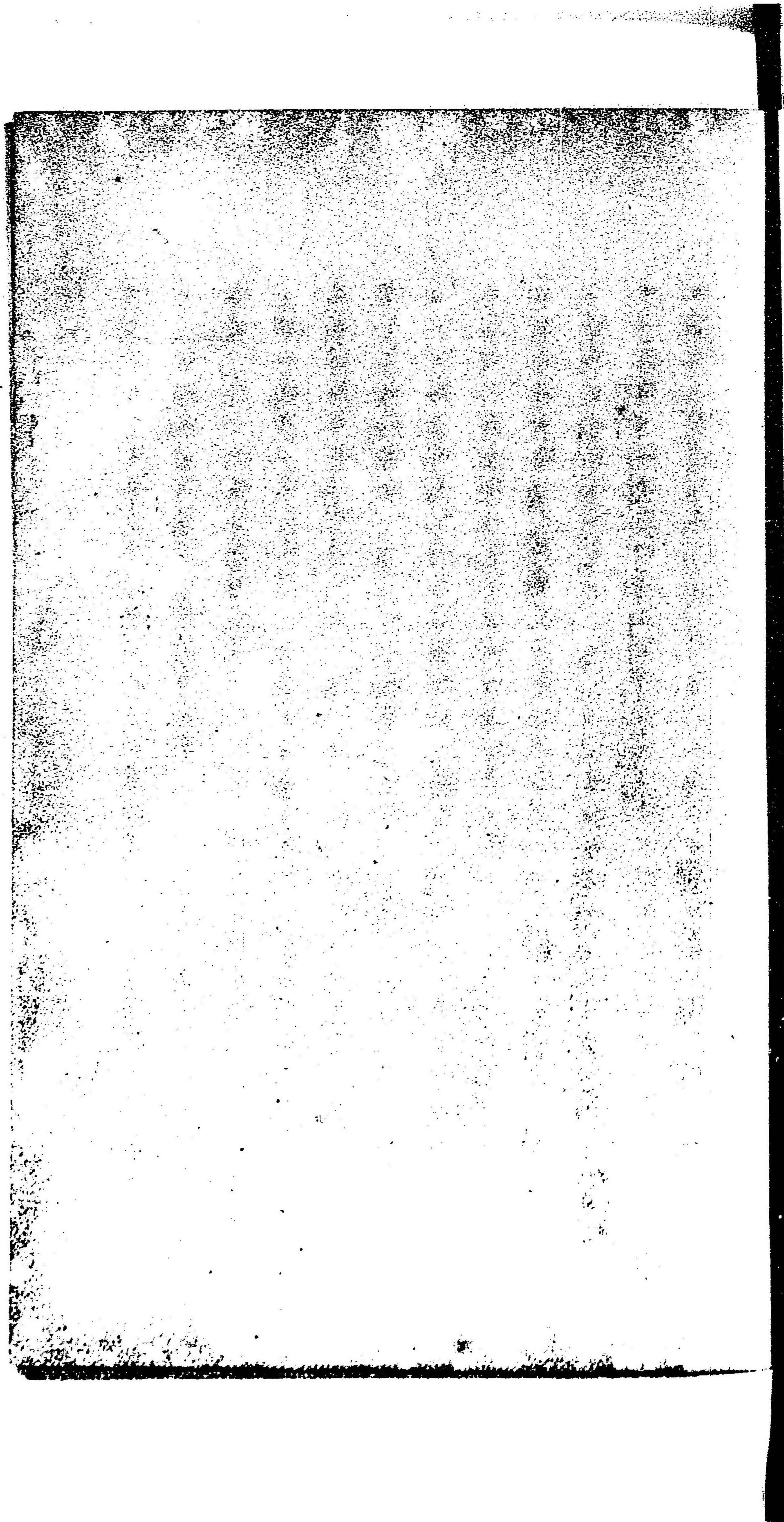
驛遞局藏版

明治十七年五月十七日出版屆

賣捌所

東京々橋區竹川町二十番地
報行社

定價金拾錢

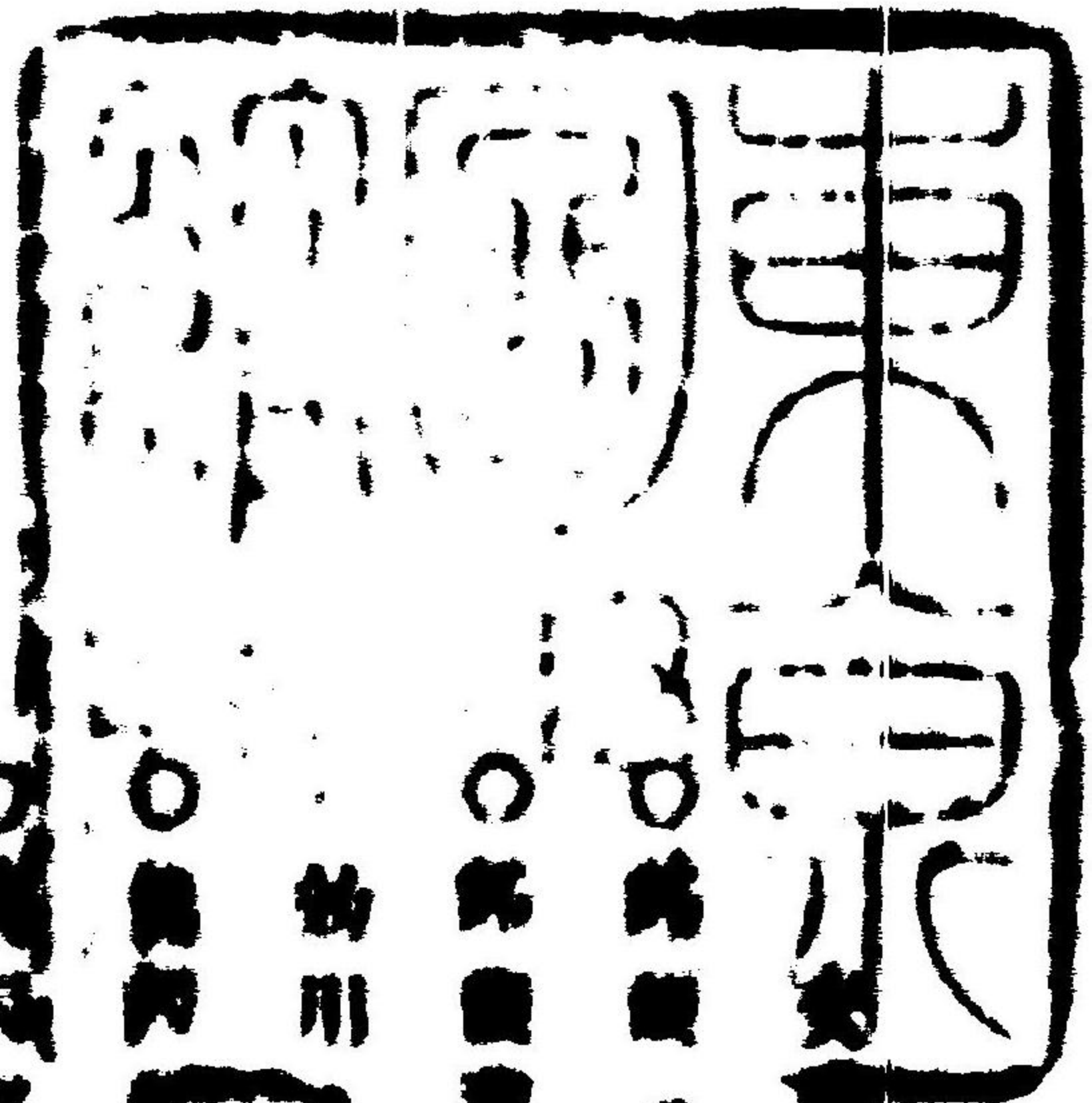


陸運局總局印行

交通公報

第六號

明治十七年十月刊行



支那公報第六號目錄

○ 陸軍、海軍、空軍、內務學

○ 郵政、電信、附屬、萬國公通ニ對スル

利用、論

○ 郵便、電信、保存、組織 (承前)

○ 郵便、電信、保存、組織 (承前)

○ 郵便、電信、保存、組織、論、爲メニ郵便物ニ

適用法、論、(承前)

○ 郵便、電信、保存、組織、法 (承前)

○ 郵便、電信、保存、組織、法 (承前)

○ 郵便、電信、保存、組織、法 (承前)

小栗栖香平譯

渡邊醇之助譯

森 則義抄譯

田村 利川譯

小栗栖香平譯

渡邊醇之助譯

小栗栖香平譯

全

明治十七年八月中央局及各出張局郵便物集配信一覽表

交通公報第六號

○郵便ニ關スル宇内文學(萬國郵便雜誌抄譯)

マルキルト驛遞局長ローバルス氏寄送

小栗栖香平譯

今ヨリ五十年前ゴースナルモノ言ヘルアリ曰ク今ヤ宇内ノ文學將コ
大ニ超ラントス一國ノ文學ハ復タ多ク之ヲ要セス各人須ラク其力ヲ
盡クシテ宇内文學ノ興起ヲ幫助スヘキナリト此言ヤ實ニ千古不拔ノ
確言ト謂フベシ氏ハ既ニ萬國交通ノ益盛大トナルベキヲ先見シ且各
國々民其隣國ノ言語產物風習制度等ヲ悉スニ至ラバ必ス亦其文學(生
活ノ鏡)ヲ熟知セント欲スルニ至ルベキヲ前知セリ
夫レ郵務ニ關スル卓見高識ハ開明諸國ノ諸大家既ニ已ニ詩以テ之ヲ
歌唱シ文以テ之ヲ表章セリ抑萬國郵便雜誌ノ字義タル宇内定時刊行

雜誌トモ稱スヘキモノナレハ此雜誌ノ餘白ヲ汚シ宇内文學ノ鏡面ニ映スル所ノ郵便制度ヲ論スルハ讀者ニ對シ最モ有益ノ事ト信スルナリ吾人ハ此目的ヲ以テ古今著名ナル學士及ヒ世間熟知ノ名書中ヨリ郵務ニ關スル言論ヲ聚集セリ其中日耳曼帝國驛遞院ノ出版セル「ボストスタームブツフ」ト稱スル著名ナル書ハ吾人ノ事業ヲ幫助スル「最モ多キ」ニ居ル而シテ此書ハ散文ト詩句トヲ問ハス苟モ郵務上有益ナル語ハ悉ク之ヲ蒐集スルモノナリ吾人ハ其他本論ニ抄出スベキ數多ノ書籍ヲ涉獵セリ其中最モ重要ナルモノ左ノ如シ

千八百七十七年第三版

郵便誌

ステフハアン著

古代交通情況

全 著

普國郵便史

全 著

萬國郵便及輕氣球郵便

フレグラル著

郵便史

ハルトマン著

郵便起立史

ローペル著

郵便鐵道氣船電信輕氣球記錄

カツプ著

藝術名辭原論

其他詩歌ノ如キハ唯時ニ之ヲ抄出スルノミ
 世界開明諸國ノ郵便法(就中現今ノ郵便法ヲ指ス)ハ皆各其消長アリ然レモ公平無私ノ讀者ハ下文ニ抄出スル諸大家ノ議論ヲ見ハ時ノ古今ヲ問ハズ國ノ東西ヲ論セス郵便ノ功益ハ盡ク人ノ認知スル所タルヲ知ルベシ其抄出スル所ノ議ハ多クハ孰レノ開明諸國ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘシ然レモ其中特ニ一國ニミ關係スルモノナキコアラズ上古及ヒ中世ニ於テハ人ノ熟知スルカ如ク現今ノ所謂郵便事務ナルモノアルコトナシ之ヲ詳言セバ一國人民ノ公用スルヲ得ヘキ郵便法

アルヲ見ズ然レモ當時既ニ現今ノ郵便法コ類似スル所ノ方法數多ノ國ニ行ハレシコトハ亦疑ナ容ルベカラズ前世紀ノ著述家ボツセルト其著書「クレイチ、スプリフアン」ニ於テ上古開明諸國ノ郵便規則ヲ論シテ曰ク郵便ノ哲學的起原ハ頗ル國家ノ起原ト密着スル所アリ(中略)人民若シ彼我ノ交際ナキ(所謂ル野蠻人民)トキハ新聞紙物品ヲ贈リ又ハ旅行ヲ爲スコトナキヲ以テ毫モ郵便ヲ要スルコトナシ然レモ人民一國ヲ組織シ勇將列國ヲ征服シ交際ノ區域漸次ニ擴張スルニ從ヒ需用品新聞紙等ノ運送知事縣令ノ旅行ヲ要スルカ故ニ郵便ハ苟クモ起ラサルヘカラサルノ事業トナルナリ若シ此等ノ事屢起リ愈々迅速ヲ要スルニ至ラバ常備ノ傳馬ヲ置カサルヲ得ズ而シテ此法漸次ニ發達シ遂ニ定飛脚法トナルニ至ル大洪水前ノ郵便法ハ之ヲ歴史ニ徵スル能ハスト雖モ當時已ニ國家ヲ組織スルヲ見レバ此ノ如キ方法モ亦恐クハ成立

ナシコトナラン勿論其法ノ現時郵便法ト相全シカラサルハ論ヲ待タサレモ郵便ノ事ニ就キ吾人ノ考察スヘキ要件ハ當初已ニ之ヲ包含セシコト明ナリ

經典及ヒ諸史ヲ案スルニ古代開明ノ諸國ニ於テハ飛脚法及ヒ官立郵便ノ一種既ニ世ニ成リ立ナシコト明瞭ナリシヨブハ無常ノ迅速ナルコトヲ郵便ニ比較シテ曰ク我光陰ノ經過スルハ郵便ノ速カナルヨリモ速カナリ光陰ハ徒ラニ經過シテ一ノ善事ヲ殘スコトナシ(ワヨブ第九章二十五節)又ニスザルノ書第八章第十節第十四項ニ曰ク而シテ彼ハアーシユニアラス王ノ名ヲ記シ王ノ環ヲ以テ之ニ封印シ騎馬郵便及ヒ驢馬、駱駝、及ヒ少キ亞刺伯駱駝ノ騎士ヲ以テ其書狀ヲ遞送セリ而シテ驢馬駱駝ヲ以テ運搬セル郵便ハ王命ヲ以テ其速度ヲ増サシメタリ云々

我救世主耶蘇基督ト雖ニ其說法中郵便ヲ以テ其比喩トナセシメテアリ
 曰ク汝ヲシテ一里ノ道ヲ行カシメントスルモノアレハ彼ト共ニ二里
 ヲ歩ムベシト馬太傳第五章四十一節又希臘經典コハ「アンガリーオン」
 ノ語アリ而シテ中世ノ終リ比マデハ「アンガリーオン」ナル波斯古語ヲ
 以テ郵便事務ノ名目トナセリ

埃及ニ於テモ古代已ニ官立郵便ノ設ケアリ歴史家ゾオドラス、シクテ
 スノ言ニ曰ク王未明ニ起キ先ツ躬ヲ各地ヨリ來レル書狀ヲ領受シ之
 ヲ讀熟シテ全國ニ起レル事件ヲ知り而シテ後百般ノ政務ヲ處斷スル
 ナリト

歴史家ノ鼻祖タル希臘人ヘロドタスハ精密ニ波斯人ノ「アンガリーオ
 ン」ヲ説明セリ其說ニ從ヘハ人世何物モ傳馬ヲ以テ繼ギ立ツル飛脚ノ
 迅速ナルニ及ブモノナシ其方ハ最初ノ飛脚ハ其書狀ヲ第二ノ飛脚ニ

遞傳シ第二ハ第三ニ第三ハ第四ニ順次ニ之ヲ遞傳スルナリゼイフオ
 ン著シシロベヂーニ依レバシロスハ騎馬郵便ヲ創設シ馬丁及ヒ傳馬
 ヲ備フル所ノ立場ヲ設ケタリ此等ノ立場ニハ一人ノ監督方アリテ書
 狀ヲ受取り又之ヲ遞送セシム波斯人カ此方法ヲ以テ重要ナル事件ト
 ナシ「アンガリーオン」長官ニ高貴ノ人ヲ任シタルハ「プルタル」ノ説明
 セル事實ニ依リテ之ヲ推知スヘシ其說ニ曰クダリアス帝ハ其帝位ニ
 上ルノ前「アンガリーオン」ノ總督ヲナセリト又「タヂオドラス」ノ說ニ從
 ヘバ波斯國ハ此外ニ留置郵便ノ一種ヲ設置セリト又同史氏ノ說ニ依
 レバ小亞細亞ニ於テハ公信ハ別仕立飛脚ヲ以テ之ヲ送致シ非常ハ狼
 火ヲ以テ之ヲ報セリエスキラスモ亦其著書アガメンノンニ言ヘルア
 リ曰クアトリユース城ノ櫓上ニハ番人アリテ狼火ヲ以テトロイノ落
 城ヲ報ズルヲ待テリト又クリテムチストラモ旅行狼火郵便ニ付テ驚

クベキ説明ヲナセリ
希臘ニ於テハ少壯ノ人ヲ以テ信書ヲ遞送セリ之ヲ日走者即チ「ヘテロ
ドロム」ト稱シ中ニハ僅々數時間ヲ以テ遠隔ノ地ニ旅行シ得ルモノ
アリタリ

此等ノ日走者ノ外ニ傳書鳩ヲ以テ書狀ヲ送致セリ「アナクレオン」ノ第
九詩ニ曰ク鳩ノ云フ我今「アナクレオン」ニ仕フルヲ以テ「アナクレオン」
ノ隸屬タリ故ニ今「アナクレオン」ノ爲メニ情書ヲ送致スルナリト
「シーサル」ノ著書「デベルロ、ガリニコ」(リブ第七)ニ記セル如ク「ゴール」ニ於
テモ波斯ト均シク留置郵便ニ類スルモノアリ「イ」明カナリ其書ニ曰
ク「ゴール」人ハ若シ珍事起ルコトアルトキハ大聲ヲ發シテ之ヲ報シ甲
ヨリ乙ニ傳ヘ乙ヨリ丙丁戊ニ遞傳スルナリト
「シーサル」ノ著書ニ從ヘバ羅馬及ヒ其領地ニ於テハ共和政治ノ比驛馬

飛脚ナルモノヲ設置シ至急ノ通信ヲ遞傳スルノ用ニ供センカ爲メ其
沿道ニ傳馬繼替場ヲ設置セリ「プリニー」ノ博物史ニ依レバ此驛馬飛脚
ノ外ニ傳書鳩郵便ノ一種アリ即チ「デシマス、ブリユー」タスハ數羽ノ鳩
ノ足ニ信書ヲ附シ敵兵ノ爲メニ圍マレタルミ「チ」ナ府ヨリ執政官ノ
陣ヘ送レリ「プリニー」之ヲ評シテ曰ク使者已ニ空中ニ飛去レリ城壁番
兵並ニ河底ニ沈メタル綱繩ハアントニアスノ爲又何ノ用チカナサン
「シユート」ニアスノ言ニ曰ク官立郵便ノ一種タル「カルサス、パブリカス」
チ羅馬帝國ニ創設セシハ「オーガスタス」ナリト當時殆ント完全ノ域ニ
達シタル道路改良法ハ實ニ該事務中ノ重要ナルモノナリキ博士「ステ
ファン」氏ハ古代貿易論ニ於テ此通信線路ヲ論シテ曰ク恰カモ大河ハ
百川ノ水源タルカ如ク羅馬ノ道路ハ左ノ五大街道ヨリ支出スルナリ
第一「カプアネーポリス」レシアム(一名「レ」ギオ)ヲ經シ「ハ」リニ渡

リカルザゴ等ニ達スル街道

第二 カプアチ經テブランヂシアム(一名ブリンヂシ)ニ至リアドリ
ア灣ヲ渡リザルニアムマセドニア等ニ至ル街道

第三 アリミナム(一名リミニ)アリイテシヤチ經テイストリアイル
リ、アパンノニア(一名ホンガリー)モ、シアズラシアピサチ
アムニ至リボスポロスチ横キリテ亞細亞ニ達スルノ街道

第四 センタム、セルレ(一名シウ)タ、ゾ、コシチアピサゼニ、アマツ
シリアナナルボチ經ビレニ、山チ越ヘテヒスパニアニ達スル

街道

第五 メヂオラナム(一名ミラン)アルプス山チ經テゴール(今ノ佛國)ブリ

ティン(今ノ英國)及ヒ日耳曼ニ通スル街道

事務ノ諸經費ハ各市ノ分擔スル所ナリ

博士フレンドランドルノ「ダルス」テハルンゲン「アウス」デルシツケンゲ
ヒテ、ロームス(書名)ニ云ク第四五世紀ノ郵便事務ハ三種アリ第一騎
馬ノ運輸人郵便行囊ヲ搭載シタル馬チ牽テ郵便物ヲ送致スルモノ第
二行客ハ別仕立馬車(レダ)ニ乘リ馬若クハ驢馬之チ牽キ軍具及ヒ貨
物ハ之チ軍車ニ乗セ驢牛ヲシテ之チ牽ガシムルモノ第三重要ナル海
港ニハ常備ノ郵便船ヲ備ヘ置キ旅客并ニ郵便物ヲ搭載スルモノ是レ
ナリ(未完)

○郵便業書ノ沿革並ニ萬國公通ニ對スル効用ヲ論ス

渡邊醇之助譯

又白耳義國代議院ニ於テモ此事項ヲ議スルノ運ニ遭遇シ一千八百七
十年五月十五日ノ決議ニヨリ距離ノ遠近ニ拘ラズ内國信書郵便稅ヲ
「サンチム」ニ減額シ且ツ五「サンチム」ノ郵便業書ヲ製造スルノ權

利ヲ驛遞局ニ授ケ其翌年即チ千八百七十一年一月一日ヨリ始メテ之ヲ實施セシメタリ然レモ此改正タル其減少ノ額非常ニ著シキヲ以テ最初ハ其流通ヲ各地方郵便局ノ圈區内ニ限リシガ其後一千八百七十二年一月一日ニ於テ白耳義王國內一般ニ郵便葉書ノ交換ヲ許可スルニ至レリ

瑞西國ニ於テモ一千八百七十年七月參議院ヨリ郵便葉書ニ關スル詳細ナル意見書ヲ聯邦會議ニ提出シ信書郵便稅ノ半額ヲ以テ郵便葉書ヲ採用センコトヲ建議セシガ全年十月一日ニ至リ右建議ニ基ツキ稅額五「ラツペン」ノ郵便葉書ヲ發行スルコト至レリ

一千八百七十一年ニ及ソテ郵便葉書ヲ發行セシ國々ハ左ノ如ク
荷蘭ハ一月一日ヲ以テ二「セント」半ノ郵便葉書ヲ發行シ全時ニ内國信書郵便稅ヲ五「セント」ニ減額セリ

又歐洲北部ノ王國殊ニ噠馬、瑞典、及ヒ那威國モ熱心ニ此事項ヲ論議シ充分ノ調査ヲ遂ケタル後噠馬ハ四月一日ヲ以テ郵便葉書ヲ發行シ瑞典及ヒ那威國ハ九ヶ月ヲ經テ二及ヒ四スク及ヒ六及ヒ七「チーレ」並ニ二及ヒ三「スク」ノ郵便葉書ヲ發行セリ

郵便葉書ノ大ニ世界萬國ニ傳播セシコトハ一千八百七十年ノ始メ「カナダ」ニ於テ此法ヲ採用シタル事實ニヨリテ明瞭ナリ

魯國ニ於テモ一千八百七十二一年一月一日ヲ以テ葉書ヲ發行シ各郵便局所在都府ノ間ニハ五「コペーゲン」ノ稅印アル葉書一市内ニハ三「コペーゲン」ノ葉書ヲ交換セシメタリ其外各國驛遞局ノ如ク亦稅印ナキ葉書用紙ヲ發行セリ(四枚ニ付一「コペーゲン」ノ價格ナリ)

亞細亞洲ニ於テモ錫蘭島ノ如キハ夙コ端書ノ交通上缺クベカラサル所以ヲ洞見シ第一ニ之ヲ發行シテ其福利ヲ享受セリ

一千八百七十二年末季ニ至リ佛國ニ於テモ十二月二日發布ノ法律ニヨリ郵便葉書ノ發行ヲ布告シ翌年一月ニ至リ二種ノ印額ヲ押捺セサル葉書ヲ發行セリ其中第一種ハ黃褐色コシテ「サンチーム」ノ印紙ヲ貼用シ一地方ニ限り交換スルモノトシ他ノ一種ハ白色コシテ十五「サンチーム」ノ印紙ヲ貼付シ郵便區ノ間ニ交換スルヲトナセリ

遂ニ亞米利加ニ於テモ郵便葉書ノ制ヲ採用スルコト至レリ即チ一千八百七十三年一月一日チリニ於テ「ゼンタボ」及ヒ「五ゼンタボ」ノ葉書ヲ發行シ尋テ北米合衆國ニ於テモ一千八百七十三年五月一日チ以テ此新法ヲ採用セリ嘗テ合衆國驛遞總官ハ一千八百七十年ノ年報中葉書ノ事ニ論及シ亞米利加ニ於テハ特ニ斯ノ如キ簡易ナル通信ノ最ニ緊要ナルヲ詳論セリ且ツ該年報ノ末項ニ言ヘルアリ曰ク余以爲ラシ此郵便葉書ハ天下公衆ノ至メ最ニ有益ニシテ之ニヨリ益々通信往復

ノ數ヲ増加スルニ至ルヤ必セリ左レハ法律ニヨリ製造費ヲ込メ總シテ「セント」ノ郵便葉書ヲ發行スルヲ允許セハ是レ國內信書郵便稅ヲ減額スルノ第一着步ナリ伏シテ希クハ此議ヲ贊成許可アラソト云々此發議ニヨリ一千八百七十二年七月八日發布ノ法律ニヨリ「セント」ノ郵便葉書ヲ採用スルヲ決定シ前文ニ記載シタル如ク遂ニ一千八百七十三年五月一日チ以テ之ヲ發行スルニ至レリ人若シ當時ノ新聞紙ヲ閱セハ當時葉書ノ需用頗ル盛大ニシテ驛遞局ハ勸モスレハ其需用ニ應スル能ハサルヲ並ニ僅々半年間ニ其賣高實ニ三百萬枚ノ多キニ達セシヲ知ルベシ

北米合衆國ト全時ニユ一「フアウ」ノ「ランド」ニ於テモ此制ヲ採川シ「セント」ノ郵便葉書ヲ製造セリ

尋テ一千八百七十三年中セル「グイア」羅馬尼及ヒ西班牙ノ諸國モ亦

郵便葉書ヲ發行セリ
 伊太利國ニ於テハ一千八百七十四年ニ至リ始メテ郵便葉書ヲ發行セリ然レモ國議ノ大ニ郵便葉書ヲ賛成シ之ヲ採用セントセシハ實ニ一千八百七十年ヨリノ事ナリ蓋シ伊太利ニ於テハ新法ヲ設定スルニハ必ズ前以テ國會ノ議決ヲ經ルヲ恒例トス然ルニ當時國會ハ他ニ緊要ノ事件ヲ討議セシカ故テ其空シク歲月ヲ送り漸ク一千八百七十三年七月二十三日ニ至リ十「セ」デシ「ミ」ノ郵便葉書ヲ發行スル旨ヲ全伊太利國及ヒ其各島ニ布告セリ

日本及ヒガアテマラハ一千八百七十五年希臘國ハ一千八百七十六年ノ一日ニ及ンデ郵便葉書ヲ發行セリ

都テ今日ニ至ル迄郵便葉書ヲ發行セシ國々ハハイアルン、白耳義、カナダ、錫蘭、シク、噠馬、獨逸、全帝國、ヒンランド、佛蘭西國、希臘、大貌列嶺、グアテ

マラ、ヘルゴランド、伊太利、日本、歷山堡、ユニー、フアウンドランド、タイウ、ドワールス、ニーデルランド、荷蘭領印度、那威、奧斯太利、ルイメニオン、魯西亞、瑞典、瑞西、セルビエ、ン、シヤンガイ、西班牙、尼亞、匈牙利、北米合衆國、ウ、ルテンベルクノ三十余國ナリ(未完)

○佛國郵便電信省ノ組織(承前)

森 則義抄譯

事務章程

官房及庶務局

第一 官房

(一) 本務

○受付ノ「」○往復ノ「」○卿官印保管ノ「」○面謁者取扱ノ「」○樞密事務取扱ノ「」○他局ニ關セサル諸般ノ事務ヲ調理スル「」○規則立案ノ「」○元老院代議院及參事院ト本省トノ關係ヲ調理スル「」○代議院委

員會ニ差出スヘキ書類ヲ蒐集スルヲ○法令ヲ頒布スルヲ○官報及法令類集出版社トノ關係ヲ調理スルヲ○郵便電信統計ノヲ○萬國郵便總理局ニ進達スヘキ年報取調ノヲ○驛遞電信省類集法規刊行ノヲ○電信郵便事務ニ關スル書類刊行配分ノヲ○書籍室管理ノヲ○記錄室管理ノヲ

(二) 訴訟

○郵便電信兩事務ニ關スル葛藤ヲ取調フルヲ○本省又ハ官吏ニ對スル民事被告事件ヲ取扱フヲ○本省又ハ本省官吏ニ代リ起訴スルヲ

(三) 內務

○卿官宅及其附屬建物ヲ監督スルヲ○省中屋舍營繕保存ノヲ○動産貯藏ノヲ○動産ノ目錄ヲ調製スルヲ○煖爐點燈等ヲ設クルヲ○職員被服ノヲ○至急雜費支拂ノヲ○公用物品即チ筆墨紙等給與ノヲ○印

刷ノヲ

第二 庶務

第一課

○萬國聯合電信條約及外國政府若クハ外國私立會社トノ電信定約ヲ準備解説締結スルヲ○萬國聯合電信諸規則及聯合音信稅額表ノ實施ヲ監督スルヲ○外國郵便及電信局ト往復ノヲ○萬國聯合音信稅額ヲ規定スルヲ○內國及諸外國間ニ海底電線ヲ設置スル諸會社トノ關係ヲ調理スルヲ○私報電線電話線ノ私設ヲ許可スルヲ○右ニ關スル條約ヲ締結スルヲ○海陸電信會社ト約條ヲ締結スルヲ○電線警察及政府專業ニ關スル千八百五十一年十二月二十七日ノ布告ヲ實施スルヲ○公共或ハ一地方限リ共立ノ鐵道會社或ハ鐵道馬車會社其他特許ヲ得タル會社ノ事業ヲ監督シ及其工事仕用帳ヲ檢査スルヲ○右會社ノ

營業ニ要スル電線ノ架設ヲ許可スルヲ○外國郵便電信局ノ制度及改革等ヲ研究スルヲ○右ニ關スル書類翻譯貯藏ノヲ

第二課

○郵便電信事務ニ關スル不動産買上ノヲ○貸附家屋地所等ヲ取上ケ又ハ借用人ヲ更迭スルヲ○事務上不用ノ不動産ヲ官有物管理局ニ返還スルヲ○郵便及電信局配置方取調ノヲ○郵便電信局ヲ開設スルヲ○借家料ヲ支拂フヲ○郵便及電信局用地所借入ニ付郡區役所其他官民ニ對シ條約ヲ締結スルヲ

職員局

(一)本省各縣事務局及郵便電信局主務任命ノヲ○任命及昇級ノヲ○開則ノヲ○候補者試験ノヲ○身元保証金ノヲ○昇級試験ノヲ○計算掛引負ノヲ○賞與勳章ノヲ○國庫及軍隊屯在地往復事務ノヲ○學科實

科教習管理ノヲ

(二)技術部掛長及副掛長伍長上等書記書記補及員外任命ノヲ○員外書記補募集試験ノヲ○鉄道乗車切手引替貸與取戻ノヲ○賜休暇ノヲ○本省ニ關係ノ布告布達決判ノ書類ヲ貯藏スルヲ○右ノ書類ヲ騰寫シ並ニ之ヲ通牒スルヲ○旅費一切ノ臨時費額ヲ檢査スルヲ
(三)下等官吏ノヲ○募集任命責罰ノヲ○増給ノヲ○恩給ノヲ○手當金及救恤金ノヲ○藥劑手當ノヲ
(四)軍用電信ノヲ○陸軍卿トノ關係ヲ調理シ且分隊ヲ編成スルヲ○教授ノヲ○演習ノヲ

材料及營繕局

第一課 (電信架設及保存)

○電信架設ノヲ○全費用豫算書檢査ノヲ○全指令ノヲ○全材料遞送

ノ一〇電線架設ニ付被害人民ト示談ノ一〇鐵道用電線架設ノ一〇一
 地方共立會社ト約定ノ一〇公用及縣郡用電線架設ノ一〇航海用電線
 架設ノ一〇電線ニ名稱ヲ附スル一〇職工ノ給料ヲ定ムル一〇全監督
 ノ一〇電線不通ノ箇所ヲ搜索スル一〇私設電線ニ關スル約定實施ノ
 一〇入札ノ一〇電線材料買上并ニ注文ノ一〇全仕用帳ノ一〇請負人
 及用達身元保証金ノ一〇電信柱貯藏ノ一〇軍用電信材料ノ一〇特別
 材料注文貯藏保存ノ一〇被服裝具給與ノ一〇

第二課 (特別電線架設及保存)

〇地中電線ノ埋設並ニ保存ノ一〇海底電線ノ一〇介線(海底電線)沈設
 及修繕ノ一〇官設海底電線沈設ノ一〇請負人ト約定ノ一〇船舶入港
 報知用電線ノ一〇ツローン府修繕局ノ業務監督ノ一〇海底電線用船
 舶保存ノ一〇排氣線ノ一〇市内電報配達用排氣線架設ノ一〇特別線

(電話機用等)架設ノ一〇地中線海底線排氣線其他特別電線用材料入札
 注文買上ノ一〇仕用帳カイセツレヤルシユノ一〇請負人及用達身元保証金ノ一〇取調并
 ニ改良ノ一〇材料改良委員ノ報告取扱ノ一〇

第三課

(一) 器械ノ部

〇諸器械買上注文備附ノ一〇材料買上ノ一〇諸器械遞送方命令ノ一〇
 〇巴里府及諸縣材料倉庫物置場營繕ノ一〇諸器械保存修繕ノ一〇機
 關手募集及教習ノ一〇工事請負人並ニ用達トノ定約書準備ノ一〇諸
 局試驗用器械等注文ノ一〇買上物入札並ニ請負人落札人身元保証金
 ノ一〇

(二) 屋舎ノ營繕保存、動産、郵便局材料被服、印刷物ノ部

〇工事請負人及用達トノ約定書準備ノ一〇工事ノ實施、諸局ノ屋舎及

動産保存修繕ノヲ○巴里府内用馬車新調保存及其誘導方等ノヲ○工
事監督及落成工事受取ノヲ○筆墨紙其他共給物品及印刷物注文ノヲ
○下等吏員ノ被服裝具給與ノヲ○市内外郵便函遊遷局用行囊製造保
存ノヲ

(三) 金銀及物品計算ノ部

○請負人へ支拂ノヲ○材料ニ關スル費用決算ノヲ○物品計算ノヲ○
吏員懲戒ノヲ○取調並ニ改良ノヲ

駐在事務管理局

第一課 (諸局駐在事務)

○駐在局事務組織ノヲ○本官員外書記補及監守等ノ職務規定ノヲ○
郵便電信諸局ノ組織及事務ニ關スル規則規定ノヲ○郵便電信ニ必要
ナル人員及事務時間ヲ定ムルヲ○郵便電信局ノ階級ヲ定ムルヲ○全

ク昇降ノヲ○受附窓配付ノヲ○臨時湯治場定時市場常市場陸軍野營
其他演習ノ地ニ開設ノ事務ヲ整理シ費用ノ決算ニ關スル處分ノヲ○
受付窓ニ於テ郵便切手賣下ケノヲ○郵便切手賣下人(煙草賣下人ヲ兼
ス)監督ノヲ○書留郵便物差出方留置方並ニ受付窓ニ於ケル配達方ニ
關スル事務規定ノヲ○監督官吏ノ検査手續書取調ノヲ○事務長郵便
局主務取扱人ノ請負經費額及主務補助費額ヲ定ムルヲ○各局點燈ノ
ヲ○吏員ニ支給スヘキ夜業費ノヲ○監督副監督及配達夫伍長ノ巡回
費額ヲ定メ且ツ之ヲ支拂フヲ○配達夫伍長裝具費ノヲ○主務開局費
用ノヲ

第二課 (電信遞送方)

○電線交通ノ順序及使用ノ方法ヲ定ムルヲ○電線圖ヲ製スルヲ○公
私通信順序訓令ノヲ○中央部ヲ定ムルヲ○電信局内遞傳事務(本省郡